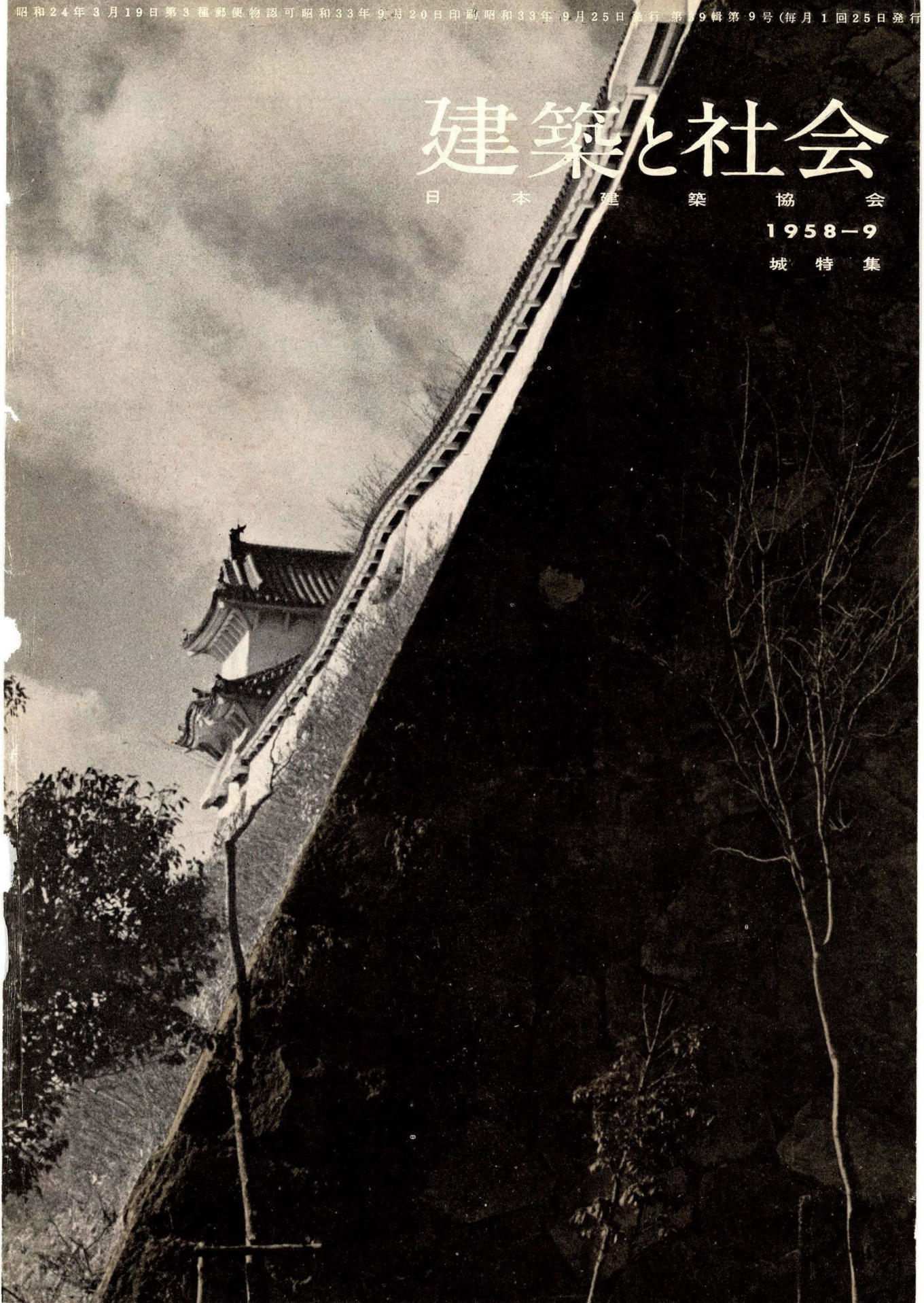
昭和24年3月19日第3種郵便物認可昭和33年9月20日印刷昭和33年9月25日発行 第11巻第9号(毎月1回25日発行

建築と社会

日本建築協会
1958—9

城特集



明るい床材
三星プラスタイル



三星アスファルトタイル
三星Pタイル（2耗厚）
三星マチスタイル

規格　寸法　12"×12"　厚サ　1/8"
又ハ　9"×9"　又ハ3/16"
価格一面坪 2,300円 ～ 4,800円(材工共)

三星の弾性床タイルは何れも製法の専売特許品で、日本の多湿多雨の氣候でも優れた性能をもつ、舶来品の追随を許さない製品です。

●屋外には使用出来ません

●各製品毎のカタログ見本
技術報告書を御請求下さい

◆ 特　徴

施工後故障が少い・工期が早い
価格が手ごろである・手入掃除が簡単
色彩が自由に選択出来る・永持ちする

三星ルーフイングの

田島応用化工株式会社

東京・東京都足立区小台町633　TEL 王子(91)代表1181
大阪・大阪市西区京町堀上通1～14　TEL 土佐堀(44)代表0810

LIGHTGAGE STELL

(ライトゲージ)
軽量形鋼

簡易鋼矢板
(トレンチシート)

理想的不燃建築材

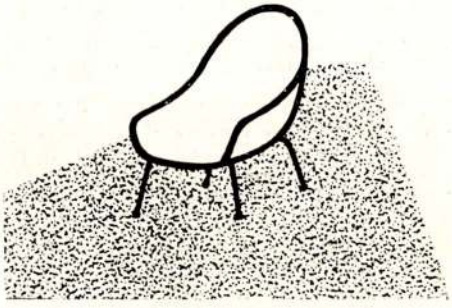
耐火　耐震・耐久
鋼材使用量の軽減
取扱簡易・工期短縮

我が国唯一の設備
連続式冷間整形
ロール機による優秀製品

ガス・水道管等の
地下埋没工事の仮土止
河川工事の締切・干拓
及び護岸工事に最適

中之島製鋼株式会社
大阪市東区北天町4番地 TEL東(94)5031~5

皆様の設計と施工に東洋の床材



リノリューム
リノタイル
ビニール系新製品
ビニラートタイル
ビニール製
スポンヂシート

◇ソフトな感触
◇優秀な耐久力
◇美しい色彩

カタログ進呈

東洋リノリューム株式会社
本社工場　兵庫県伊丹市伊丹558
電話伊丹(代)3531・大阪(48)4490
東京支店　東京都中央区銀座4丁目三和ビル
電話京橋 ㊺ 1701・2564
大阪事務所　大阪市東区瓦町2丁目三和ビル
電話北浜 ㉓ 0375～0379



阪神百貨店納エスカレータ

近代感覚の
先端をゆく！

日立のエスカレータ

近代感覚ゆたかな、建築の美しさと調和のとれた室内設備は建築の機能を十分に生かすとともに快よい雰囲気をかもしだします。
日立のエスカレータは、斬新なデザインと精巧な機能を備えており、建築に新鮮な息吹きを表現するエスカレータとして、多くの方面から御好評をいただいております。

……エレベータ
……ダムウェータ

日立製作所

N-04

特　許

平川-MPボイラ

煙管式ボイラの「革命兒」現る！

経費節減 527万円の利益を生む

☆高性能・輻射型
☆石炭・オイル・ガス焚
☆1年間(7200時間)の燃料節約額

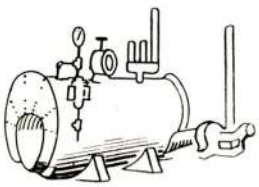
7′×30′ランカシヤボイラと比較して

527万円益

(但し E.E.2000kg/hr.
6000カロリー石炭6000円/屯
1日24時間1月25日として)

大阪府立工業奨励館
公式試験成績

汽缶効率 81.2%
石炭焚にて
排ガス温度 197℃



◁営業科目▷ 平川～水管ボイラ、平川～機関車型ボイラ
平川～竪型ボイラ、外ボイラ全般・輸送機械

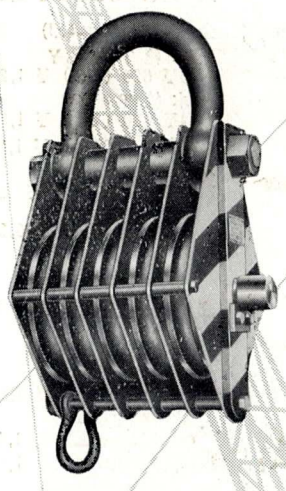
株式會社 平川鉄工所

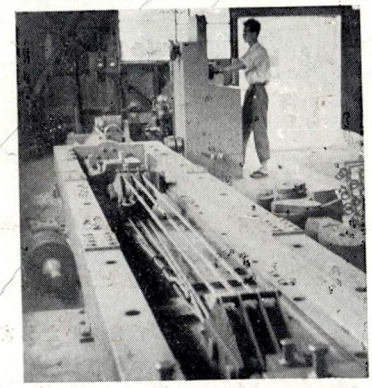
本社・工場　大阪市大淀区大仁西2の1　電話福島㊽1975－8
東京営業所　東京都中央区八重州6の7　電話㉕5883・7787－8
九州出張所　福岡県小倉市富野545　電話　小倉⑤1362

強力型 重荷用 鉄ブロック スナッチ

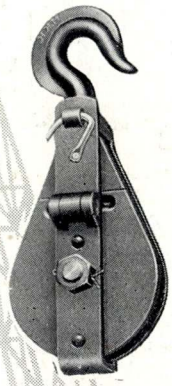
MKK

技術・性能・信用を誇る
安全度の高い





アムスラー油圧式横型引張試験機
（日本海事協会検定No. 3788）
製品は本機によって試験す



御用命は全国有名土木機械工具
金物店へ御照会願います

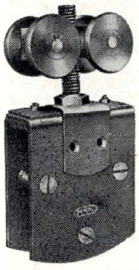
MKK

ドアーハンガー

本邦唯一の長尺レール {12尺 / 9尺



特長 在来の市販6尺レールに較べ継目が最小限度にすみ数多の継目によって、とかく運行の円滑と簡易取付を欠く憂いを解消し扉が軽快に操作できる。



種　目

トラックレール　ガイドレール　カーブレール

木製扉用（スチールボール スチールローラー入）複車・単車ハンガー

鉄扉用　軽 50㎜, 60㎜, 70㎜

その他ブラケット附属品一切

御用命は全国各地有名建築金物店へ御照会願います　　カタログ進呈



店舗、工場、倉庫、ガレージ
格納庫、間仕切用

株式会社 三谷製作所
東京都足立区高野町二一八番地
TEL　足立(88) 4048・4239

東陶の衛生陶器と付属金具

L-92 に代る

L-220

オパール
OPAL



ビル・アパートはもとより一般住宅

にも御採用頂けるよう寸法や価格の点では従来最もよく

Toyotoki 御愛用頂いていた製品L－９２を基準として考慮いたしました。

定　価

陶　器(１級)L 220 ¥ 2,900

金　具（Toyotoki印）

立水栓 T２０５Y
@¥ 600（２個） ¥ 1,200

止水栓 T４AY
@¥ 670（２個） ¥ 1,340

排水金具 T6P ¥ 1,210

バックハンガ
取付木ネジTL 220D ¥ 200

計 ¥ 6,850

参考定価

陶　器(並級)L 220 ¥ 2,320

金　具（TTK印）

立水栓 K２０５Y
@¥ 510（２個） ¥ 1,020

止水栓 K４AY
@¥ 570（２個） ¥ 1,140

排水金具 K 6PC ¥ 1,030

東洋陶器株式会社

本　社
小倉市篠崎町４５８
ＴＥＬ ⑤ 2481～5

大阪営業所 大阪市東区伏見町５の３ ＴＥＬ ㉓ 4518～9
各地営業所 東京・名古屋・小倉・広島・高松・札幌

茅ケ崎工場
神奈川県茅ケ崎市
ＴＥＬ 2105～8

ビニール製 壁・襖貼材料

ロンフイックス

床材料の決定版！

ロンリウム

（ビニール製）





特殊加工がしてありますから，どんな糊でも
又素人でも容易に貼れます。
インク，油，手垢等の汚れも石鹸水できれい
にとれて水拭が可能です。 （特許出願中）

東京地下鉄・東急，新車に使用されています。
それは感触が柔らかく，手入れが簡単でしか
も毎日多数の乗降者に耐え得る等その特性が
他の床材より優れている事が認められたから
です。
標準寸法幅6尺×長30碼×厚2.5粍（１巻15坪）

川口ゴム工業株式会社

東京都葛飾区本田四ツ木町54 電話葛飾（69）1946—9
（全国有名内装工事店に御照会下さい） （カタログ贈呈）

九　州　支　部　長　新　任

本会九州支部では支部長が欠員中でありましたが，このたび下記のとおり新任されました。ここに会告申し上げます。

九州支部長　小　栗　治　平　君（福岡県建築部長）

各種説明会の開催について

本会では従来から，建築材料，機械工具，工法などについての説明会，講演会などを随時開催して，これらに関する智識の普及，利用の促進に努めて参りましたが，今後さらにこれについての活動を活発にするため，このたび「各種説明会の開催に関する内規」を定めました。説明会，講演会などの開催を希望される向は，詳細を本会事務局に御照会下さい。

社団法人　日本建築協会

昭和33年9月　会と催

昭和33年第2回若い会員の集い

しばらく中休みの状態となつていました〝若い会員の集い〟を9月から再開いたします。今回からは去年の方法とはやや趣向を変え，会員相互の親睦と交流とをはかることを第1の目的として，出来るだけヴァラィティに富む企画で進めるつもりです。

とりあえず9月（第2回）は若い会員層の身近かな問題として，民間共同住宅の見学と批評の会を催します。何卒多数ご出席下さるよう願います。

記

1. と　き　9月18日（木）午後2時（集合）—5時（解散）
1. ところ　阪急電車西宮北口南出口前
1. 見学建物　（見学順）伊藤忠商事西宮荘→竹中工務店家族寮→倉敷レイヨン西宮第3アパート
1. 申　込　15日までにお申込み下さい。但し定員（50名）に達した時は〆切ります。

若い会員の集い
民間共同住宅見学
—（建物概要）—

▶ 伊藤忠商事KK西宮荘

設　計　（株）大阪建築事務所（石中達雄）
施　工　栄和建設KK
所在地　西宮市両度町1
構造・規模　鉄筋コンクリート造4階建
1棟24戸　1戸当面積　18.82坪
1戸当専用面積　17.01坪
建築面積　1階　109.78坪
2階　110.96坪
3階　110.96坪
4階　110.96坪
屋階　8.89坪
延面積　451.55坪
工期　昭和32年8月—33年3月

▶ 竹中工務店西宮北口家族寮

設　計　（株）竹中工務店（岩本博行）
施　工　（株）竹中工務店
所在地　西宮市両度町
構造・規模　鉄筋コンクリート造・地下1階地上4階
建築面積　建坪100坪　延坪約460坪

▶ 倉敷レイヨン西宮第3アパート

設　計　倉敷レイヨンKK営繕部（松村慶三）
施　工　KK竹中工務店
所在地　西宮市両度町1—27
建物延面積　607.79坪
構造規模　鉄筋コンクリート，ラーメン構造，コンクリート打破し5階建1階はピローテイ構造

読売テレビ放送株式会社見学会

1. と　き　9月17日（水）午後2時（集合）－4時（解散）
1. ところ　読売テレビ正面玄関前（市電河内町電停南入るすぐ）
1. 申　込　15日までに申込みのこと，定員（100名）に達した際は〆切ります。同業者は申込みお断りします。
1. **建物概要**

設計・監理・施工　清水建設株式会社
所在地　大阪市北区岩井町2—16
工　期　昭和33年2月27日着工—7月31日竣功
構造・規模　鉄筋コンクリート造，地下1階地上3階
建築面積　建坪 542.3坪　　延坪 1,428.7坪
敷地面積　800坪

讀売テレビ放送KK
見学会
大阪府建築士会と共催

有楽ビルディング見学会

1. と　き　9月19日（金）午後2時（集合）～4時（解散）
1. ところ　有楽ビルディング8階大食堂
   ▶ 〆切　17日　　▶ 定員100名
1. **建築概要**

設計・監理　三菱地所KK
施　工　大成建設KK
位　置　大阪市東区内本町4丁目
工　期　着工　昭和32年3月1日
　　竣功　昭和33年6月30日
敷地面積　394.51坪
建築面積　338.38坪　　延面積　3,414.59坪
構造・規模　鉄骨・鉄筋コンクリート造。地下2階，地上8階
建物の用途　銀行，貸事務所

有楽ビルディング
見学会
大阪府建築士会と共催

武田薬品工業株式会社研究所見学会

1. と　き　9月24日（水）午後2時（集合）～4時（解散）
1. ところ　武田薬品工業株式会社正門前
   （阪急電車・十三駅下車5分阪急神戸線ぞひ）
1. 申　込　20日までに申込みのこと。（定員100名）同業者は申込みお断りします。
1. **建築概要**

設計・監理　双星社竹腰建築事務所
施　工　株式会社　大　林　組
所在地　大阪市東淀川区十三西之町4—54武田薬品工業大阪工場内
建築面積　648.5坪　　延建築面積　3,658.7坪
構　造　鉄筋コンクリート造地下1階，地上6階，塔屋2階
高　さ　標準地盤より　軒高 76.5尺　　塔屋 100尺
　　広告塔 156.8尺
階　高　地階 16.5尺　　1～6階 12.0尺

武田薬品工業KK
研究所見学会

醍醐寺と日野法界寺
見学会

昭和33年第1回古建築見学会

醍醐・日野の古建築を見る会

（醍醐寺と法界寺見学会）

1. と　き　9月28日（日）午前10時（集合）～5時（解散）
1. 集合所　醍醐寺門前（集合時間厳守のこと）

参考：醍醐寺へは京都京阪三条駅前より，醍醐・六地蔵行のバス（市バス・京阪バス）に乗車，醍醐寺門前にて下車。あるいは京阪宇治線六地蔵駅下車，山科行（京阪三条経由）のバスに乗車が便利です。大阪からは，京阪電車で中書島駅で乗換え前記の行程によって下さい。交通費は大阪天満より往復約250円です。

1. 申　込　20日までに会費（150円・拝観料その他）を添えてお申込みのこと。
1. 昼　食　は各自持参のこと。
1. 現地解説者　杉山信三氏（奈良文化財研究所）

醍醐寺は元慶元年（877）ごろ聖宝上人開創の密教寺院で笠取山上の上伽藍と同山麓の下伽藍からなり，上下あわせて建築・彫刻・絵画に多くの優品が所有され，そして四季を通じて風光にめぐまれた由緒の深い寺院である。下伽藍の国宝五重塔は天暦6年（952）に落慶供養されたもので平安時代塔婆の代表例で形態の美をもつて知られる（全高119.4尺）。来年10月の完成を目ざし現在修理組立中の現場をたずね古建築修理の状況を見学の予定。その他，金堂（もと紀州湯浅に12世紀後半に造立され，慶長5年（1600）当寺に移建，国宝），清滝宮本殿（室町時代，重文）そして三宝院の唐門（国宝），表書院（国宝），純浄観（重文），宸殿（重文）――いずれも慶長3年（1598）秀吉の醍醐の花見に関連して造立され桃山時代書院造住宅の優例――は障屏画や庭園とならんで有名である。また上伽藍には清滝宮拝殿（室町時代，国宝），薬師堂（平安時代，重子），如意輪堂（桃山時代，重文），そして開山堂（桃山時代，重文）の諸建築がある。

日野法界寺は醍醐の南，近傍に所在し，平安時代の中頃，日野資業の創立と伝え，現在薬師堂（室町時代，重文）と阿弥陀堂（国宝）がのこされてあり，なかでも後者は方五間の堂で軽快な方形屋根を冠した外観の美しさを誇り，その造立年時に問題をのこしているが，宇治平等院鳳凰堂とならんで阿弥陀堂建築の代表作といわれる。

紅葉の時期にはまだ早いが醍醐や日野の里に平安より桃山にいたる名建築を訪ね秋色を楽しもうというわけである。

学術講演会

学　術　講　演　会

坂静雄氏は本年ベルリン市における国際プレストレストコンクリート協会第3回大会に出席，5月29日に帰国されましたので下記のとおり講演会を開催いたします。何卒多数ご出席下さい。

記

日　時　9月13日（土）午後2時より
場　所　大阪建設会館6階会場（天神橋南詰大阪郵政局向側）
演　題　ドイツの建物
講　師　京都大学工学部教授工博　坂　静雄氏
共　催　日本建築学会近畿支部，大阪府建築士会

第2回建材工場見学

サンロイド・サンメタル工場を見る会

（筒中セルロイド株式会社柏原工場見学会）

サンロイド・サンメタル工場
見学会

1. と　き　9月20日（土）
1. 集合所　①　本会前（集合）午後1時30分
　②　上六近鉄北側公園　午後1時40分
1. 行　程　本会前午後1時30分出発→筒中セルロイド柏原工場（見学）→大阪駅西口5時頃解散。
　全行程は，筒中セルロイドK.K.御提供の貸切バスを利用いたします。
1. 申　込　15日までに申込のこと，但し予定人員（40名）に達した時は〆切ります。
　・同業者の方はお申込みをお断りします。

筒中セルロイドKKについて……同社は大正6年筒中セルロイド工業所として創立され，輸出向セルロイド玩具の加工販売を経営し，大正12年新製セルロイド生地の製造に移行し，さらに昭和27年斯界に先んじて硬質塩化ビニール板（商品名サンロイド）の製造を開始し，最近サンメタルA（硬質塩化ビニール板とアルミニウム板とを強力に接着した合板）を発売し，斯界の好評を博している。同社の本社，工場，営業所，出張所は下記の通りである。

本　社	大阪市東区南久太郎町2の7
東京出張所	東京都台東区浅草菊屋橋2の4
今里営業所	大阪市東成区大今里南之町1の53
工　場	大阪府中河内郡柏原町大字片山438

第3回建材工場見学

バイブレーションローラその他の工場を見る会

（ダイハツ工業株式会社本社工場見学会）

バイブレーションローラ
工場見学会

1. と　き　9月27日（土）午後2時集合
1. 集合所　ダイハツ工業（株）本社工場正門前（案内図参照）
　（大阪市大淀区大仕東2—3）
1. 申　込　20日までに申込みのこと。同業者は申込みお断りします

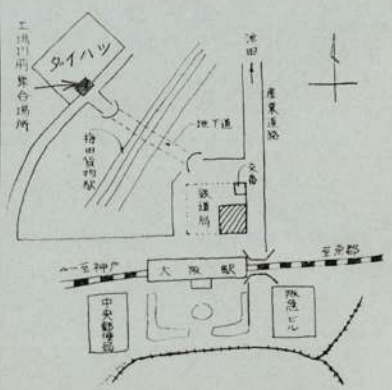
ダイハツ工業株式会社本社工場について……ダイハツ工業株式会社は，内燃機関の製作を目的として発足してより本年で51年を経ました。古い伝統と新しい技術を誇る会社であります。今回見学する本社工場では，ディーゼル機関・NHNドァーチェック・バイブレーションローラ等を製造しています。

ディーゼル機関：陸用・舶用の2種類に別れ，"性能の卓絶" "価格の低廉" をモットーに国内はもちろん海外にも輸出している。

"NHN" ドァーチェック：この製品は広く識られ，全国ドァーチェックの半数以上を生産している。

バイブレーションローラ：当社のディーゼル機関を原動機としたロードローラで従来のローラのように自重にたよらず，振動力によって土の締め固めを行い，小形軽量でしかもその力が深部に及び，良好な締め固め効果がある。

ダイハツ工業株式会社本社工場案内図



本　社	大阪市大淀区大仁東2丁目3	福岡営業所	福岡市馬場新町74
大阪事業部	大阪市大淀区大仁東2丁目3	札幌出張所	札幌市南七条西3丁目7
東京事務所	東京都中央区日本橋本町2丁目7	名古屋出張所	名古屋市中区大池町2丁目33

伸銅品・建築用真鍮型材工場見学会

三宝伸銅は……当社は昭和10年設立され，伸銅品（主として銅，真鍮の棒，板）の製造をもつて開始し，昭和12年以降逐年軍需の増大と共に増資，設備の拡充を行つた。

終戦後さらに銅及銅合金の板，条管，棒，線，円板等全伸銅品の生産設備を新設し，内需は勿論国外輸出にも相当量の実績を挙げ，今日では国内伸銅業者約200社中常に最高位の輸出実績を挙げている。他に建築用真鍮型材（ノンスリツプ，メジ，コーナービードカーテンレール）SS管，脚立，梯子，椅子，テーブルの製造販売を行つている。

当社の本社，工場，営業所は下記の通りである。

本社工場　堺市中生島町4の37
東京出張所　東京都中央区日本橋茅場町2の8
大阪販売店　大阪市南区問屋町10
今里販売店　大阪市東成区大今里南之町2の171

第4回建材工場見学

伸銅品及建築用真鍮型材工場を見る会

（三宝伸銅工業KK堺本社工場見学会）

1. と　き　10月11日
1. 集合場所　本会前（集合）午後1時
1. 行　程　本会前午後1時出発→三宝伸銅堺工場
見学→大阪駅西口5時頃解散。
全行程は三宝伸銅K.K.御提供の貸切バスを利用いたします。
1. 申　込　9月末日までに申込みのこと。但し予定人員（60名）に達した時は〆切ります。
同業者の方はお申込みをお断りします。

第5回鉄筋コンクリート技能講座

第5回鉄筋コンクリート技能講座

1. 対　象　鉄筋コンクリート工事に携る技能者（現場係員，工長，2級建築士受験者の程度）
2. 会　期　――（講　義）――
10月 6，7，9，10，13，14（6日間）午後6時～8時（2時間）
――（実　習）――
10月20日～10月22日の3日間午後2時～4時　於大阪生コンクリートK.K.佃工場
3. 会　場　（講義）大阪建設会館6階集会室（東区京橋3丁目天神橋々詰）
4. 申　込　9月25日迄に受講料（会員800円，会員外850円，但しテキスト代を含む）を添えて本会事務局へ申込のこと。
（定員100名）
5. 講義の日程・科目・講師

日　程	科　目	講　師
10月6日(月)	材料(水と混和剤を含む)	大阪市立都島工高教諭　益尾　辰雄氏
10月7日(火)	試　験　法	大阪大学教授工博　奥島　正一氏
10月9日(木)	調　合	株式会社　大林組　谷口　尚武氏
10月10日(金)	工　法	株式会社　大林組　寺沢　一夫氏
10月13日(月)	工　法	清水建設KK大阪支店　金子　豊氏
10月14日(火)	特　殊　工　法	株式会社　竹中工務店　笠原　正幸氏

第2回現場管理実務講習会

本会では昨年9月～11月の長期に亘って，学校を卒えて始めて建築の職場についた若い技術者を対象とした標記講習会の第1回を開催いたしましたところ，たいへん賛辞をいただきました。本年は昨年の経験を基として下記要項により，10月，11月の2カ月に亘って開催いたします。何卒会員各位の御協力をお願い致します。

現場管理実務講習会要項

1. **目　的**　学校を卒業し新に採用された技術者を対象として学校教育における一般知識の不足を補い，現場実務において直ちに役立つ実際的知識を，各方面におけるそれぞれのエキスパートによる一連の系統的講習によって会得せしめ，従来の長期を要した経験的知識の習得期間を短縮し，かつ確実に把握せしめることによって，より有用な技術者を養成しようとするものである。
2. **対　象**　本年4月高校を卒業し採用されたもの，すなわち6カ月の実務経験者を主たる対象とする。
3. **会　期**　昭和33年10月2日—11月29日毎週(火曜・木曜・土曜)3日毎日・2時間（午前9時—11時）延25日間（50時間）
4. **会　場**　大阪建設会館6階集会場（大阪市東区京橋3丁目）
5. **申　込**　9月25日までに申込書に受講料（¥ 1,800円）を添えて本会事務局（大阪市東区北浜3—37・但し市電北浜2・3丁目電停中間北側）へ申込のこと。尚会場の都合により定員（120名）に達した際は〆切ります。
6. **月日・科目・講師**

月　日	科　目	講　師（敬称略）
10月2日	建築工事の着工から竣功迄の業務誌論（契約，支払などの事務手続を含む）	大阪市調度課　田中三郎
10月4日・10月7日	現場に関する諸法規とその手続	(株)大林組工務部　浅野繁雄
10月9日・10月11日	建築労務者の管理	大成建設(株)大阪支店総務係長　野村増治
10月14日・10月16日	現場における危険防止，災害予防とその措置	(株)竹中工務店労務課長　堤東一郎
10月18日・10月21日	仮設物と仮設材料の管理	(株)松村組監査役　政岡基次
10月25日・10月28日	機械器具，工具類の管理	(株)竹中工務店大阪工作所機械課長　楠瀬泰雄
10月30日・11月1日	材料の検収とその管理	(株)鴻池組事業所主任　横山裕
11月4日・11月6日	土工事，基礎工事，排水工事の施工と管理	(株)森組取締役　渡辺秀幸
11月8日・11月11日	鉄筋コンクリート工事，鉄骨工事，防水工事の施工と管理	清水建設(株)工事主任　鬼頭寿郎
11月13日・11月15日	木工事，屋根工事，金属工事，雑工事の施工と管理	鹿島建設(株)建築部長　岩下久哉
11月18日・11月20日	石工事，タイル工事の施工と管理	(株)藤木工務店工務部長　矢野豊作
11月22日・11月25日	左官工事，塗装工事の施工と管理	(株)銭高組技術部長　七尾健三
11月27日・11月29日	設備工事の施工と管理	(株)大林組建築部次長　高橋誠義

7. **現場見学**　（新歌舞伎座，マンモスアパート）

昭和33年9月　教育委員会委員長　奥島正一
同現場管理実務講習会主査　岩下久哉



富　　山　　城

施　　工

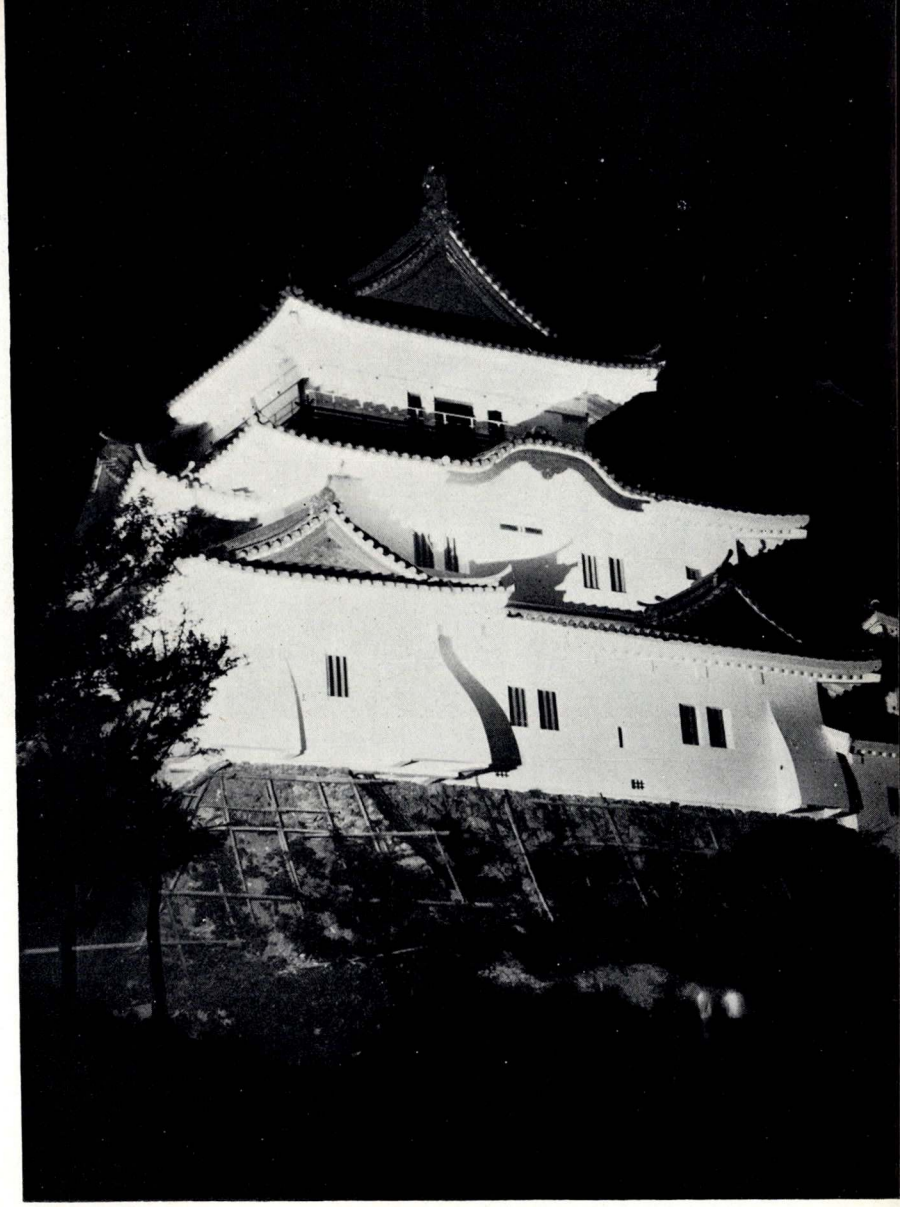
株式会社　大　　林　　組

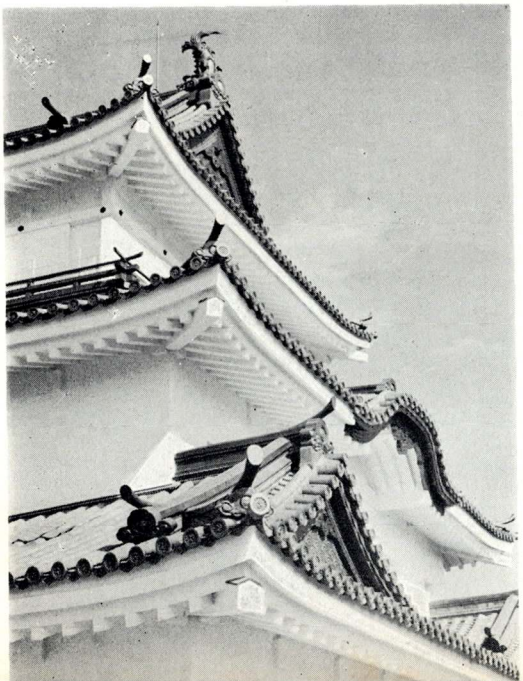


広　　島　　城

監　理　広島市建設局営繕課
　課　長　松田　実
　現場監督　松本正夫
　〃　飯田貫一
　〃　赤川章
設　計　石本建築事務所

施　工　株式会社　藤田組広島支店
　主　任　新本幸雄
　後藤守人
　三輪昇
　吉岡武久

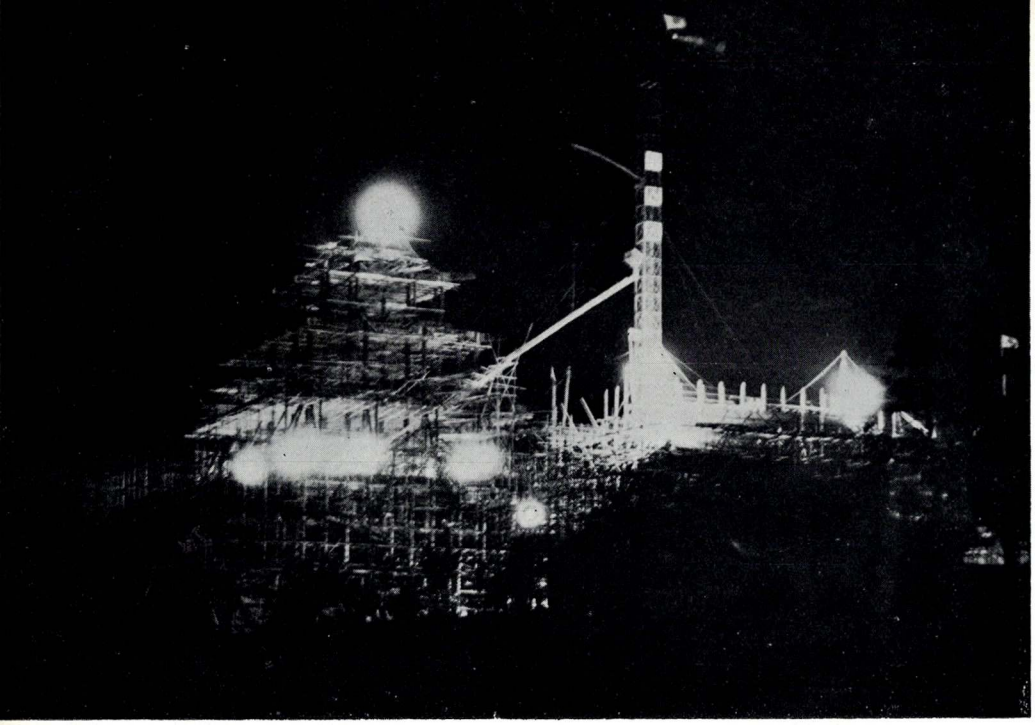




和　歌　山　城

施　工

株式会社　奥　村　組

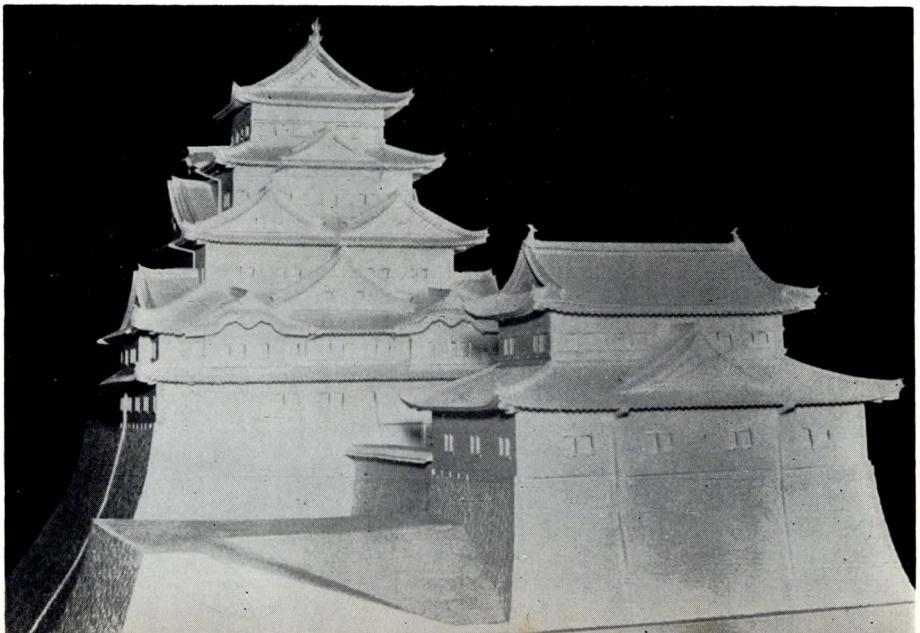


名　古　屋　城

施　工　株式会社　間　組

名古屋支店
名鯱城出張所

社長　神部満之助
取締役
支店長　小谷金馬
常務取締役
出張所所長　三枝知良
出張所次長　伊賀上五郎



建物クリーニングの店

住宅美素工事の創始者

○ビルディングの洗浄工事
○建物外塗サンドブラスト工事
◎建物外壁各種吹付工事
◎建物外壁シリコーン防水工事
◎月極め清掃工事
◎木造建築洗浄美素仕上工事

株式会社 **美素工業所**

大阪市東区瓦町二丁目(三和ビル)　電話㉓4938・5888・㊼8050

三和シャッター

最高の技術
最低の価格 最大の保証

日本スプリングシャッター協会々員（大阪）
日本軽量シャッター協会々員（東京）

株式会社 三和シャッター製作所

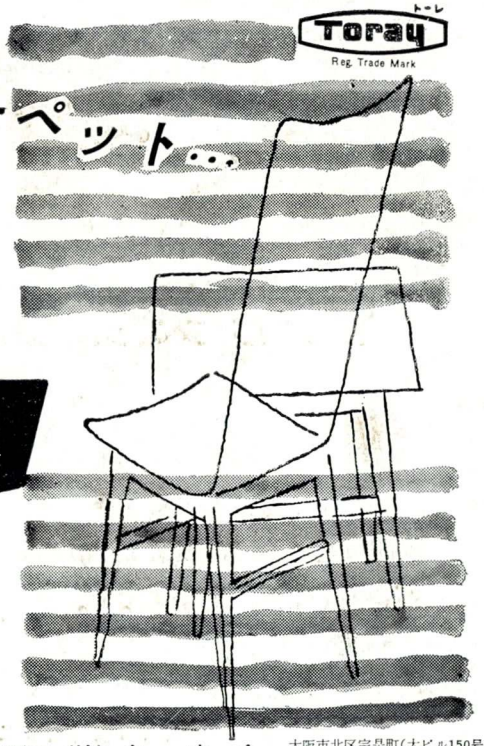
本　社　尼崎市久々知字コエ23 電話大阪(48)2959・9748
営業所　東京 札幌 福岡 名古屋 長崎 四日市 京都

（カタログ贈呈）

絶讃！ナイロンカーペット…

Toray トーレ
Reg. Trade Mark

東レナイロン絨氈 ・緞通は100％スパンナイロン糸を使用したもので・摩擦に強く
・弾力性に富み・吸塵性が少なく
・虫の害を全く受けません



東レナイロン

絨氈・緞通

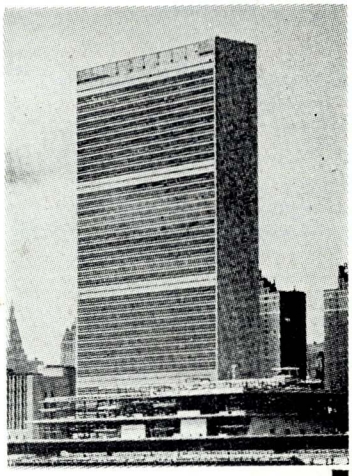
このほか価格低廉な 100％レーヨンによる
東レカーペットも好評を博しております

東洋レーヨン株式会社

発売元 (株)泉　商　会　大阪市北区宗是町(大ビル150号) 電(44) 2736～9

耐火・断熱・軽量骨材

新製品 三井パーライト



(パーライトを使用した国連ビル)

パーライトは真珠岩を急速に加熱、膨脹せしめたもので主成分は硅酸であり小さな真空状のガラス質の巣の集りで形成されて居ります。
パーライトは非常に軽く耐火的であるのでプラスターに混じ耐火、断熱用壁仕上に又、コンクリートとしては砂の代りに使って断熱、軽量コンクリートとして使用されます。

用途の一例

(1) 軽量コンクリート用細骨材
(2) 左官材料（セメント・プラスター骨材）
(3) 保温断熱材
(4) 油　井　用
(5) 濾　過　助　材

特　　性

軽いセメントモルタルの½以下（嵩比重0.04～0.20、砂の重量の1/10～1/20）
耐火性が大である　セメントモルタルの４倍の効力がある（熔融温度1000℃以上）
断熱効果が大である　セメントモルタルの２倍以上（伝熱係数 λ ＝0.03～0.05kcal／mh℃）
亀裂予防になる　殆んど亀裂が出ない
遮音吸音効果が大　セメントモルタルの２倍以上
施工が容易である　他の軽量骨材に比し施工が容易である
化学成分 SiO_2=75.5、Al_2O_3=15.3、Fe_2O_3=0.9　CaO=0.12、K_2O=4　Na_2O=3.5
有機不純物揮発分なく、長期保存するも変質しない

バーライトセメントモルタル調合その他・バーライトプラスターの配合説明書贈呈

三井金属鉱業株式会社

本　　店	東京都中央区日本橋室町２の１	日本橋 (24) 4101～9・2371～9
大阪支店	大阪市北区中之島３の５	土佐堀 (44) 3731・3751
東京営業所	東京都中央区日本橋室町２の１	日本橋 (24) 4101～9・2371～5
名古屋営業所	名古屋市中村区広小路西通２の２６	笹　島 (54) 3171～5
福岡営業所	福岡市天神町３９	中　局 (4) 9336～9

建築と社会

9

城　　特　　集

1　9　5　8　年　9　月　号　目　次

表紙について

デザイン：岩木博行

第2回建築写真コンクール入選作品

撮影者：三川栄吉

題目：綾線（姫路城）

巻頭の言……城雑感……尾崎　久助…12

作品作風

熊本城……解説　塘　一郎…13

小倉城……藤岡　通夫…14

高梁城……高端　政雄…15

広島城…基礎と瓦……松田　実…16

広島城…橋御門復元……橋本　秀夫…17

松江城……飯塚　源吉・古林　義敦…18

松山城……河東　義方…20

高知城……高端　政雄…22

姫路城……棚橋　諒・南井良一郎…23

岸和田城……三田　青里…24

和歌山城……藤岡　通夫…26

彦根城……大森　健二…27

富山城……宝来佐市郎…28

名古屋城……一円　俊郎…30

本文

天守を中心とした城の歴史的考察……城戸　久…31

城復興の意義，観光厚生の見地から……重松　敦雄…34

郷土の城

水口と永原の城……川上　貢…37

明石城……野地　修左…42

郡山城……河東　義方…46

随想

城……藤原　義一…48

山陰山陽の城……佐藤　重夫…50

お城談義（石と堀）……河東　義方…51

座談会

大阪城を中心にして石垣としゃちほこの話をきく
——波江悌夫氏を囲んで——……52

文献

近世城郭関係文献目録（1958.7）……西川　幸治…56

スケッチブック

第3回建築写真コンクール入選作5点……59

建築の眼……62

建設業体の適正規模について……吉田　元七…63

会合（7月分）……67

建　築　と　社　会

第39集・第9号

売価　1部180円・送料共

昭和33年9月20日印刷

昭和33年9月25日発行

発行所　社団法人　日本建築協会

大阪市東区北浜3丁目37

電話　北浜㉓　9648・9649・9640番

振替口座大阪39975番

発行人　沖田誠一

編集人　松井昭光

印刷所　株式会社研文社

大阪市北区堂山町66

電話　㊱　2091～3番

印刷者　網野栄

巻頭の言

城　雑　感

尾崎久助

日本の城郭建築について私はとくに勉強したことはない。しかし，城の建築が戦国時代に日本独自の発達をした点で建築史上誇るに足るべきものとしてよいであろうし，また今日日本の主要な観光文化財である点にも私は興味を持っている。

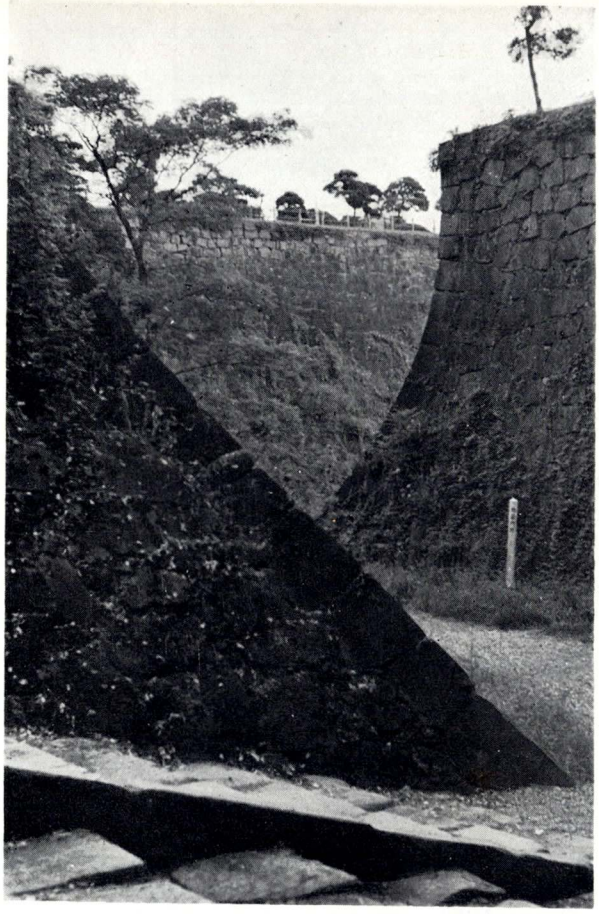
日本の城に附随発達した城下町については都市計画的に興味ある見方もあるようだ。日本の城に中国の城市の影響があるかないか，平城京や平安京は無論唐制を模したものだが，正成の千早城や赤坂城を祖として戦国時代に大発達をしたといわれる日本の近世の城は中国のとは軌を異にして居る。ライン河に沿う丘陵の中腹にいくつかの古城が見られるが，これも感じが違う。千鳥破風に唐破風を交えた屋根を戴く重層白堊の天守閣の優雅な姿は独特のものであると思う。天守閣以外の建物が最もよく残存している姫路城から想像するに天守閣とそれに連る様々な建築物，構築物の綜合美はすばらしかったであろう。姫路の白鷺城，岡山の烏城等美しい名前のついているのは，城が戦のためのものであるとともに政庁，宮殿であって，領主の威勢を誇示した壮麗なものであった一証左でもあろう。

法隆寺その他の仏寺のシムメトリーに基調を置く美はすでに最高度に評価されているが，私には清水寺や桂離宮のような自然に融け込んだ美の方がより日本的に思われる。この点で城郭建築はもっと高く評価されて然るべきではないか。翠緑滴る山頂に天守閣を仰ぐときは軍国主義とか封建思想とかを思うより先づ日本的のすがすがしさ，晴々しさの快い気持を味う。明治維新当時は280余の城に建物が残っていたとのことだがさぞ壮観であったろうと想像される。現在は50余を算えるに過ぎぬとは誠に残念である。戦後松江城，松山城等修理が成ったし，また姫路，名古屋の各名城はそれぞれ数億円をかけて不燃建築として復興中で誠によろこばしいことである。

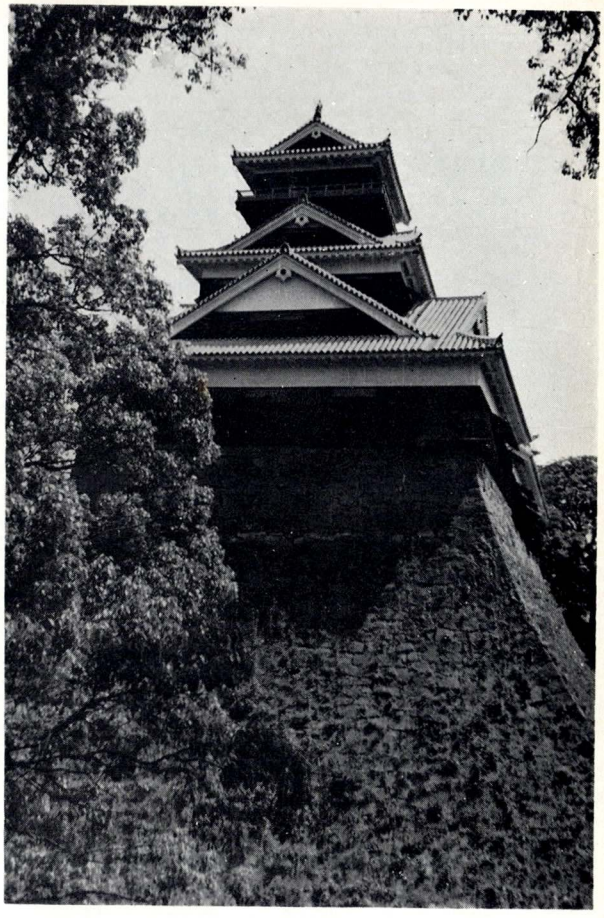
名古屋城というと誰しも緋羅紗の陣羽織に長烏帽子，片鎌槍のいでたちの加藤清正の築城指図を連想するけれども，当初築城普請の作事奉行は小堀遠州であった。しかるに家康から名古屋城の課役を強いられていた諸大名の豊家に対する苦衷から来るいらだたしさや，軽輩遠州に宰領される不満等が原因して，途中で遠州は罷免されたとかのように書物で読んだことがある。その結構の雄大さと金鯱との故を以て名古屋城は城の代表のように思われているけれども，その形は生硬で姫路城の優雅に及ばぬと私は見る。もし桂離宮のように一切を遠州に任せられて竣工したのだったら違った形態のものができたのではなかろうか等興味深い想像をすることができる。城にまつわる挿話はいろいろある。建築に関する秘められた事柄を見出したらなかなか面白かろう。

腐朽してゆくものは不燃建築として復興させてこれ以上城郭建築の減るのを阻止したい。なお建築的にもう少し高く評価すべく，また研究すべき点も残されておりはせぬか。城郭建築に素人の建築家が何等書物を読む余裕も無いまゝに単なる思付を誌す次第である。

（筆者　日本建築協会会長）



地蔵門趾附近の石垣



宇土櫓（北面・昭和32年改修）

熊　本　城

熊本城は加藤清正公の居城として慶長の初めに前後7年を費して築かれた。創建の年号については従来諸説があり，一般には慶長6年説が信ぜられていたが，筆者等は以前一の天守趾から「慶長4年8月吉日」の銘のある軒瓦を一個発掘したことがある。

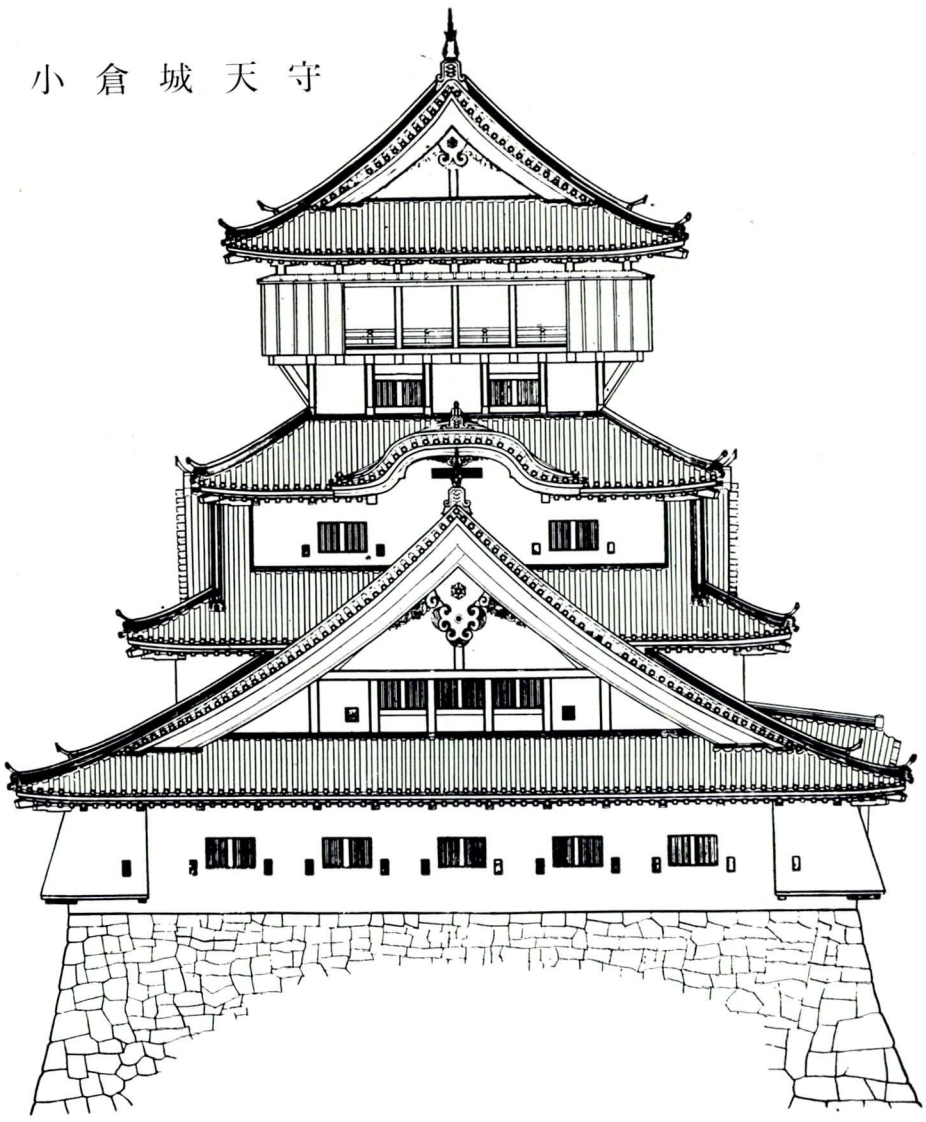
熊本城は天下の三名城の一つと称されているが，これは清正公が幾多の攻防戦，とくに朝鮮の蔚山城での体験や築城の経験を充分に生かしたためであろう。縄張は茶臼山の自然の丘陵を縦横に利用して本丸，二の丸，三の丸その他の囲郭を梯郭式に構え，各囲郭毎に空濠，水堀または自然の川を繞らし，そして周囲2里13町といわれるこの広大な地域には幾多の櫓や城門が建築された。その後細川時代の増補もあつて，明治初年には7階の一の天守と5階の二の天守（複合式天守閣）や宇土櫓を初めとし，櫓49，櫓門18，城門29という数多くの建物が建てられていた。（古図，写真現存）しかしこれらの多くは明治10年の西南の役で失われ，今はその全貌を見ることができないが，それでも宇土櫓を初め13件の建造物（重要文化財）を残している。

現存する宇土櫓（写真）は三の天守とも呼ばれ，3層5階建であるが，一の天守や二の天守，あるいは他の城の天守閣にくらべていささか異つた構造様式をもつている。例えば最もよく目につく屋根には反りも起りもない。いかにもこの地の人々の気質をよく表現しているようである。

熊本城の見場は何といつても石垣であろう。もちろん縄張も卓抜であるが，石垣の堅牢かつ鮮麗は古くからうたわれてきたところで，とくに武者返しをもつ勾配曲線（写真）のダイナミックな優美さは他に比類がない。因にこの勾配曲線は「土の凝集力拠物線」から得られる空積石垣の勾配曲線と全く一致することを筆者は確認した。

（鹿児島大学　塘　一郎）

小倉城天守



小倉城天守の創築に関しては明らかに記したものがないが，美作津山城の築城に当り大工が小倉へ来て天守を写して帰つている点から見て，細川忠興の時代に完成していたことは確実で，従つて完成は慶長十二年（1607）頃と思われる。しかしこの天守は幕末の天保八年正月四日に焼失して，再興されることがなかつた。従つて写真など残つていないが，延享三年幕府より小倉城巡見の上使が来た時に，予め城郭とその建物について調査しておいて，質問に回答する資料とした記録があり，また旧藩主小笠原家にある絵巻物や大工筋に残つていた略平面図などがあつて，天守の外観は推察がつく。ところがこの天守は俗に南蛮造といわれたほどかなり変つた形式を有していたようで，各階は漸減しているが最上階だけはその下の階より張しているという変つた形式であつた。しかし諸資料から考えると破風が全くないという大きな特色があつたが，資料のままに復原的に考えた立面図は，あまりにも簡単で「お城」らしくないとのことであつたし，また私自身が見ても格別よい形とも思われない。そこで資料的に忠実なものとするか，建築家としていい形と思うものを造るかの二つの立場の岐路に立つことになつた。しかし資料に忠実といつても，写真があつて完全に復原するのではなく，設計が多分に入る以上は，五十歩百歩ともいえる。もともとこの種の天守をたてることは観光が目的であるので，観光価値の少ないものを建てることは意味がないのである。そこで最後に到達したのが挿図の設計図で，これは南蛮造といわれる特色や各階の平面の大きさ等は資料を生かし，破風を適宜に配して外観を整えたのである。しかし全体の様式や細部の手法等は慶長中期頃の特色を出すように勉めた。最上階は黒の段といわれているので，柱や戸袋等を黒漆塗に想定して，黒く仕上げることとした。破風の豕扠首も時代を表わしたつもりである。

（東京工業大学教授　藤岡通夫）



天守と二重櫓(左)

高梁城(松山城)

高梁市は古来山陰山陽の間の要衝に当り，板倉氏5万石の城下町として栄え，維新前は松山と称した。町の北端に聳え立つ臥牛山上に松山城址がある。山は高梁川の左岸に迫り標高480米北より大松山，天神丸，小松山，前山と4峰を連らね急峻にして断崖多く，全山鬱蒼たる自然林に覆われた要害の地である。

当城の創始は古く，秋庭三郎重信承久乱の功により，備中有漢郷の地頭職に補せられ，延応2年(1240)居城を大松山に築くに始まると伝えられている。

現存城郭は小松山と前山にあり，天神丸，大松山にある城址は戦国以前のものである。小松山の城郭は標高420米より380米に構え，大小の曲輪階段状に連つている。松山城御城主歴代記によれば天和年間(1681年～1683年)水谷氏2代左京亮勝宗の築く所で遺構を見ても城郭全体は同時に築造されたものと認められる。維新後廃城となり，所管も転々と移り，今農林省所管の国有である。その間，門，櫓，塀等は荒廃に委ねられ腐朽に従つて順次取払われ，現在僅かに天守，二重櫓及び一部分の土塀を残すのみである。

天守は本丸上壇に2階2重の本瓦葺で，1階は桁行5間，梁間3間，周囲1間通り入側を，南面に唐破風の出窓を，東面に5間，1.5間の台所の間，北面に中2階3間に2間の装束の間を設け，西面は葺下しの廊下で天守出入口としている。2階は5間に3間，北方に1間通り御社壇造りとする。

天守の特異点は山頂にあるため高楼の要なく，如何にも低平感に見え，天守としての概念を全く破るもので，例少い純山城の天守形式によつたものであろう，天守諸形式の遺構中特異なるものとして注目されるものである。

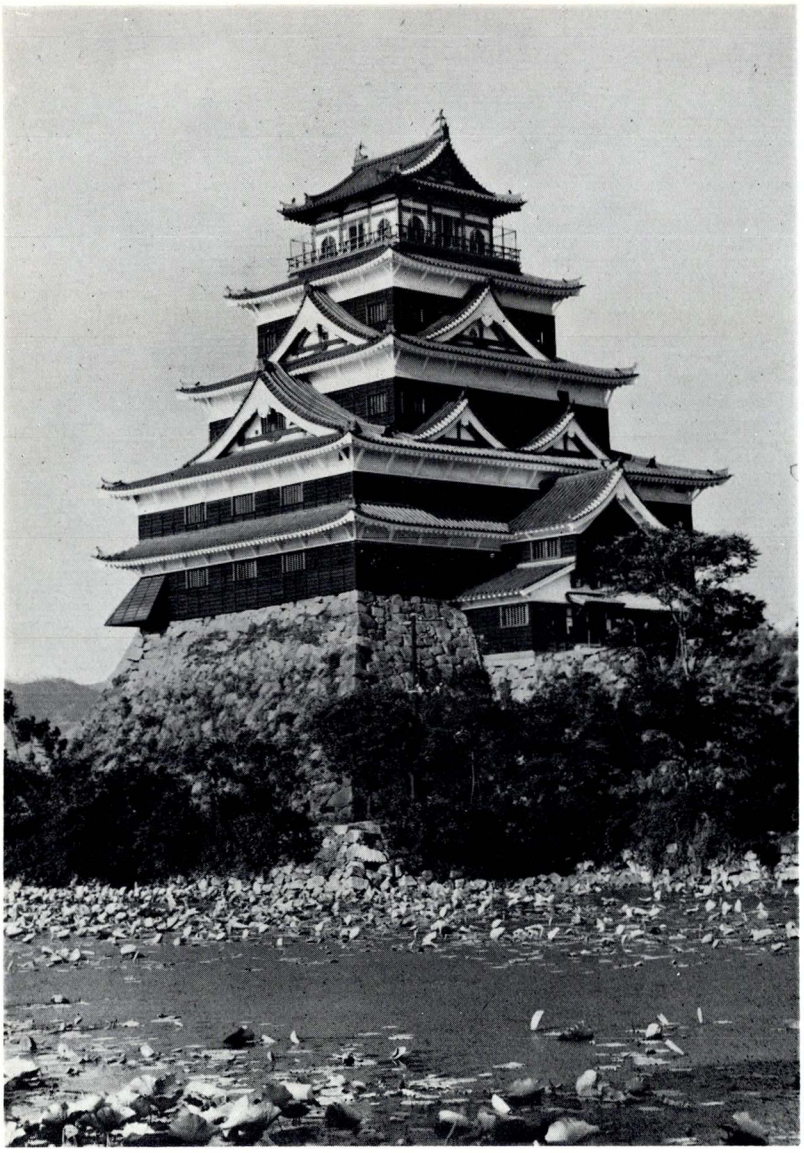
二重櫓は2階，2重櫓，入母屋造，本瓦葺で1階桁行4間，梁間3間，2階桁行4間，梁間2間である。天守台北方に突出た岩盤の上に石垣を築いて建つ，各部構造装置ともほぼ天守に等しいが木割も細く簡単なものである。

(文化財保護委員会建造物課　高端　政雄)

天守



広　島　城

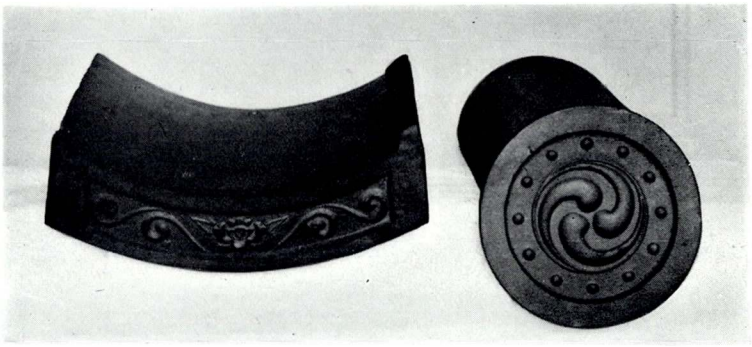


復元全景（南西面）

広島城瓦（創建当時のもの）



広　島　城　瓦　（復元用の新しい瓦）



広島城再建　「基礎と瓦」

1. はじめに

広島城再建についての苦心談をとの注文を受けたが，再建の話が出てから竣工までが一年足らずで，計画から設計は昼夜兼行。重要文化財保護委員会の許可を短期間に得たことも，工期6ケ月という短期日も，また建設費の安いこと等もレコードであつただろう。いづれにしても最初から最後まで苦労の連続であつた。それらの中から基礎と瓦について少し述べてみよう。

2. 創　　建

広島城は天正17年（1587年）毛利輝元の代に太田川三角州に大規模な築城を始め，天正19年完成した。毛利氏在城9年にして防長に追われた後，福島氏，浅野氏の居城として城下町が経営され，今日の広島発展の基となつたのである。広島城は創建当時より幾度か修繕されているが，質実剛健の姿をそのまま昭和20年8月6日原子爆弾の一閃によつて倒壊するまで，日本最古の古城として国宝に指定されていた。秀吉をして絶讃させた城取の様は，今も石垣の遺構と，これを囲む濠とによつて偲ばれる。

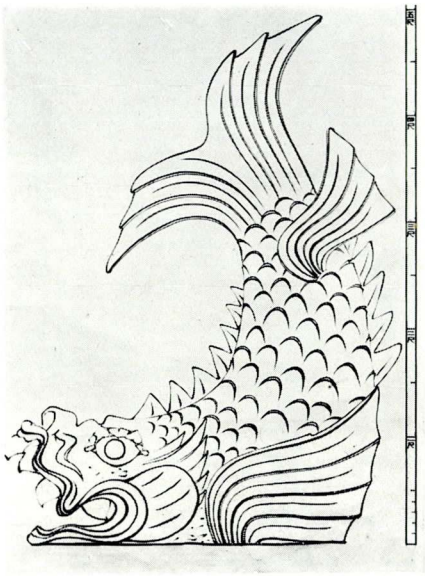
3. 基　　礎

再建の設計で最初にぶつかるのが基礎の問題である。杭打試験，載荷試験と一応段取りはして実施にとりかかつたが，いくら堀つても人頭大の栗石ばかりで試験は不可能であつた。よつて天主台築石の天端より数ケ所ロータリーボウリングを深さ13m迄堀り下げ内部の調査をしてみた。堀に面した2面は深さ13m堀り下げても全部人頭大の栗石である。また中央部は8.5m，小天主のあつた二面は9.5mまで全部同大の栗石で充塡してあり，その下は砂に真砂土を混入した土であつた。また石垣の根入も調査してみた。以上の結果グラウド工法によつて栗石を固め，その上に基礎を施工することにした。最初堅練のモルタルを注入して固め，後軟いモルタルを注入して厚さ4mの層を作つて石垣に建物の重量がかからないようにした。今かえりみて経済的でよかつたと思う。

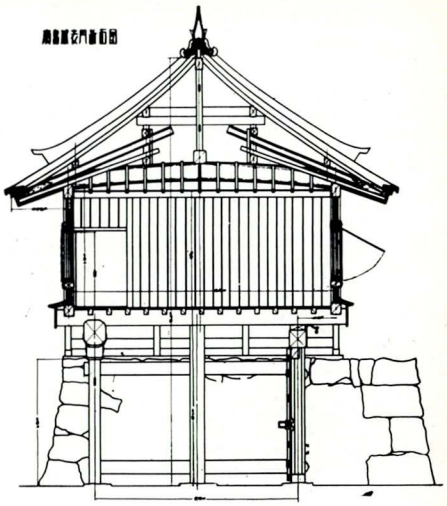
4. 瓦　と　鯱

広島城は原爆の爆風により北に倒壊し，瓦は殆んど堀の中に埋没または飛散したので，瓦を探すのが大変困難であつた。利用できる新聞は殆んど利用して探した結果，集つた瓦は種々雑多でいずれが創建当時のものかわからない。（文献によると十数度屋根を大修繕した記録がある。）創建当時と思われる瓦の実物大写真を数枚撮つて重要文化財保護委員会へ送り，その中から撰定して貰う事にした。委員会では協議の結果，京都に桃山時代初期の建物があるから（文献にはつきりした）その瓦を拓本にとつて広島城に採用するよう決定したが，われわれとしては折角広島にできる城であるから，郷土広島から創建当時のものを撰び出して郷土色豊かなものにしたかつた。結局竹井技官に来広を願い，実物を見て御指導頂き作つたのが写真の瓦（唐草，巴）である。

鯱は新聞で探し，通知を受けて見に行つたがその殆んどが櫓の鯱で時代の違つたものばかりであつた。福山城の筋鉄（スジガネゴモン）御門の鯱が桃山時代上期のものだというのでその姿をとり入れる事になり写真を各方面から撮つて現寸図にかかつたが，写真はでき上つた姿で現寸図には参考にならない。細部を克明に実測して現寸図を作つた。さてこの大切な鯱，威勢がよくてこそ鯱のねうちがあるので温和しく眠つているような姿では困る。これはなるべく気性のはげしい人に書かさねば—というわけで人撰をし，でき上つたのが下図のようなものである。高さは5尺。　（広島市建設局営繕部長　**松田　実**）



広島城しやち（設計図）
右の目盛は尺度



広島城橋御門復原断面図

広島城橋御門復原について

広島城天守閣再建に当り，各分野から学術的探究が行われ，初期城郭の研究に新しい発展がみられました。城郭が戦略的建築の遺物であつてもその真髄に流れている美の探究は今後もますます展開していくことと思います。記録によると橋御門は天守閣，多門，太鼓櫓，外堀櫓等と同様に初期城郭建築であります。以下私達の調査した実測図に従い簡単に述べます。

1) 下層：梁間2.5間，扉柱間2.1間，脇柱1間，袖柱0.5間で計5.1間の平面，階高は地盤面より2.1間，主柱1.1×2.0尺角，普通柱1～1.2尺角，柱は貫締めで自然石の上に建つ。梁1.4×2.0～1.3尺角舟肘木付，石垣高1.5間の中に在る。

2) 上層：梁間3.5間×桁行5.1間の平面をもち柱8～尺角，大曳1.3×1.0尺，根太4.0×3.5寸，床1.2寸厚杉板張，窓台長押付竿縁天井，板間仕切付，床面より軒桁上端まで1.5間，天秤梁は背面0.3間表側0.7間の持出構造となつている。

3) 小屋：和小屋桔木使用　三ツ折地棰(6.7.9寸勾配)の引渡し勾配7.2寸。軒裏は割竹和釘打棕櫚縄結び波形漆喰塗仕上とす。

4) 屋根：本瓦葺入母屋造，千鳥破風で梅鉢懸魚六葉付又妻飾サス束使用し，棟に3尺高の鯱一対を置く。唐草瓦は桐と橘崩し模様とがある。軒先には三ツ巴左巻丸瓦，棟飾用丸瓦は右巻を使用し熨瓦だたみとする。

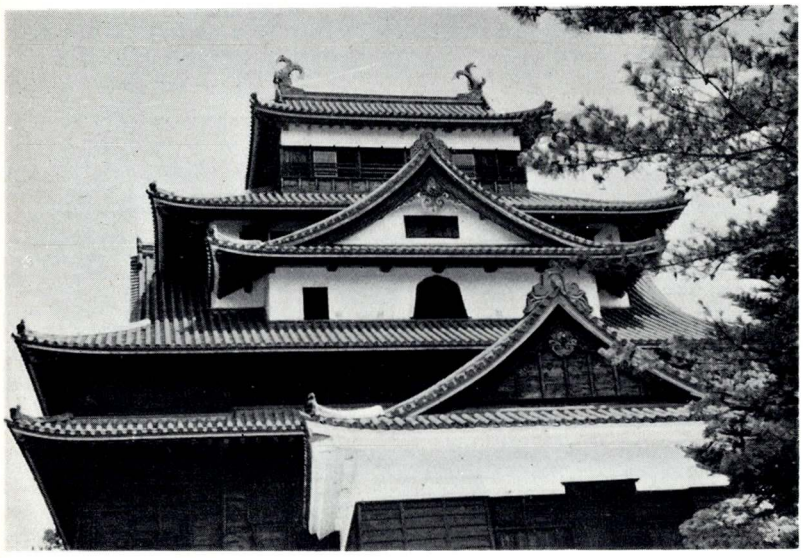
5) 外装：総軒高3.6間，棟高5.1間。木部油煙塗，上層の壁漆喰仕上，窓は突上板戸付，長押および窓台の外側に六葉飾金具打，大曳の鼻隠は雲庇付，下層表側柱扉とも鋲打鉄板張，扉に入八双飾金具付で入念な武装をしている。この橋御門の妻部に接続して多門がある，南側には武者走りを経て多門がある。いずれも同じ手法であるし社寺的色彩をもつた住宅風な建物で城郭初期の様相を具備している。しかし原爆後これらの建物を見る事ができないのが残念である。なお6.5尺を1間として計算すると実測図の寸法とほとんど適合するので，図面には間単位寸法を記入しました。

（広島工業高校　**橋　本　秀　夫**）

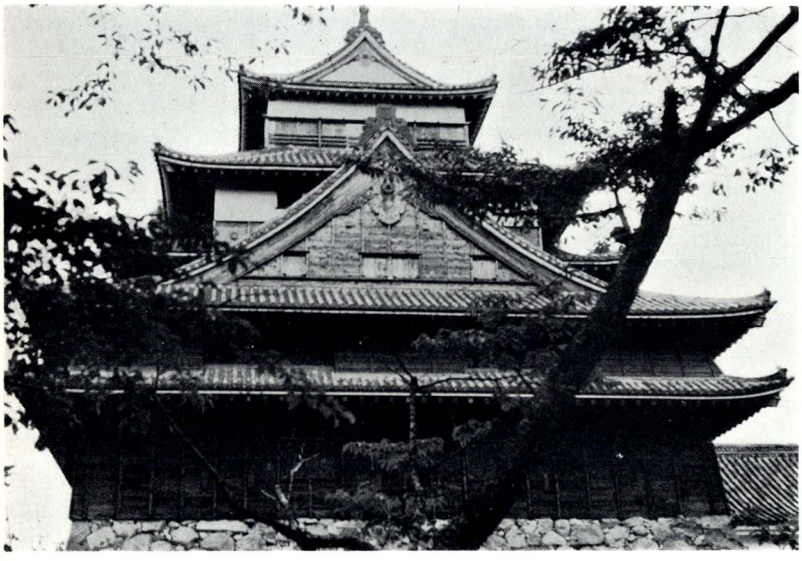
松　江　城



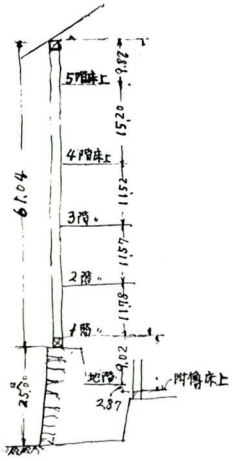
正面全景



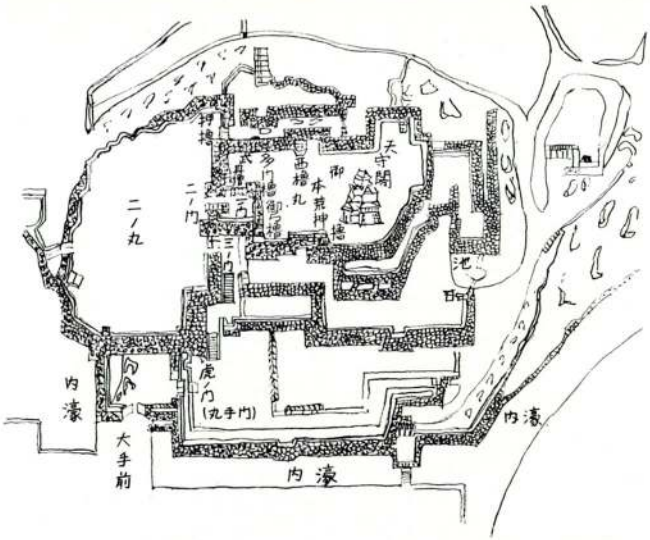
正　面



西　面



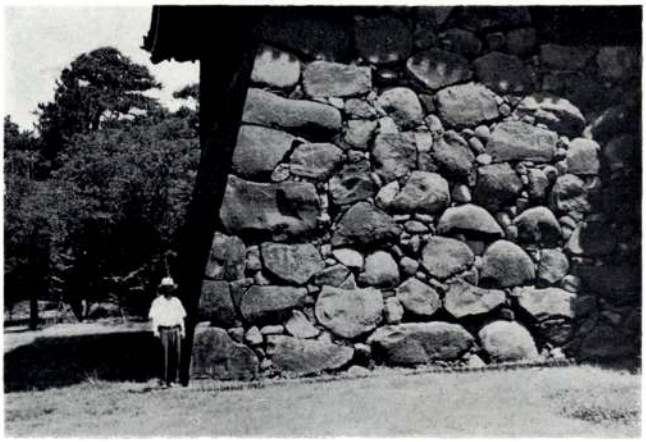
各階を示す略矩計



松江城復元図



松江城しやち



天守の石垣（乱雑積）



側面と石垣



鬼瓦

松江城

水郷松江市の西北亀田山上に趾つ松江城は千鳥城とも称し，関ケ原役で戦功のあつた堀尾帯刀吉晴が，出雲隠岐の領主として慶長12年（1607）から築城し5ケ年を費して完成した名城であつて，全国現存天守12の内の雄，桃山初期平山城の代表的なものである。堀尾氏3代の後京極忠高が入府し，続いて松平直政が封ぜられ10代に及んだ。明治8年天守を除き悉く撤去せられ，同10年国宝に指定，全25年重要文化財と改称せられたが，腐朽が甚しかつたので全年6月解体修理の工を起し30年4月竣工し面目を一新今日に及んでいる。

松江城天守は外部5層内部6層で高さ100尺，建坪137坪 延550坪で，その外観は屋根の交錯とその破風の力強さとで威厳と美観を備えしかも幾多の特徴を有している。即ち第一望楼式のもので外部は姫路城や彦根城の如く塗籠（白壁）でなく，その大部分が黒くて厚い下見板（押縁付）で暗色に塗られ重厚な威容を備えている。又基壇をなす石垣は乱雑積と称する野面石等の大きい方を内に小さな面を表に出して積み，一見粗雑に見えるが頑丈で実用本位な積方であり，勾配も中腹が凹んで居らず力強い直線で古い形式がみられる。

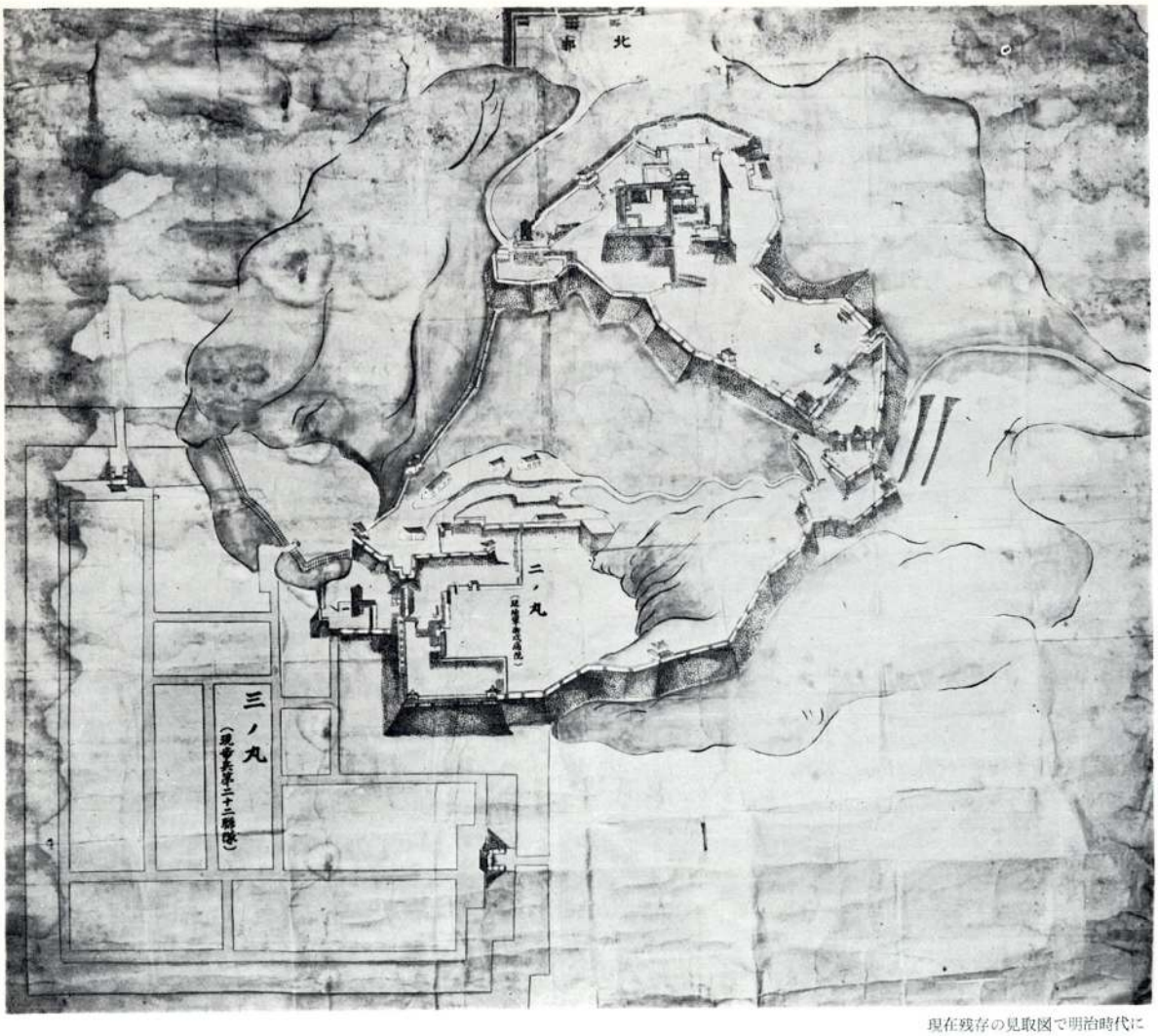
屋根の隅々にある鬼瓦は角（つの）は殆んどなく，各一枚毎異形で珍奇な表情をもつており，棟の鯱は木骨銅板張りで向つて左が雄で鯱は荒く，右が雌で何れも雄渾であり高さは6尺8寸，日本現存のものでは最大である。

また構造材としての多くの柱が各二層づつ交互に通してあり，通貫と入念な仕口によつて転びを止めており，内部正面の柱は数本の柱を帯鉄巻と縦によつて合せ柱（寄せ柱）とし固めている。

尚1階から4階迄の階段は桐材で触感のよいのは勿論であるが，これは愈々天守を枕にしようとするとき，階段を引き上げて下との連絡を断つのに桐のかるさが役立つとも言われ，又一面防火腐蝕の為にも有効で他に類例がない。今一つ一般建築に見られない工法は壁小舞が竹の代りに2～3.5cmの雑木を使用し，その上塗は土佐漆喰仕上げとしていることである。

以上簡単な解説となつたが，松江城は実戦本位の城として異色がある。

（日本建築協会中国支部役員　**飯塚源吉・古林義敦**）



現在残存の見取図で明治時代に作成されたものとされている。

松　山　城

春や昔十五万石の城下かな　　子規

で有名な俳郷松山も，三百四十年の昔は，ほとんど荒野に等しい味酒（ミサケ）の郷で，夏草の生い茂りを見るばかりであつた。

賤（シズ）ヶ岳の七本槍で有名な加藤左馬之助嘉明は抜軍の功によつて，近郷松前（マサキ）（正木）六万石より一躍二十万石に昇進し，松山に築城の決意を定め幕府に許可を乞うたのであつた。普請奉行足立重信，今でいえば建設部長足立君に松山城新築工事計画を命じた訳である。足立君は城主の命を受けて，先ず位置の選定にとりかかり候補地として，勝山（味酒山），天山，御幸寺山，の三ヶ所を選びその予算と共に幕府に上申したのである。当時幕府は外様大名の築城については関心を持ち，反旗をひるがえすことを慎れて，第一候補は概ね採用しなかつたので，嘉明はわざと第二候補地の天山を第一候補に，最も好しい勝山を第二に出す等，今も昔も上申の策をろうすることは，変りなかつたようである。果せるかな第二候補の勝山に許可が下り，足立君は先づ，勝山，味酒の二つの峯を一つに谷を埋立て，本丸の敷地を造成して，ここに慶長七年正月十五日起工したのである。

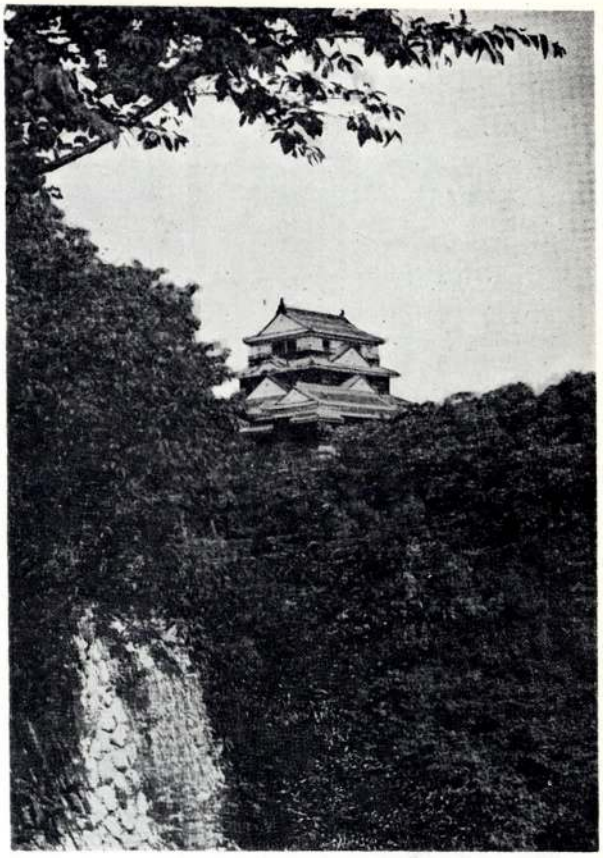
本丸には天守閣，西側の低い所に二の丸，更にその山麓に三の丸を設け，重臣，城主の住宅を造つた訳である。

先づ工事用水としては百三十二米の山麓より運搬は困難であるので，敷地造成の時谷間の有水ヶ所へ井戸を造りこれが完成後も山上に残された大切な井戸となつた。

工事用石材は出来るだけ松前城や湯月城（道後）の在庫品を使用し，裏込栗石等は松前の「オタタ」（漁女）を始め藩を挙げての勤労奉仕の労力を利用したことは戦時中のことを思い出させる。

材料運搬については，「万力（マンリキ）」を牛に引かせる等なかなか足立君の部下の技術的能力は当時としては大したものであつた。

松　山　城



天守閣は五層であつたが二峯の谷の埋立工事を急いだため，後に沈下を起し，寛永十九年に三層に改築されている。柱は中心部は七間の通し柱で尺二角の「ケヤキ」材を用い，斫削り仕上げであつたが天明四年正月元日の落雷のため焼失して，文政三年より三十五年を要して復旧の際は内部の仕上げは鉋削り仕上げとなり，城としてはスマートなものである。

築城の附随工事として，足立重信は城下町を流れていた石手川の堺段工事を始めとして，外川重信川を改修して三千町歩の良田を作り，更に敵の上陸地点と予想される堀江海岸よりの道を迂回させ今日七曲りの名所となつている。嘉明は又に足立君に命じて堀江まで輸送路として運河の計画をもなさしめたが，工事途中に転勤となり完成しなかつたことは誠に残念である。城主は蒲生忠知が後任として未工事を引継ぎ，最後は久松伯が城主となり明治四十三年松山市に寄贈され今日は松山城山公園として，近年「ロープウエー」まで設備せられ，観光松山の至宝として道後温泉と共になくてはならない金づるである。

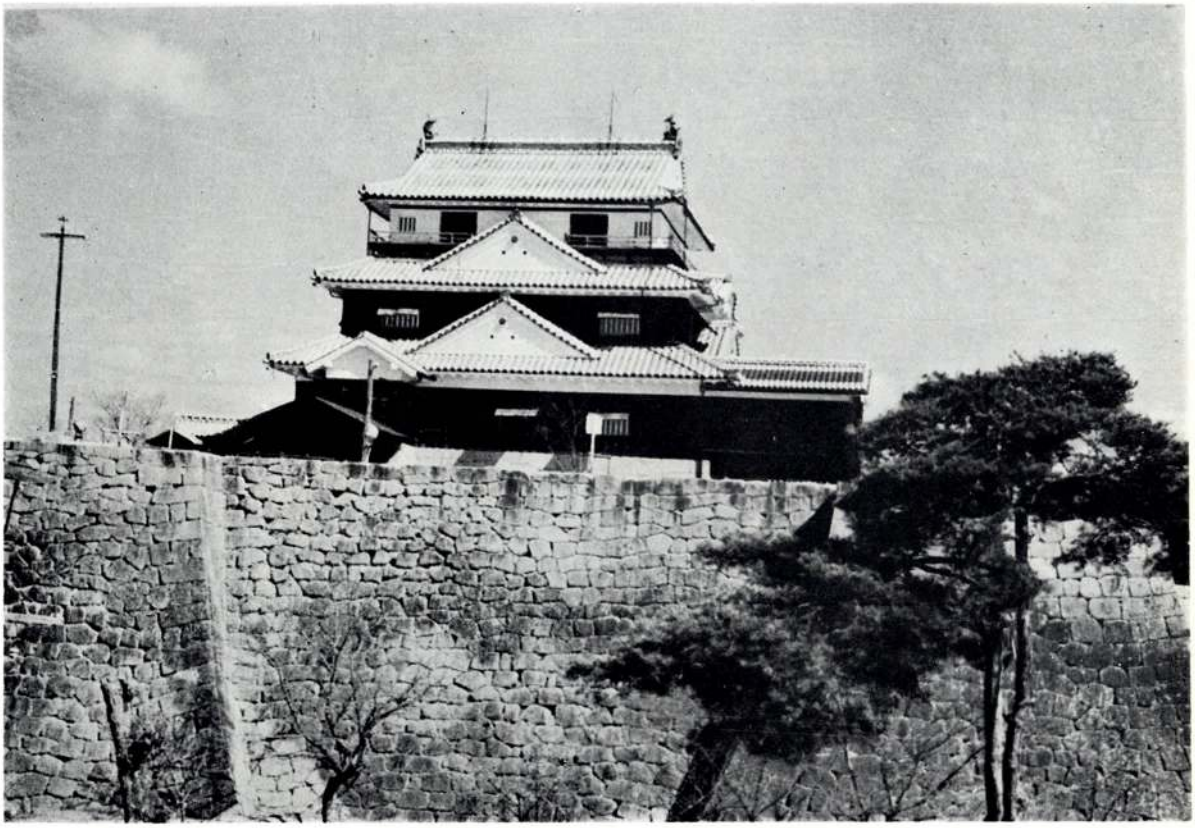
松山城は昭和十年三月国宝に指定されたが，天守閣の外は戦災放火等によつて大部分が焼失した。又戦時中の空襲によつて天守閣も焼上したが当時の監守住田氏が七十才の高齢にめげず決死の消火によつて今日在ることは，地元では忘れられているのは遺感である。

国宝となつた残存建物

天守閣，一，二，三ノ門南櫓，乾櫓，野原櫓，仕切門，一，二，三ノ門，紫竹門，隠門，隠門続櫓，戸無門，仕切門内塀，一，二，三ノ門東塀，筋鉄門，東塀，紫竹門東塀，紫竹門西塀，乾門西塀，

以　上

（大阪郵政局建築部長　河　東　義　方）



高　知　城





高知城は一丘陵をなして，土佐平野を一望に眺められる要衝の地である。

藩祖山内一豊，慶長5年（1600年）土佐一国を領して，翌6年の春，浦戸城に入城した。浦戸城は地域せまく規模も少さいので，現在の所に高知城の経営が始つたのである。慶長6年9月，工を起し，8年8月本丸，二之丸成り，一豊はこれに移つた。慶長の末年に三之丸等すべて完成した。初め城名を河内山と名ずけたが，屢々洪水があつて城市を浸し，庶民は河内の称を忌むに至り，15年2代忠義の時，文字を改めさせ，高智山と称せり後に略して高知山となり，遂に高知城と呼ぶ様になつた。高知城も時に天変地異のため破損傷害を蒙り，補修改造を受けたのであるが，築城後117年を経た享保12年（1727）2月城西の町より出火し，大火となり遂に高知城もすべてを灰燼に帰したのである。

享保14年3月再築は許可され，6月着工した。宝歴3年（1753年）11月にすべて完成した。山内家16代270余年の治城であつた高知城も明治6年城を廃し，その殿宇櫓楼も毀され，僅かに天守，懐徳館（本丸正殿），黒鉄門，西多聞，東多聞，詰門，廊下門及び追手門，矢狭間塀を残すのみとなつた。

天守は4重，6階，入母屋造，本瓦葺，1，2階は桁行8間，梁間6間，3.4階は桁行4間，梁間4間に破風の間を四方に張り，5.6階は桁行梁間共に3間，6階は四方に勾欄を廻らす，最上層に望楼をのせた構造方式は初期の姿を示すものである。延宝再建のものとしては好資料を残したものである。

懐徳館は正殿，玄関からなり，納戸蔵の1棟を附けている。正殿は書院造りで，上段の間に書院，飯台構えを備え，玄関は車寄せ式台構えである。本丸御殿としては時代が新しいのであるが数少い遺例として貴重なるものである。

追手門は3間，1戸両潜附櫓門で，2階は桁行12間，梁間4間，入母屋造，本瓦葺である。寛文再建としては古風をよく守るもので，堅牢の構えは，名遺構たるを失わない。

（文化財保護委員会建造物課　**高端政雄**）

上：天　守　　懐徳館
下：追手門　　天　守

姫　路　城（白鷺城）

その名も〝白鷺〟とゆかしき名城は播州平野の小高き丘に楚々としてたつ姫路城。雄大で男性的な大阪，名古屋の城が，慶長夏の陣と太平洋戦争の戦火に焼失した後にもその優雅で女性的な姿を今に留めて来た。古の衆智を集めて生まれた彼女も三百年の風雨と年月の中には，幾度か毀れなんとし，幾度か支えられてやつとオアシスにたどりついた。そのかぼそき骨格には，時の重荷はあまりに過ぎたのであろうか。今や肩の荷を降し，旅の疲れと，傷ましき傷口をいやし，化粧をなし，再び美しき姿に回復せんと静養中の白鷺姫。

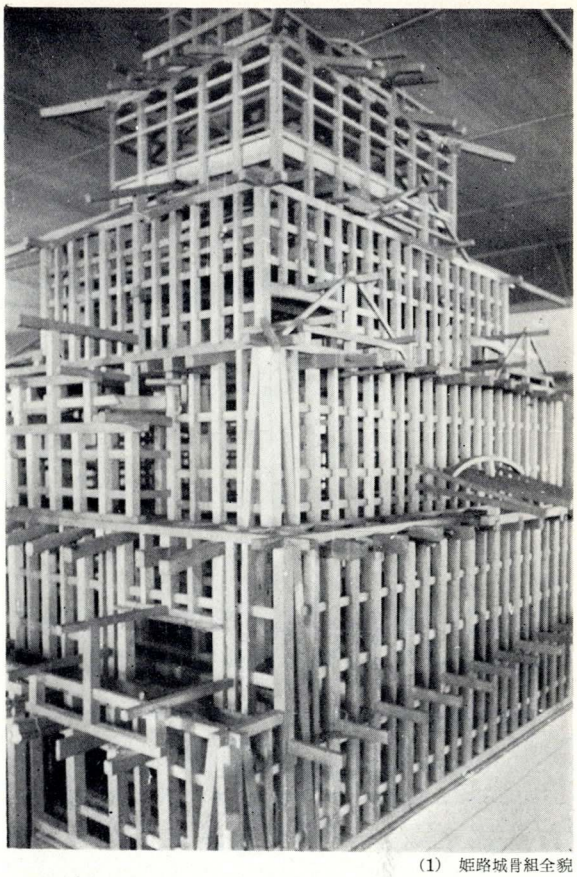
幸にもこの美人の侍医たるの光栄を与えられた私達はこの数ケ月予診にあたつた医師としてそのカルテを報告し彼女の治療のために衆智を集められたらと思うのです。

彼女の体格の概要は縦の骨格—柱は比較的丈夫なのですが，横の骨組—梁はそのセツトバツクによる上部の壁体を支えるにはあまりにもかぼそく，またその関節も丈夫とはいえません。この弱さから来る撓みと関節部の変形と，さらに横と縦の骨格の接合面のめり込みは，全体の変形の原因を作つているようです。なお盛土からなる地盤上では，あまりにも小さいその足は体を支えきれない様です。これらの原因は，二層西部，三，四，五層外周部の受梁に大きな撓みとさらには骨折までも惹起し，今まで，明歴，延宝，貞享，元禄，寛保，寛延新しくは明治の局所治療を余儀なくさせたのですが，やはり思わしくなく，徹底治療を必要とするに至つたのです。実に，これらの局所の支柱を除けば，梁では曲げ500Kg／cm²，剪断50Kg／cm²，撓み10cm程度の部分も少くないのです。また土台ではめり込みが6cm程度にも達しています。しかし不思議なことに横力に対する抵抗は，壁体と主として摩擦からなる仕口，接手部の抵抗しかないにも拘らず，振動試験による診断では，60m／secの颱風にも，震度0.2の横力でも頭部の撓みは10cmを越えないのです。これらの診断結果から私達は大略の治療方針を立てました。骨格の交換により応力度をある程度まで低下せしめ，仕口の形式からくる逃れ得ぬ応力集中は，横力抵抗へ寄与する摩擦を失わぬよう留意して補強金物を加える事。横骨格のめり込みにも補強金物を使用し，とくに最大応力を生ずる土台はコンクリートにすること。

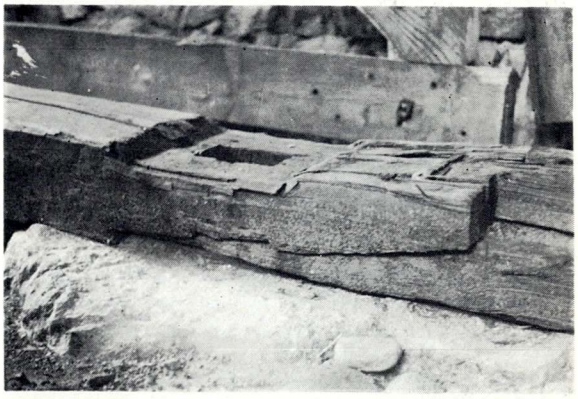
また脚部はそれを硬地盤まで伸すか，あるいはコンクリートの版上に置こうかと考えています。

以上概略の症状と治療方針を述べましたが，これを公開し賢明なる御意見をお伺いしたいと思うのは，医師の務めであり，美しき恋人の手術をせねばならぬ医師の心境でしようか。

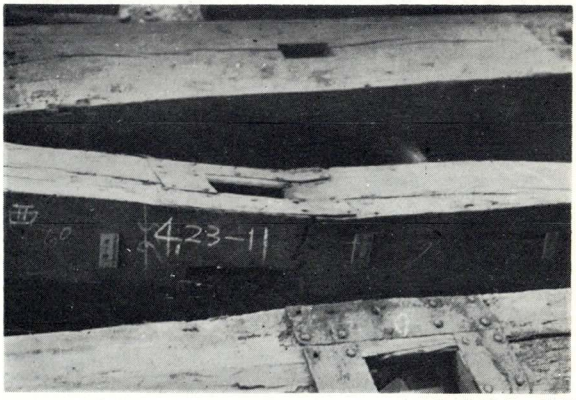
（京都大学教授　**棚橋　諒**）
（同　助手　**南井良一郎**）



(1)　姫路城骨組全貌



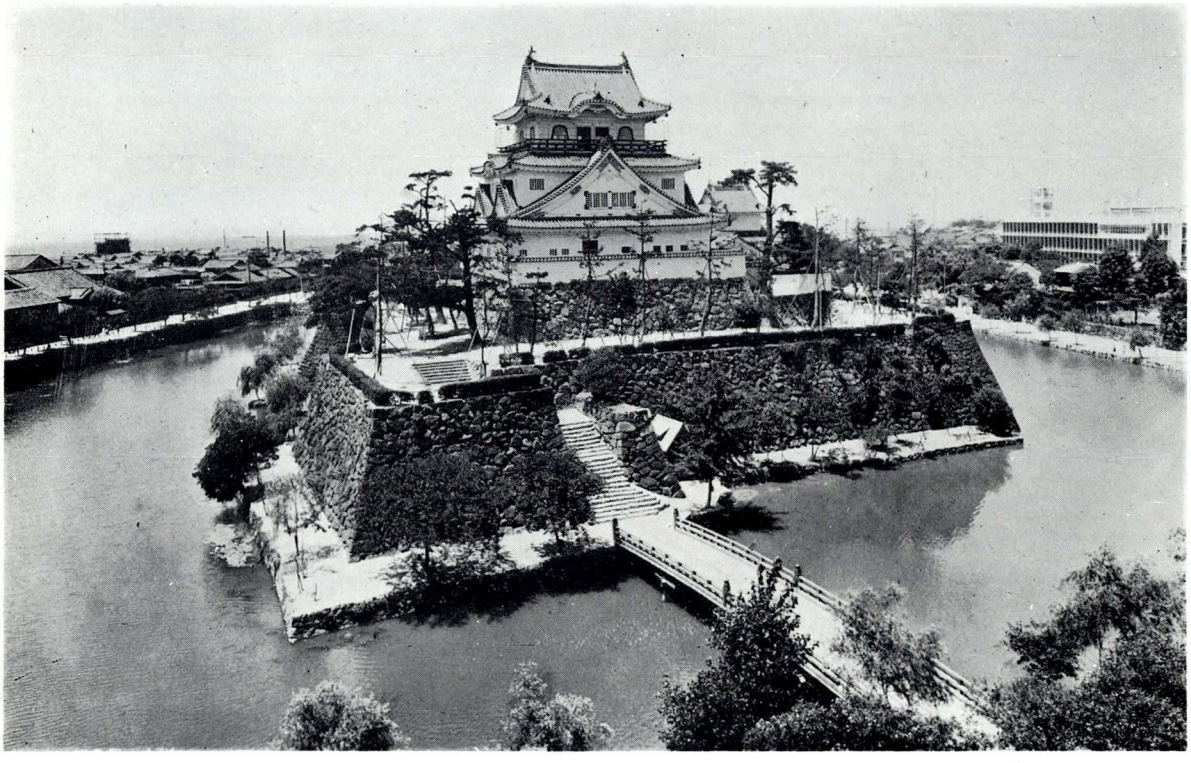
(2)　土台のめり込



(3)　柱踏板の破断



岸和田城











岸和田城（猪伏山(ちぎり)朦城）

岸和田城の創建年代は史料の焼失等に依つて詳らかではないが，現在の地に城らしいもの即ち掻きあげ城の出来たのは元亀，天正の頃松平肥前守隆信ではないかということになつている。天正13年（1585）小出播磨守秀政が入城に及んで城を修築し，文禄四年（1595）に天守閣の工を起し三ケ年を経て慶長二年（1597）に竣工したといわれている。（また一説には天正十五年起工，慶長三年竣工ともいう）

こうして出来上つた城に次の城主である松平周防守康重が二の丸の芦原を町造りして伝馬口，堺口の両門内に曲輪を増築し，城下をととのえその中に紀州街道を通して面目を一新した。

寛永十七年（1640）に岡部美濃守宜勝が摂津の高槻から移封せられてからは，石垣に濠に建築に，新らしい構想をとり入れ悉く整備したといわれている。文政十一年（1873）十一月天守閣は落雷焼失し，その後の再建は許されなかつた。要するに岸和田城を築いた目的は年代によつて幾分か違つて来ているが，大体に南の方紀州，四国の鎮めとしていたことは数多い古戦の物語る所である。城の古図を見ても城南の地に植林一砦を設けて固めている。また城の海岸沿いに防潮堤の役目をする石垣を設け，その所々に潮入門と称する門を残しているのを見ても海と直結している事は確実である。岸和田城は「海城」であるといわれる起源である。

岡部氏は明治の廃藩まで居城していたが，明治六年城の残余建築は全部毀却された。そうして本丸，二の丸の石垣とそれに伴う濠が残されたのである。文政以来建てられなかつた天守閣が昭和二十九年，時の市長福本太郎氏によつて再建せられたのであるが，近代的な鉄筋コンクリート造りの桃山様式はあくまで時代色を生かして内部利用にも心を用い，世代の青少年教育の資に供したいと心を尽したようである。

（岸和田市文化財専門委員　**三田　青里**）

構　　造

基　礎　ケーソン式鋼筋コンクリート造り
主　体　鉄骨，鋼筋コンクリート造

規　　模

天主閣
高さ　86尺5寸（内垣石16尺5寸）（鯱上迄）濠水面より119尺5寸の高層建築である。
面積
第1層　桁行64尺　梁間55尺　建坪100坪45
第2層　桁行52尺5寸　梁間53尺5寸　建坪74坪09
第3層　桁行34尺5寸　梁間25尺5寸　建坪34坪09
中2階　建坪13坪74
中3階　建坪33坪63　延坪260坪35（但し法定）

小天主閣
高さ　47尺5（内石垣10尺5）（鯱上迄）
第1層　桁行30尺　梁間21尺4（不整形）建坪30坪22
第2層　桁行17尺5寸　梁間14尺5寸　建坪10坪18
渡廊下　桁行13尺2　梁間8尺5寸
便　所　桁行12尺　梁間10尺　延坪40坪40（法定坪）
総延坪　300坪75（法定坪）

各階室割

天主閣
第1階　玄関ホール，目録室，司書室，事務室，第1，第2閲覧室，表及裏階段室
中2階　第1書庫，裏階段
第2階　第3閲覧室，第2書庫，会議室，館長室，表及裏階段室及ホール
中3階　第3書庫
第3階　資料陳列室，望楼用廻廊，



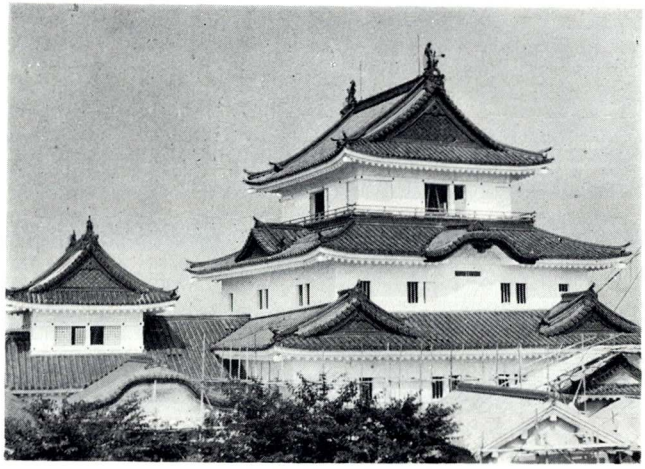
水源池よりみた和歌山城大天守・小天守

和歌山城天守

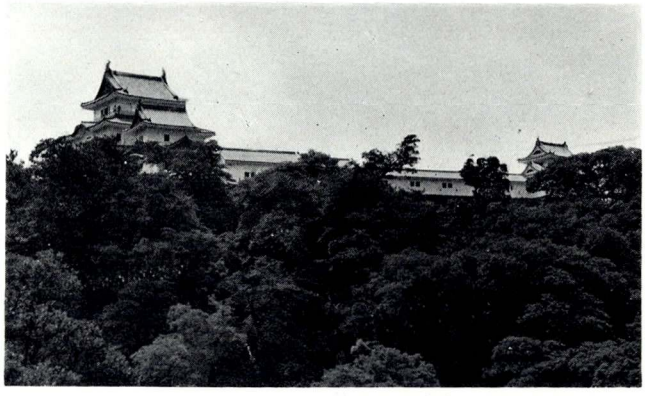
和歌山城天守の創築はおそらく慶長5年（1600）浅野幸長が関ヶ原役の戦功で入城した際であろうと考える。この天守が幕末に落雷で焼けて，嘉永3年（1850）に再築が完成されたので天守としては一番新しい遺構であつた。当時天守再建のことは幕府の制で容易に許可されなかつたのであるが，御三家の威光で許可になつたことは異例のことと取沙汰された。創築天守の形式は明らかでないが再築天守は当初の形式をかなり取入れたと見え，古風な手法が多く用いられていた。この再築天守も戦災で焼けたので，今回は鉄筋コンクリート造で外観はもとどおりに復原した。大天守だけは大工の設計図の写真が手元にあつたのでこれを基とし，他は総て写真によつて復原したが，平面が石垣に沿つて直角部分が殆んどない古風なものであつたので，製図並びに原寸図に非常な苦心を要した。楠門だけは構造的に不可能なので木造としてある。

大天守は三重三階で，二重二階の小天守を連結しているが，本丸を多門や櫓で取囲んで，台所や水の手に腐心しているあたり，城の武備が強化された盛期の手法といえる。天守に入るには小天守に設けた玄関より入るが，これなどは江戸時代の平和相を表わしたものと思われる。大天守の屋根は一重目が比翼入母屋のやや古風な形式で二重目には東南側に入母屋の張出しを，西北側に千鳥破風を設けているが，この比翼入母屋は一階の歪んだ平面から当然用いられたものであり，古式を踏襲したと思える。しかしその破風に青海波模様の銅板打出しを張つてあるのは再築に際して新らたに用いたもので，以前は狐格子であつた。最上階には廻縁高欄をめぐらしているが，これは以前にあつたか不明である。東と南の両面に設けられた強固な石落しは，以前のものを踏襲して，慶長の古制であろう。結局それは江戸時代の新手法を加味した復古式天守の一つに数えられる。

（東京工業大学教授　藤岡　通夫）



和歌山城乾櫓より見た大天守・小天守



堀端（二ノ丸広場）より見た遠景



彦根城の天守



彦根城の天守は井伊家年譜によると，慶長11年に完成したとある即ち慶長8年，父直政の遺志をついで井伊直継工事を始め，4年にして天守の完成を見るに到つた事になる。もつとも慶年9年には移城のことがあり，城郭はもう少し早く整えられていたものであろう。

天守は昭和32年より解体修理が行われているが，工事中二層および三層の隅木から慶長11年の墨書銘が発見され，なお大工棟梁も年譜のごとく浜野喜兵衛なることが確認された。となると年譜の記事はある程度信用してよいようである。ここで見逃せないのは，年譜に天守ハ京極家ノ大津ノ城ノ殿守也とあることで，彦根城天守は旧大津城の天守と見ていいのかも知れない。旧建物については，その平面は略現天守と同一で，その規模は五層の建物であることが，調査の結果判明している。もつともこれは旧部材の解体番付より推定したのであるが，番付は同一規模の天守を別の位置に移建のためのごとき打ち方がされていた。しかし彦根城の天守の構築においては，前身建物については柱間寸法を倣つた程度で，かなり思い切つた創意が加えられたようである。現天守の華かさを代表するがごとき二層三層の黒漆塗の唐破風や花頭窓，要所の金箔押の金物，総金箔押の鯱（工事中断片三ケを発見）は彦根城以来のものらしく，また全体の構成についても，大津城の影響は全然ないといつて支障はないであろう。今回の修理では，漆塗も金箔もすべて当初の状況に復旧する方針であるが，完成時の，鈍く光る屋根瓦と白壁の調和に配するに，要所要所の黒漆塗の強烈な墨色，さらにそれに沿えるに金具および鯱の金色のアクセントといつた全体の色彩効果と，力強い天守のシルエットを想像するのは，何かたのしい気がする。

（滋賀県教育委員会社会教育課　**大森　健二**）

富　山　城



現富山城は富山市の都心，総曲輪に残る本丸石垣跡に復興築造したもので，富山市の建設に係り，信建築事務所の設計，大林組の施工により，昭和廿八年七月五日起工式，翌廿九年四月七日竣工式，九ケ月間の日子を費して完成した。その形式は平城であり，様式は桃山をうけている。城郭はR.C造三階建三層櫓式天主閣及附属櫓で延300坪，基礎は石垣上にコンクリートパイル打，独立基礎を縦横に繋梁で固めた上に築かれ，屋根は黒々とした北国瓦の本葺の白亜の殿堂である。

現在は郷土博物館として，美術科学歴史の三部科に分ちて夫々の参考品を常時展示して，地方文化の育成に大なる役目を果たしている。



富山城の沿革概略

（富山県及市並富山城沿革史による）

天文元年（1532）越中土豪水越越前守勝重本城を経始す。

天正七年（1579）信長の将，佐々内蔵助成政入城（五十四万石）。

天正九年（1581）成政，神通川及いたち川を用いて浮城とす。

文禄四年（1595）前田利家の領地となる。

慶長十年(1605)加賀二代藩主利長，富山城を修築して老を養う。

仝　十四年（1609）全焼し荒廃に任す。

寛永十七年（1640）加賀三代の藩主利常の次子利次，富山十万石に分封せられ富山藩祖として入城。

万治四年（1661）利次，更に城趾総面積十一万坪に本丸二の丸三の丸西の丸等を復興修築して居城とする。当時の城下は町数八十三，戸数二千九百七十八，人数一万六千人といわれる。

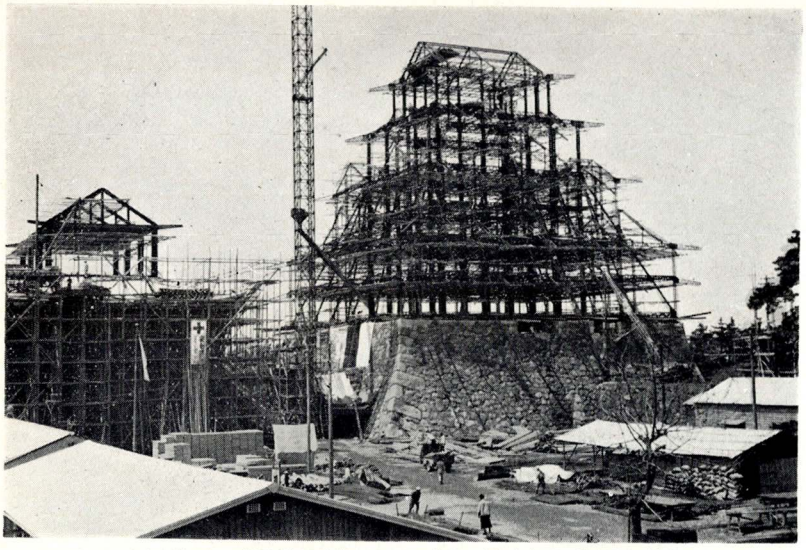
爾来，前田氏十三代二百三十余年を経て明治四年（1871）廃藩置県に及び新川県庁，石川県支庁をおかれて二の丸三の丸の櫓門，石塁，土居等殆んど取り壊された。その後公園となり又富山県庁舎となり，有為転変を加えて，昭和五年，再度の火災によつて残存建物悉皆烏有に帰し，僅かに石塁及塹濠のみを残こして往時の俤を偲ばすよすがとなつていたのである。　（KK大林組　宝来佐市郎）



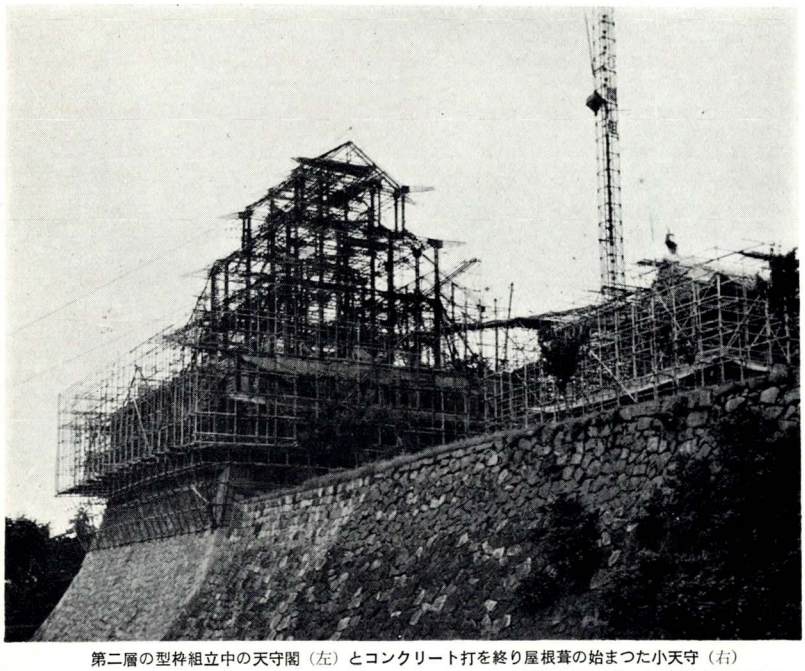




名古屋城



鉄骨建方を終つた天守閣（右）と第一層のコンクリート打をしている小天守（左）
昭和33年4月30日（東方より写す）



第二層の型枠組立中の天守閣（左）とコンクリート打を終り屋根葺の始まつた小天守（右）
昭和33年7月21日（西南方より写す）

関ヶ原の役後，徳川家康がその子義直のために諸大名に命じて名古屋城の造営に着手したのが慶長15年（1610），以後名城の一つと讃えられ親しまれてきたが，昭和20年5月14日（1945）戦災のために惜しくも消失した。じ来十有余年，世の中が治まるに従つて金鯱城への郷愁が深まり，遂に再建の機熟して昨年6月13日待望の起工式を挙げる運びとなつた。

工事の概要は下表のとおりであるが，くずれやすい石垣に悩まされながらも，昨年中には天守のニューマチツクケーソンを地階床からおよそ28mまで沈下させるのに成功して基礎工事を終り，本年に入るとともに鉄骨組立てを急いで去る5月20日上棟式を挙げ，目下11月までの予定でコンクリート工事の最中である。小天守はすでにコンクリートを打ち上げ，屋根日本瓦葺とサツシユ取付けから仕上げ工事に着手した。

その他正門，銅塀等すべて焼失前の精密な実測図に基づいて外観は従前のものと全く同様のものが再建されるはずである。

計画全工事は来年10月の名古屋市制70周年記念日までには完成する予定である。

（名古屋市建設局技術部長　**一円　俊郎**）

	天守閣	小天守閣
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造（ケーソン　8.26m×6.17m　4基） 外観　5層　（初層　日本瓦葺　その他の層　銅板葺） 内部　地階共　8階	全左（鉄骨は電気熔接）（ケーソン　8m×16.6m　1基） 外観　2層　　日本瓦葺 内部　地階共　4階
延面積	約　5438m²	約　1350m²
高さ	本丸地盤から棟まで　約　48.3m	全左　24.7m
重さ	ケーソン（4基）約　10,000t　上部建物　約　8,000t	ケーソン　約2800t　上部建物　約2000t
主な構造材（約）	鉄骨　740t　鉄筋　630t　コンクリート　8,220m³	鉄骨 230t 鉄筋 160t コンクリート 普通 1388m³ 軽量 742m³
設備	エレベータ（2基），強弱電設備（盗難防止，火災報知，電話，拡声機，避雷，投光等）換気等，	ダムウエーター，盗難防止，炭酸ガス消火，避雷，便所設備等
用途	主として展示室，展望室，機械室	主として宝物の収蔵・整理・修理，便所

以上のほか正門，銅塀（天守，小天守を結ぶ通路の両側），天守の避難階段，受電所，敷地内排水，屋外水槽等も同時に施工，
天守，小天守も含めて総工費　約　6億円

天守を中心とした城の歴史的考察

城　戸　　久

1

“建築と社会” の特集号で，私に上のような課題で書けと依頼があった。まことにむつかしい課題で，これは史学を純粋に専攻した人でなければ，私のような者には到底こなし得ないと思うが，企画を知らせていただいたところを憶測すると，概説のようなものを書けばよいのではないかと勝手な解釈をして，題名にそぐわない駄文をつづって，責をふさぐことにした。読者のお許しを得たいのである。

近年各地に天守あるいは隅櫓という城の建築を建てることがはやっている。その意味とか，風潮についてはほかに書かれる方があるようなので，さしひかえるが，たしかに日本の都市の大部分は城下町として成立したものが，今につづいて来たのであるから，何等かの形で，城址をのこしており，それは公園というリクリェーションの場として，現代的利用をはかっているものが多い。戦前からすでにそうであったものはいうまでもないが，戦後の変化によってそのようになったところもすくなくはない。たとえばかっては兵営であったが，戦後開放されて公園にした豊橋市のようなところもあり，かっては民有地であったが，都市計画によって公園になった浜松市がある。ただ石垣だけの城址も，それなりに風情のあるものであるが，天守址とか隅櫓址とかがあると，そこにそういうものを建てたなら，さらに一層，景趣をととのえるだろうと思うのは人情であろう。むつかしい議論をすればいくらでも出来ようが，大部分の人はそんなことは考えていないようで，いたって単純である。それというのも各地のすでにある天守や隅櫓を見て，自分の町にもああいうものがあれば，町の美観がさらに引き立つだろうと思うからである。それだけに日本の城の建築は日本人の心の奥深いところにどこかにしみこんでいると思わなければならない。

高いということも魅力である。そこから下を見おろして見たいというのは人間という動物の本能だという話もある。複雑な屋根。これも平常は見なれないものであり，物珍らしさがある。白壁。そこにはいい知れない清潔感が得られる。城の建築物は実際は戦闘という血なまぐさいことに直接に関係しているものであるけれど，一向にそのような感をうけとっていないのである。ここまで建築からうけとる感が全く変わってしまったのは驚く外はない。結局，時間の経過ということが，そのようにさせたということになろう。それは日本の城の歴史的変化にほかならない。

2

天守というのは櫓（矢倉）の一種であって，城内の主要な櫓のことである。史上で最も早く現われたのは細川両家記という書に挙げられている永正17年（1520）にあったと考えられる播津伊丹城の天守である。遺物の上からは天文6年（1537）美濃金山城に建てられたものを尾張の犬山に移建した犬山城天守が最も古いことになる。遺老物語という書にある尾張楽田城の記述では「天守は城中に高さ二間余に壇を築き，その上に五間に七間の矢倉を造り，真中に八帖敷の二階座敷を拵へ」とあって，五間に七間の建物の屋根上に二階をつくって展望台にしたのが天守であることになる。かっては金閣，銀閣のような楼閣建築があったのであるから，そのような建築がつくられても決して不思議ではない。ただ，金閣，銀閣の場合は上層が仏殿となっていて，展望という意味がどれだけあったか，どうかはわからない。しかし，天守の場合はあくまでも展望台として出発しており，同時に指揮司令塔であるわけである。従って高いということが何よりも要求されてくる。

領主権の小さな時代に構造的に高層建築をつくる経済力があるわけではないから，土地そのものが高いところを選ぶことになるのは当然であって，いわゆる “山城” となることになる。領主権の拡大にともなって，“山城” から “平山城”，“平城” というように山から丘，ついで平野へと，その位置がかわってくるのも，政治上，経済上の問題からではあるが，一方においては高い建造物をつくるだけの技術の発達と，経済的な実力が出来ての裏付けがあったからにほかなかろう。とにかく天守がいわゆる天守らしくなったのは天正以後における領主権の拡大が行われてからの問題であって，それ以前においてはせいぜい2～3階程度のものであった。前記の楽田城はそのとおりであるし，犬山城天守にしてもさして高いものではない。ただ楽田城よりは大きく3層屋根4階となっているのは，それだけこれを建築した斎藤正義に経済力があったと見なければならない。現存はしないが，備前岡山城大納戸櫓というのが沼城天守を慶長年間移建し

たもので，永禄2年（1559）の建築であるが，犬山城以上に古い形態をもっていたことがわかる。天正4年（1576）柴田勝豊が築いた越前の丸岡城天守が現存しているが，2層屋根3階で，あたかも楽田城天守の記述どおりのようである。小規模ではあるが，丘上に建っているから，越前平野から遠く望見出来る。この頃の小諸侯の城として，現実にどのようなものであるかがよくわかるのである。（北陸線福井，金津間の車窓から望見出来る。）天守建築はまず室町時代末頃から現われたものらしく，その初期のものは小規模ではあるが，最上階の周囲に，縁，勾欄を廻らして，展望台としての目的を十分に発揮させているのである。

3

天守は古くは殿守，殿主とも書かれて，天主の字も用いられている。室町末期から出来たとすると，どうしてこのような名称がつけられたかが詮索したくなる。梧窓漫筆拾遺に某城の天主に天主教の神を祀ったところから出たとの記述があって，これはかなり広まっている。しかし天主教の入ったのは天文18年（1549）のことであるから，それ以前にすでに天守があったので無関係といえよう。あるいは仏教において梵天帝釈が天の主宰者として須弥山頂にいるという思想が一国の首脳である城の天守と意味が通ずるところから生れたものともいわれる。また，当時の武家邸宅の正殿である主殿もしくは守殿の守となるという考えから，殿主，殿守の語が出来て，その構造が大きくなつて，天を摩すの観があるようになって，天の字が用いられるようになったのではなかろうかというのが大類先生のお説である。今は大体この説に従っているのが多いようである。ただ近年，倉野憲司博士から承まわるところによると，周礼，冬官考工記に「玉人之事　鎮圭尺有二寸天子守之」とあるところから，とったのではないかとのことである。殿主，殿守と書かれているものは大体古いものについてか，小規模のものに多いのであるから，それが天守となったのはあるいはそうであるかも知れないけれど，殿守（殿主）のおこりはやはり大類先生のように城主居住の場所である守殿（主殿）を守る建築物という意味で，あまり深い意味もなく呼ばれるようになったのではなかろうかと考えているのである。当時の諸侯が深い仏教的思想を持っていたとも考えられないし，また，中国の古典に通じていたとも思われないからである。

殿守の語源をいたずらに詮索するよう紹介したのは，殿守と書かれていたのが天守に変って来た頃が，建築物としての規模が大きくなって来た時と相応するのであり，同時にそれは領主権の拡大を意味するからである。

4

領主権の拡大は天守の用途が軍事的な展望台という以外に領主の威厳を示す一つの方法として政治上の意味を持つように変って来た。そのためには一城の装飾として美的になす必要がおきて，天守は全く面目を改めるようになった。もっとも，それ以前にそのような気運がなかったわけではない。当時の諸侯は農村における野武士が次第に実力を養ったものであり，その念願とするところは上洛にあったように，将軍としての覇道を夢みているわけで，何等かの力を得ればそれ相応にその象徴を誇示しようとしている。そのためには京都における特権者の建築文化があこがれの的である。丸岡城天守の最上階がかっては黒漆金箔押であったらしいような断片が修理の際見出されている。はたしてそうならばこの小天守においてしかりであり，信長の清州城からも金箔押の瓦が出土しているのもその現われであろう。義満の金閣を夢みているので，それは権力と財力の象徴にほかならない。しかし，天下一統の気運は信長によってととのえられたのであるから，彼が天正4年（1576）に築城した近江安土城天守は，丸岡城のそれと同年代ではあるが，その大さにおいて，また，壮麗な点で従来のものから全く脱化したものを造ったのである。信長公記の安土城天守之次第という項によると，第1階は20間に17間で，屋根5層7階。内部は各階とも豪華な装飾を持った書院造であり，外部も上層部分は華やかに飾られていたのである。金閣，銀閣という足利将軍のつくったものより以上のものが建てて見たいからである。古い頃から安土城の天守が天守の初であるといわれるが，これ以前に天守がなかったわけではないから，こういう考え方は従来のような軍事的建築物としてでなく，政治的な意味のある建築物であるというふうに天守を解したことにほかならない。安土城は建てられて間もなく光秀の乱で焼亡し，現在は天守の石垣をのこしているに過ぎないが，金箔押の瓦が見出されており，信長公記の表現は決して誇張ではないようである。ただこの城下町が後に続くことなくおとろえてしまったので，このところに天守の再建は考えられようもなく，現在におよんでいるし，これからも観光面からも実現性に乏しいのではなかろうか。それをささえるだけの経済的基盤が安土の土地にはないからである。これに対して秀吉の大阪城は信長の安土に匹敵する大さと壮麗さを持ったものであった。そして城下町はその後今日まで続いて大都市となり，ついに昭和初年にそれを再現させたことになる。秀吉の場合は彼の権力の象徴であったが，昭和のそれは大阪市民の財力の象徴であろうか，あるいは懐古趣味であろうか。とにかく現実では観光客で一杯であり，観覧料をかせいでいるのである。高層建築のある今でもなお天守は高くて展望によいから，誰れでも登って見たくなるからであり，その特長のある建築としての外形は人を引きつけるのである。

ましてや，高層建築の全くない時のことを思えば天守建築は権力の象徴として武将の居城にはかけてはならないものになったようである。大阪城はその一部を秀吉歿後一時家康が使っていたもののようで，ここに家康が別の天守を建てたと考えられるのは，天守を上げること自身が武将のその地に存在していることを明示したものといえよう。慶長5年関ケ原合戦のとき西軍諸将が家康に送った軒奸状である「内府ちかひの条々」の第8条に「一，御本丸の如く殿守を被上候事」と書いてあって，秀吉の建てた本丸天守と同じように別の天守を自分の使っていた西之丸に家康が建てたのである。こういう状勢であったから，秀吉，家康でなくても諸侯が各々の経済力に応じて居城に天守を建てた。安土や大阪がその範となったことはいうまでもない。ただその実力は金箔を押したり，黒漆を使うというほどまでにいたっておらないから，装飾こそ安土や大阪のようにはならないが，経済力は室町末期の武将とは問題にならないほど拡大されているから，大きさにおいてはそれ相当のものとなった。広島城，岡山城，松本城，松江城などいずれもしかりである。そして関ケ原役後においては諸侯が一応その地を得たので，鍋島直茂譜考補に「慶長十四年巳酉，天守（佐賀）御成就，今年日本国中の天守数二十五立」と見えているようにまさに天守ブームとなったわけで，慶長14年（1609）には全国で25もつくられている。ましてやその前後数年の間について見れば驚く数にのぼったであろう。これらの天守について，今となって遺構がのこったり，古図その他の資料ではっきりわかるものはあまり多くなく，その他のものはあまりはっきりとしていない。また，遺構があっても，造営の年代など明らかでないものもある。たとえば岡山城天守は慶長2年(1597)宇喜多秀家の築城ともいわれるが一説には天正10年(1582)から17年の間に築かれたともいうし，松本城天守も文禄2年（1593）と伝わるがはっきりとしない。造営年代を確実に示す史料にかけているからであり，様式の上からはそれほど厳密な根拠にはならない。近年になって史学の上で封建制の成立を明らかにしようとする研究が進んで来たが，それには領主権の象徴であるこれらの天守が何時建てられたかが問題となって来る。つまり諸侯が領主権を確保して，経済的な基礎があって，はじめて天守という大建築の造営が可能になるのであるからである。したがって今後この方面の研究がさかんになれば，従来はあまりはっきりしなかった天守の造営年代も，別の方向から，ある程度正しい推定が出来るようになることも考えられる。

5

江戸幕府の成立は諸侯の城を制限することになり，元和元年（1615）にいわゆる元和一国一城令を出して，諸侯領内の小城を破壊させたし，また，武家諸法度で，新城をつくることを禁じたし，修理は幕府の許可を得なければならないことにした。この幕府の平和政策は天守についての今までの考え方を次第にあらためさせることになった。江戸城天守でさえも明暦3年（1657）の大火で焼けてからは再建されなかったし，二条，大阪両城の天守も同じように焼けた後は建てられなかった。もはや幕府の体制はととのっており，その権威の象徴としての天守の必要性は感じられなくなったからである。ただし，これは幕府にとってのことであって，諸侯ではそこまで徹底するのは容易でなかったろう。したがって，江戸時代を通じて，再建された天守は割合に多いので，今のこっている高知，丸亀，宇和島，松山などの天守はいずれもそれである。一方において武家諸法度は存在するが，これは幕府の諸侯制御策であって，福山城のような新城を許して大天守を建てることも許しているし，また，各地に天守の再建も行われているのである。平和政策を打ち出しながら，あえて，そうしたことを認めなければならなかったのは，今までのように天守は権威の象徴であるという考え方を脱しきれなかったともいえるが，同時に，もはや諸侯の城が軍事施設であるという考え方がきわめて薄くなって来ていることを物語っている。江戸幕府は250年も長くつづいていて，その間に戦乱らしいものはわずか島原の乱があっただけである。このながい間に諸侯の城は現実に存在してはいるが，それは内容的に政治機関の施設に化してしまったのである。

250年といえば一家にたとえればおよそ8代から9代の間である。城はあっても一度も戦に利用されたことがないのであるから，領主はもとよりこれにつかえている武士でさえ，それが軍事施設であることを忘れるようになって来るのも当然である。まして，ただ天守を遠くから眺めているだけの民衆にはそんな考え方がおきてくるわけはない。今とちがって，民衆は食うことだけに忙がしくて，余分なことを考える暇もなかった。維新後さらに100年，家でいえば3代たっている。今の人に日本の城がかっての軍事施設で血なまぐさいものだという観念がおきてくる道理はない。ただ，高い建築物であるからその上に登って見晴す快感を味いたいこと，遠く，近くにその景観を眺めたいだけのことである。いたって簡単な心情である。

天守は封建制度の象徴である。この民主主義の時代にそのようなものを建てるとは時代錯誤もはなはだしい。もってのほかだ。——という議論が一方から出てくる。まことにご無理ごもっともなことである。しかし，普通の民衆はそんなことは考えていない。ただ自分の都市にも天守が欲しいのである。そしてその気分を満喫したいだけである。欲しいものなら建てればよいので，また何をかいわんやである。少くもそうした人達の心にたびたび接しており，よく知っているだけに蛇足をつけ加えて結びとしたいのである。（昭.33.7.15）

（筆者　名古屋工大教授・工博）

「城復興の意義」　観光厚生の見地から

重　松　敦　雄

わが国の観光事業は逐年飛躍的な発展をとげ，外人観光客の来訪者数も昨年は12万8千人を数え，これら外客の落した推定消費額は6千5百万ドル（邦貨約233億円）に達し，戦前戦後を通じて最高となり，わが国貿易外収入の重要な一翼を担い，国際収支の改善，国民経済の再建に寄与するところが極めて大きく，かつまた文化の交流，国際間の相互理解と親善の増進等，いわゆる国民外交上果している役割もまた非常に大なるものがある。

一方，国民経済の安定にともない，国内旅行も日を追って隆盛となり，これが地方の経済の好転，文化の向上発展に非常な影響を与えるとともに，国民の文化教養の向上，勤労意欲の増進等に貢献しつつあり，これは近年世界的な流行となって「ソーシャルツーリズム」の推進に大きく一歩を踏み出そうとしている。

政府においては観光事業が国家的にみて以上のごとく非常に重要な事業として，多大の関心を示し，昭和31年8月10日，閣議において「観光事業振興基本要綱」を決定し，これに基づいて「観光事業振興五ケ年計画」を策定，昭和32年度から実施することとなった。

今年はその第2年度に当り昭和36年を目標とし，国際観光事業の整備とともに，国内観光事業の健全な発達を図るべく推進中である。

とくに交通機関，宿泊施設，対外観光宣伝，道路，国立公園，温泉，文化財の利用施設，観光対象の保護育成等に重点が置かれている。

「城」も貴重なる文化財として観光事業に寄与している点にかんがみ，とくにその保存修理，防災施設の充実に力を入れている。

文化財保護委員会においても文化財保護法に基づき年々わずかではあるが，補助金を交付して，その育成に当っている。

この「城」は，わが国固有の建築物として，封建時代の古くから軍事的・政治的な目的により造られ，小さいものはとりでと称されるようなものから，壮大なものは姫路城のごとく華麗なものに至るまで，大小さまざまのものがあった。

しかし長い年月の間には，遠くは戦国時代の内乱にあい，あるいは明治時代の取りこわし，近くにおいては未だ記憶に新たな太平洋戦争の戦災等と幾多の変遷を経て今日に至り，現今においては数えるばかりとなり，天主閣，城門などの一部が残っているものは極めて少なくなった。

かように今日においては，数においても少なくなったが，少ないから非常に重要になったというのでなく，建築学上においても，その構造等，日本古来のものであるので，観光資源として観光上はもちろん，建築学的には貴重な資料となり，はたまた芸術美の極致となって観賞されている。

わが国の「城」は外国のように外敵から守るために造られたのと違って，国内の諸大名の争いによって発達し，築城に当っては要害堅固な場所が選ばれたのは，もちろんであるが，同時に美しさという点についても気を配られていた。したがって本来の軍事的の目的を果すというためのものばかりでなく，風流な月見や花見をするために設けられた月見櫓というのもあれば，美しい庭園等もあって，その機構美に一層内外人の注目を集めたのである。

また天主閣と石垣の曲線美とのマッチした外観外容は非常に壮大で雄偉な建築美を構成し，その芸術的な建築物は，わが国独特の観光資源として，遠く海外から来訪する外人観光客の目を見はらせるばかりでなく，また国内の観光客からも往時をしのび，歴史の流れを知るのに役立たせ，郷愁をかりたたせるものがある。

最近，欧米の文化人の中には，わが国古代の建築美を採り入れんと研究を進め，とくに米国においては日本建築ブームを巻き起していると聞いている。この際，わが国固有のあらゆる風俗や文化をどしどし紹介し，彼我文化の交流を図り，わが国のよさをみてもらうことこそ国際観光事業の発展に大きく貢献するものである。

たまたま近年とみに各地において「城」復興の気運が上り，地域社会の中心として心のよりどころともなし，地域経済・文化の向上発展に観光事業の一環として観光

計画を樹立しようとの動きがある。

しかし，いま再建されようとしている「城」は，二の丸から三の丸など城郭全体を元の姿にしようというものでなく，天主閣だけというのが多いようである。その天守閣も真の意味において復元されるかどうかという点になると，建築家や技術家の専門的な意見を聞かなければなるまいが，観光の見地より見れば喜ばしいことの一つである。

各地における都市の発達を展望すると．城を中心として発達した城下町は全国に数多くある。現在，観光都市と呼ばれる多くの都市は，この城を中心として観光対象を整備し，また宣伝においても，これらを背景にして観光客に呼びかけている。

東京に来訪する外客には，まず江戸城（宮城）を案内し，国内観光客も何をさしおいても真っ先にここを見学することになっている。

都市の中には城の復元により，その中に郷土の博物館を造り，入場料をとって復元費を稼ぎ，うまく行けばその都市の増収を計ろうと目論んでいる所がある。

このようなことから最近「城」の復元を起債に仰ぎ，その入場料金をもって償還し，合せて郷土の名物を造ろうという方法が，旧城下町の流行のようなことになって来ている。

たまたま，これに呼応したかのように昭和32年度より政府の財政資金の中に観光起債の枠が設けられたので，今まで造りたくても，その方法がなくて，切歯扼腕していた各都市は競って，起債による「城」の復元に乗り出してくるに至った。現在申請中のものだけでも名古屋城，岡崎城，熊本城，小田原城等がある。これらの城の復元計画書を見ると，その参観者で充分採算がとれる見込みのようである。

このように各都市の「城」が復元され，その都市の郷土の名物となり自慢となるとともに観光客の誘致政策として，その都市の増収に役立つことを思えば「城」の復元もまた観光に重要な施設であると言えよう。

（筆者　運輸省観光局整備課長）

天井・間仕切には軽量鉄骨を・軽量鉄骨は日進式を御採用下さい・
耐震・耐火・軽量・堅牢
防錆完全・中空防音
合理的工法・責任施工
株式会社 奥村重兵衛商店
大阪市北区木幡町五六番地
電話北㊱四一三一～四

＝特許＝
氣光式通風器
製造販売
扇団式レギスター
特許第一五三六号
カタログ進呈
大阪市西区江戸堀上通1の5
田辺工業株式会社
電話土佐堀㊾7437—9

各種陶管・大正便所・S.P.石綿パイプ・モルタル製敷ブロック・腰掛ブロック・スペンサー
セメント煉瓦・流司洗濯槽・塵芥箱・空気抜・ヒューム管
各種セメント製品・コンクリート製品製造・販売
三舟建材商會
大阪市住吉区上住吉町三一番地
電話㊲2420番

彰国社新刊重版案内

新刊 **透視図のテクニック**

高田秀三・西川驍・金春国雄　編著　本書は建築透視図の歴史的発展過程より解きおこし内外一流の著名建築家のパースなどを取入れながら，あらゆる種類の透視図のテクニックを実例によって視覚的に解説された好著です
A 4変形110頁(原色6頁) 定価¥1250 〒130

看板と広告塔

建築写真文庫・第75巻

彰国社編　本書は，新しいデザインによる看板と広告塔を，写真によりいろいろな角度から収録紹介した写真集であります。商店街・繁華街にとっては宣伝の上から，都市美という観点に立っても，一見をお薦めできます。
B 6判 80頁 総アート上製　定価¥300 〒30

ショーウィンド

建築写真文庫・第78巻

彰国社編　この本は，ショーウィンドの新しい意匠による各種のスタイルのものを選んで紹介したすぐに役立つ好写真集として商店関係者の手放せぬものであります。既刊の49巻ショーウィンドとショーケースの姉妹篇です
B 6判 80頁 総アート上製　定価¥300 〒30

工程管理のしかた

建築文庫・第49巻

笹間一夫著　本書は主として監理技師に工程管理の便を供するために書れたもので，著者創案の工程管理と進度管理はできるだけ科学的に理解できるよう述べられ，工程表製作は建設省営繕局の制定するものによっています
B 6変形　168頁 上製　　定価¥200 〒20

重版 **鉄筋コンクリート構造・基礎構造**

建築学大系・第16巻

建築学大系編集委員会編　鉄筋コンクリート構造の内，性質を小倉弘一郎・設計法を高橋豊太郎・設計例を石井勇・壁式構造を岩間正壱，基礎構造は大崎順彦・古藤田喜久雄の両氏。以上，この分野における最高執筆者です
A 5判 522頁　特製函入　定価¥1300 〒130

東京都千代田区平河町2-11　電(33)営業-0293・2851　編集-1745・4523　振替東京173401

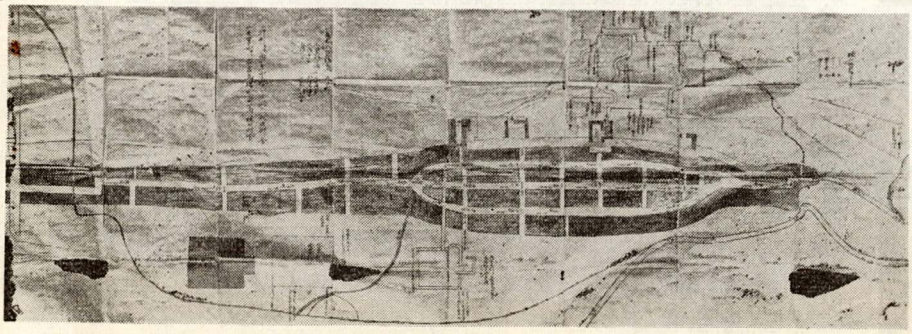
水口と永原の城

川上　貢

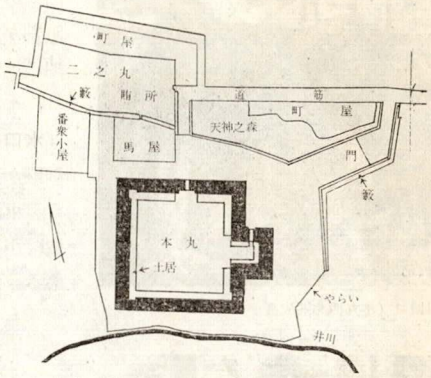
近江の国でも湖東地域は豊沃な平野にめぐまれ，北陸，東海地方と京都，奈良をむすぶ交通上の中継地でもあったところから古代より近世にいたるあいだ社会，経済，交通の発展に強く寄与してきた。なかでも近世初頭，信長や秀吉が天下制覇の大望を成就する過程において，この湖東地方の戦略的価値に注目し，安土あるいは長浜そして近江八幡にその本拠を置いたことは有名である。さて，安土，長浜，近江八幡あるいは彦根の諸城については，これまで多く紹介され論じられているので一応ここでは除外し，ほとんどとりあげられることのなかった永原と水口の両地にみる城について紹介してみよう。

さて，慶長初年，江戸を中心とする道路網が整備され，宿駅の設置や人足伝馬の制が確立されて交通の発展に著るしく貢献した。湖東地域を経由する街道には中山道と東海道の両道があり，草津で合流して大津，京都に通じたことは今更いうまでもなかろう。この両街道の沿道のなかで徳川幕府の直轄領の支配と交通上の要地という二重の性格を満足させる適地としてえらばれたのは中山道の永原であり，東海道の水口であった。なお，これは徳川幕府にはじまるのではなくて，すでに信長や秀吉のときにさかのぼることができ，徳川氏は先行両者のあとをひきついだにすぎないと見做される。(1)

水口（滋賀県甲賀郡水口町）　水口は古くは美濃部とも呼ばれていて，北は鈴鹿山脈につらなる丘陵を背にし，南は湖水にそそぐ野洲川の流れを前にして形成された聚落で，町の中央を街道筋が通り，東は土山宿，西は石部宿に隣っている。現在は国鉄草津線貴布川駅に私鉄で連絡されているが，近時国道一号線の拡張によって草津からバスの直接連絡がある。



第1図　水口町之絵図（中井忠重氏蔵）

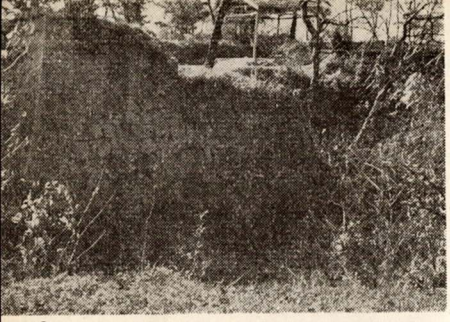


第2図　水口城略図（寛永11年造立当初）

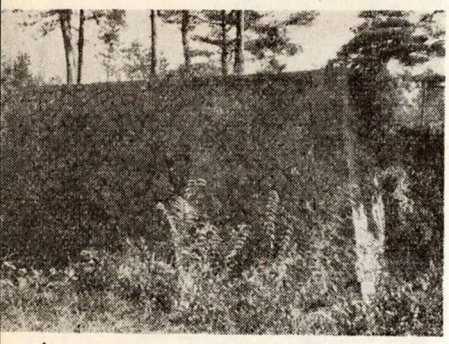
この水口は江戸時代享保19年（1734）刊行の「近江国輿地志略」の記すところによると，古城，水口御殿跡そして水口城の三城が存在していた。以下順を追ってその内容を説明しよう。

〔古城〕水口町の家並に接して北側に岡山（城山ともいう）と呼ばれる標高281.05米の丘陵を利用し，丘麓の周囲に堀をめぐらし，頂上に本丸・出丸の各郭をきづいて城郭としたもので，この地を領した中村一氏が天正13年（1585）に築城するところと伝えられている。中村氏についで秀吉五奉行の一人長束正家の居城（五万石）となったが，慶長5年（1600）正家は石田三成にくみして関ケ原の戦に破れ，水口のその居城も落城し，徳川方の管理するところになった。幕府はこの地を直轄領とし，代官を置いたが，岡山の城は廃棄されて再建されないで終ったらしい。そして，のちに地を易えて後述の水口城が新造されたところに，新城と区別して古城と呼ばれることになった。

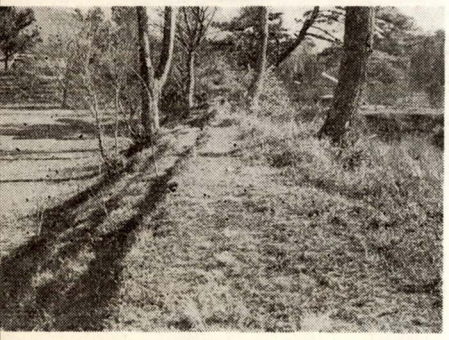
古城の規模については寛永年間の古図（第1図）にうかがえる程度で詳細(2)は明らかでない，この図に示されるところでは岡山の丘陵をそのまま城に仕立てたもので，周廻20町のふもとに堀をめぐらし，丘の南面中央，主街道に面して大手門を設けて正出入口とし，丘の東西両端に副出入口を設けた。そして，各門より頂上の本丸と出丸に通ずる登山道が曲折して



第3図　水口城址（本丸南側正門附近を堀外よりみる）

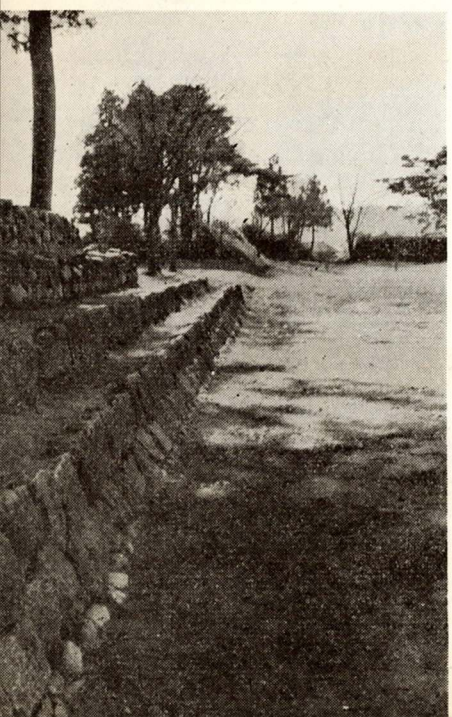


第4図　水口城址（本丸西北隅矢倉址の石垣）



第5図　水口城址（本丸南辺の土居、左側は郭内、右側は堀、正面は東辺の土居）

第6図　水口城址（本丸郭内東辺のがんぎ）



つけられ，また大手門に近く居館が存在していた。本丸と出丸は丘陵頂上の鞍部をつらねる線上に，石垣をきづいて敷地をつくりだし，谷間を利用して堀とし，各郭を仕切っていた。なお，本丸郭の東端に石垣高九間，東西六間，南北八間の天守台をきづき，天守を造立したらしい。

つぎに，この城山の東ふもとに接し，城山に平行して街道筋を中心に南と北に二本の町筋を通し，さらにこれら三本の町筋を南北行の小路でむすび，そして諸道路に面して町屋がたちならんだ。この町割は城の大手，副門の配置や城山との一体的布置において有機的つながりをみることができ，築城と平行して町割が実施されたことを思わせる。つまり，古城と水口町の関係は近世初頭各地に建設された居城を中心に配置された城下町の典型例にしたがうものであり，そして城はまた平山城の一類型を示すものと言える。

〔**水口御殿**〕「近江国輿地志略」は慶長9年（1604），東福門院御旅館として御殿が造立され，享保年間にはその跡をのこすのみで施設は廃されていたという。東福門院（秀忠女和子）が入内のため上洛の途次，水口に宿泊したときに御殿が造立されたとすれば，それは慶長9年でなく元和6年（1620）のことである。前出の古図に御殿または御茶屋と記され，町の西端街道筋の南方に所在するものが，これに相当し，50間×53間のほぼ方形の敷地をもち四方に堀をめぐらし，そして東方に桝形を突出し，北面して正門を配置した地割をもっていた。慶長，元和の幕府創設当初，家康をはじめとし，秀忠，家光の三代のあいだ将軍が江戸または駿府と京都のあいだを往反した道中において，その宿泊の用に充てるため街道筋の諸所に専用宿館（当時御茶屋または御殿と呼んでいた）を設けたことが知られている。近江国ではこの水口と後述の永原のほかに柏原や伊庭に専用宿館が設立されていた。水口では慶長20年（1615）に家康が一泊し，代官の饗応をうけたことが知られるので，このころにはすでに設けられていて，元和6年の東福門院の宿舎はその既存の施設を利用したものと考えられる。この御茶屋施設の内容は明らかでないが，つぎの水口城や永原御殿のそれと性格が同じであったところにほぼ類推できよう。

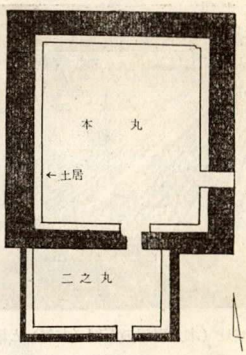
〔**水口城**〕　寛永11年（1634），将軍家光の上洛に際してその宿泊の用に小堀遠江守政一を奉行に任命し，新城が水口に造営された。この新城は水口町の西をはずれた街道筋の南方に所在し，南北75間，東西73間のほぼ方形敷地と東方に突き出た桝形で本丸郭がつくられ，その四周に巾11間ないし9間の堀がめぐらされた，そして土居や多聞矢倉がその内にめぐらされ，四隅に矢倉が設けられていた。郭内の施設には玄関，遠侍，広間，御殿，休息所，御亭，御小姓衆部屋，大番衆部屋，坊主部屋，奏者所，料理所，台所，上台所，風呂屋，納戸，物置などコケラ葺屋根の諸建物が簷を接してたちならんでいた。これらの諸屋の配列や構成は後述の永原御殿や京都二条城の本丸および二之丸にみるそれらとほとんど同一手法で，わずかに間取に変化がみられる程度である。なお，二条城本丸郭では四隅の矢倉の一つが五層の天守であり，ここでは天守がなくて矢倉のみ存在したところに，両者の大きな相違がみられる。

上の本丸郭の堀外は空地をのこして籔と矢来で外部と仕切られたが，南辺は井川に沿って矢来をくみ，川を堀に仕立てた工夫がみられる。そして西北部に二之丸を附属し，宿泊時の設営準備や施設の管理と警固のための賄所屋敷と在番屋敷が設けられていた。この二之丸施設が北方に突出することによって，在来直通していた街道が二之丸の北辺に沿って迂回させる道筋の変更が行われた（第2図参照）。

この水口城の施設はその後在番武士を江戸より派遣して管理されていたが，天和2年（1682）在番制を廃し，大名領として加藤氏が入部し，その居城にあてられた。そしてそののち加藤氏の転封，鳥居氏の入部，さらに加藤氏の再封

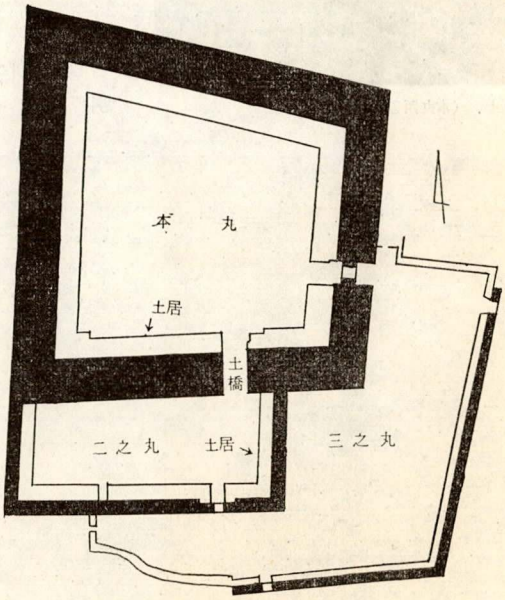
などの領主の交代があって明治維新を迎えた。現在，この城址には建物はすべて消滅し，四周をめぐる堀，石垣，土居，がんぎによって往時の姿をしのぶほかはない（第3，4，5，6図参照）

永原（滋賀県野洲郡野洲町字永原）　永原は国鉄東海道線野洲駅の東北2.8粁の地にあり，野洲にて中山道と分岐したいわゆる朝鮮人街道に沿った聚落で，永原城址（または永原御茶屋，永原御殿ともいう）はその町はづれに所在している。この永原の地は湖東近江平野の中央に位置し，戦略上の要地としてまず信長の注目するところになり，その部将をして守備させ，あるいは上洛の途次にはその宿営地にあてたことが知られる。朝鮮人街道とは江戸期の朝鮮人通信使の往来街道に指定されたところにその名称を発しているが，元来は中山道とならんで古くから利用された街道であって，秀吉が近江八幡に新城下町を建設するにおよんで整備されたものである。家康は京都への上り下りの経路としてこの街道をたびたび利用し，かつまた永原に所領をもっていたところから，その旅行宿泊のために，この地に宿館を設立したものであろう。創設年時については，家康の永原における宿泊が慶長10年（1605）までさかのぼることができ，ほぼこのころには一応施設がととのえられていたものと考えられる。当初においては東西42間，南北48間半の矩形敷地の四周に土居と堀をめぐらした本丸郭とその南方に桝形状に突出した東西35間，南北20間半の二之丸郭で構成され，本丸には玄関，鑓之間，広間，対面所，小広間，御殿，台所，小台所，料理間，風呂屋，物置，蔵の諸殿がたちならび，東北，東南，西南，三方の角に矢倉があり，南面中央に正門，東面南寄に副門が開かれていた。そして二之丸は賄所屋敷と馬屋があり，南に門を開き，東，西，南の三面に本丸と同様土居をきづき堀をめぐらしていた。ところで，この本丸郭の規模ならびに構成を前出の水口城のそれに比較すると，規模の上では前者は後者よりも劣っているが，地割の形状や施設の構成にみる手法はほとんど等しいと見做してよかろう。そして前者が後者よりもその造立年時が古いところから，後者は前者より発展した形態を示すものといえる。なお，水口では寛永11年造立の新城に先行していわゆる水口御殿が設けられていたが，これは永原とほぼ存立年時が併行していて，その規模においても大差がみられないところから，永原の例によってその施設内容を推測できよう。

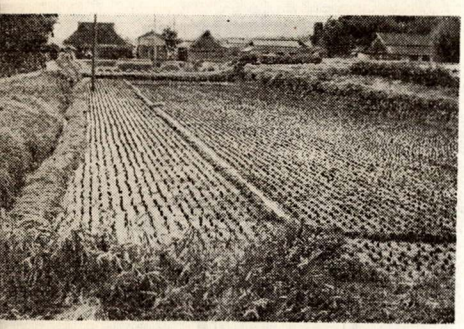


第7図　永原御茶屋略図
（創設当初の規模）

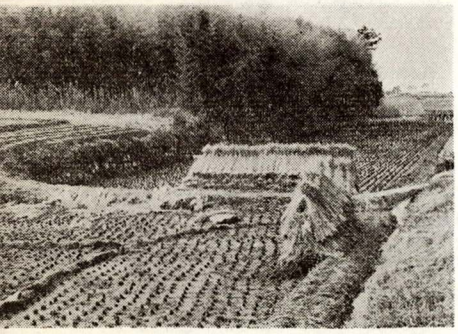
つぎに，水口の場合と同様に寛永11年の家光上洛に際して上記の永原御茶屋の拡張と修繕のための作事が行われていて，その結果，本丸郭は西と北に大巾に拡張され，東辺40間，南辺52間，北辺55間，西辺60間（土居頂上の塀長さ）の梯形平面に変化し，郭内施設には新御殿，御亭，休息所，風呂屋が新造され，同時に既存諸家の修理が行われた。二之丸も西方に拡張され，賄所屋敷の大半が新造されており，そして二之丸東南に三之丸が新造されて馬屋と常番所がおかれた。したがって，拡張完成後の茶屋規模は創設当初のそれに比して著るしく増大したことが知られる。先出の水口の場合とあわせ考えると，近江国に所在する二つの主要な徳川氏宿館は寛永11年を契機に創設当初の規模内容が全く一新されたことになる。このような幕府創業の初期に造立された施設で家光の代に入って造替された例には東に日光東照宮（寛永13年），西に京都二条城（寛永3年）の著名な例がみられ，いづれも当初のものよりも施設規模が拡大され一層豪華によそおわれたところに共通している。すなわ



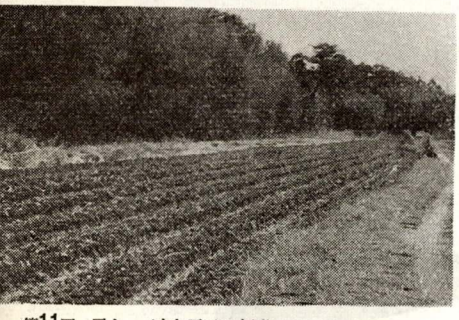
第8図　永原御茶屋略図（寛永11年拡張後の規模）



第9図　永原城址（本丸東辺の石垣（右側）と堀址）



第10図　同上、（本丸北辺の石垣（左側）と堀址、本丸郭内の西半分は竹藪、東半分は開墾され畑地に化している。



第11図　同上、（本丸西辺の土居）

ち，このころ幕藩体制が確立し，幕府権力が一応安定した時期に相当し，既存の施設の面目を一新することによって，将軍家の権威をあらためて内外に確認させ，かつ誇示しようとするねらいがあったのではなかろうか。

上記の永原御殿は常時においては幕府代官芦浦観音寺が管理していたが，貞享2年（1685）になって廃止されることになり，施設のすべてが解体撤去されてしまって今に止めていず，水口と同様，石垣,堀,土居のみが現存している。

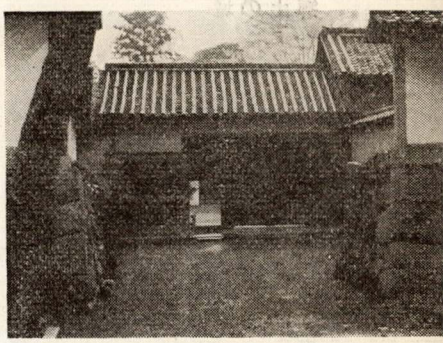
上記の水口と永原にみる将軍家宿館としての二つの城はまずその性格の上で一般の大名居城と相異しているところに特色がみられるが，しかし，城郭形態の手法からすればいわゆる平城の類型に含まれるものであって，ただ天守のそなえがなかっただけの相違といえる。そして，大名居城とちがって，常時使用されるものでなく一夜の宿を提供するにすぎなかったので体裁はそれらに劣り，本丸や二之丸にめぐらされた石垣は土居が堀の水でくずされることを防ぐ効果以上にでず，水面より高くきづかれていない，そして堀の土をつみあげた土居と堀が主要な防禦措置にすぎなかった。なお，水口では西北角矢倉と大手門のある桝形にのみ背の高い石垣がきづかれていた。

また，本丸郭の堀うち土居の間数を二条城や名古屋城の各本丸のそれと比較すると下表のようになり，

永　原	拡張前	東西42×南北48.5間，	拡張後　西辺60間，北辺55間
水　口	（御殿址）	東西53×南北50間，	（新城）　東西73×南北75間
二　条		東西，南北各71間2尺	
名古屋		東西76間×南北78間(3)	

水口，二条，名古屋の三城本丸郭はいずれも方形に近く，規模にも大きな差がなかったが，しかし二条や名古屋では本丸をのぞく二之丸や曲輪が本丸以上に大きな面積を占めたところに永原や水口との大きな相違がみられる。つまり，本丸郭の将軍や領主の居館の規模においては上記四者にみるところほぼひとしいと見做してよく，常住と旅宿の性格の相異はその施設規模の上で大きな影響をもたなかったといえよう。（勿論，施設内容の上では宿館の場合は夫人や家族そして女中をともなわなかったので，それらの施設は欠けている）。なお，ついでにいえば，上記四者の本丸郭の平面地割はほぼ方形に近い点で共通しているが，いずれも平地に建設された平城であったところに整然とした地割を実施することが可能であった。水口古城のごとく平山城のごとく丘陵を利用して本丸郭の地割が行われたところでは地形に制約されて方形または矩形の地割をとることは困難であり，不整形平面を示すのも当然のことであろう。

水口や永原の宿館形式に関連して附言すると，同じ近江国に所在している近世の土豪や代官屋敷のなかに同様な屋敷かまえがみいだされる。たとえば伊香郡小山村の土豪小山家に所蔵される近世初頭の同邸規模を示す指図[4]によると，方一町（約53間四方）の地の四周に土居をめぐらし，そのうちに邸宅をいとなみ，土居外に同家の非血縁分家や披官の屋敷を配置し，さらにその四周に堀をめぐらしていた。また草津市の芦浦観音寺は寺院であるとともに幕府代官を兼ねていたが，同寺に所蔵される江戸中期ごろの指図によると，東西55間，南北30間の不整形の境内地の四周に堀を，そして石垣，籔，堀をそのうちにめぐらし，郭内に阿弥陀堂をはじめ政所屋，書院，庫裡が設けられていた。その表門は長屋門にて門前には石垣，高塀にて桝形を形成し，一般の寺院とは異なった景観を今に残している（第12図参照）。この種のものはほかに山形県，岩手県，新潟県の土豪や代官屋敷にもみいだすことができる。これらの現存する資料や施設の成立年代はほぼ近世初期ごろのようで，小山家[5]の指図に代表される土豪の居館と披官屋敷の構成は永原茶屋の創設当初の本丸と二之丸の構成に，（施設規模こそ雲泥の相異があっても）ほぼ似通っていることを指適できる。すなわち，永原や水口の将軍専用宿館の形態は土豪や代官の屋敷と二条城や名古屋城の中間規模を示すものであり，その素朴なヒナびた例が土豪，代官屋敷であり，豪華に修飾され権力の象徴化されたものが二条城や名古屋城であるとみることができ，いづれも同じ時代の支配階層の住居形態として一つの手法に帰一するものであることが察せられよう。



第12図　芦浦観音寺表門

註（1）永原は厳密にいうと中山道の脇街道である朝鮮人街道に沿つた聚落で，その詳細は本文に後述した。

（2）中井忠重氏蔵「水口町絵図」水口新城が寛永十一年に造立されたときに作製されたもの。

（3）この間数は創建当初の計画を示すものと考えられる「なこや御城之指図」（中井忠重氏蔵）に拠つた。なお，四者ともに一間は6尺5寸である。

（4）宮川満「大閤検地論」（昭和32年12月，お茶の水書房刊）所収指図

（5）小倉強「村落の形態—親方子方百姓の聚落」（日本建築学会研究報告第27号，昭和29年5月）
須藤賢「越後の環濠屋敷」（日本文化風土記第4巻中部篇所収。昭和31年2月，河出書房刊）

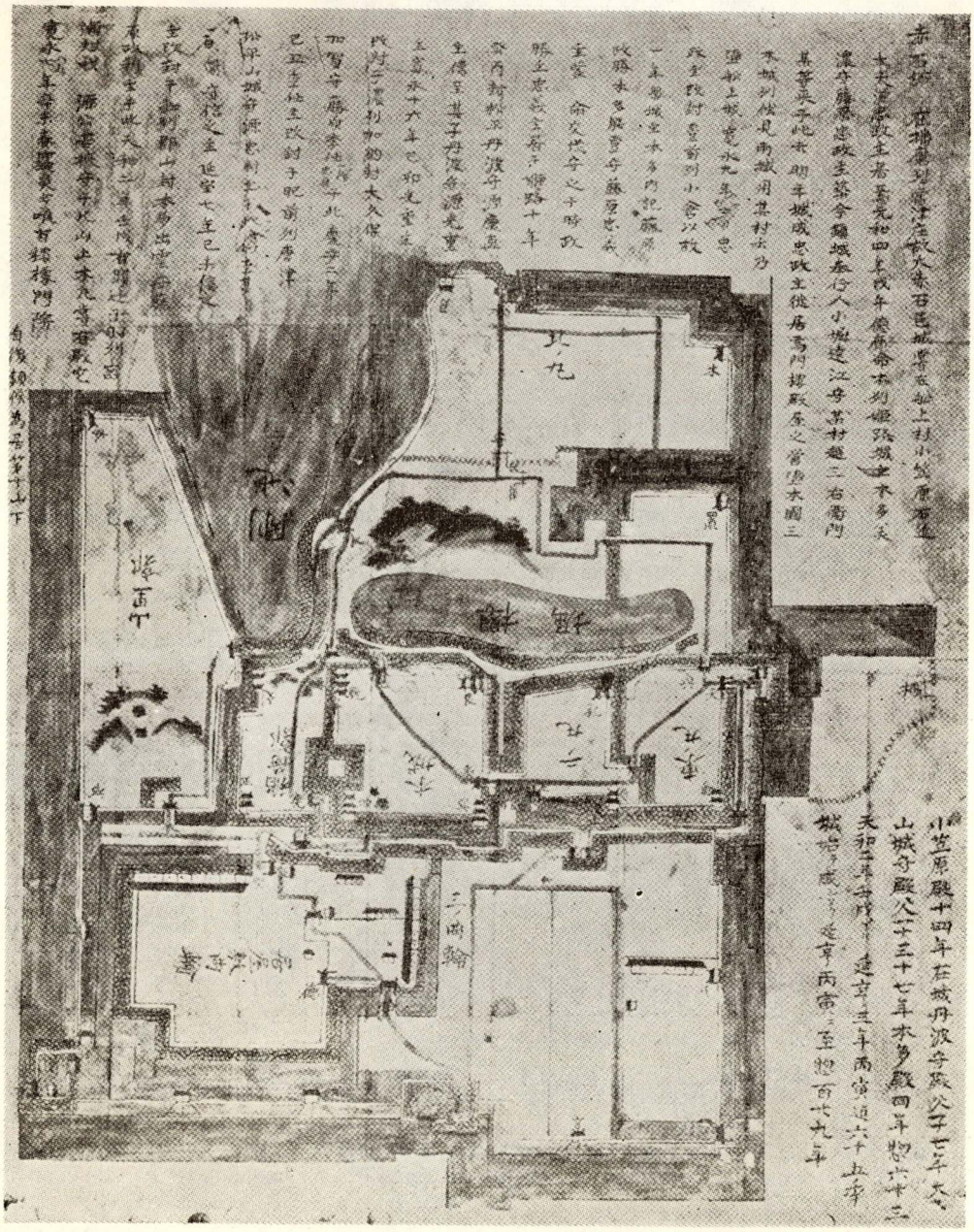
附記：本稿における水口と永原の各宿館規模については京都府庁と中井忠重氏に所蔵される旧中井家文書に拠つた。なお，村田治郎博士，川上貢「永原御茶屋の建築」（日本建築学会論文報告集第58号，昭和33年2月）を併せて参照していただきたい。

（筆者　京都大学工学部助教授）

明　石　城

野　地　修　左

1.　延享３年の明石城図（島田清著「明石城」による）



1

明石城は雅名を喜春城と呼び(注1)，元和3年（1617）小笠原忠真のために岳父本多忠政（姫路城主）の築くところと伝える。

ところで，忠真は在城すること僅かに15年にして寛永9年（1632）豊前小倉城に移封された。その後，城主は戸田松平（寛永10年より寛永16年にいたる）・大久保(寛永16年より慶安3年にいたる)・藤井松平(慶安3年より延宝7年にいたる）・本多（延宝7年より天和2年にいたる）と代り，天和2年（1682）越前大野城主松平直明が入城し，明治維新まで10代186年間，越前松平家の居城となった(注2)。

かく歴代の城主が徳川家の直系か閨門につながるものであったことは，幕府が姫路城と並んで，この城を西国の備えとして重視したからであるとみてよいであろう。

注1「喜春」は「貴春」の音をとつたもので「君主は仁を以て政を行わねばならず、あたかも春の草木を育てるごとく、善を貴するを貴ぶ」の意で、貴を喜に替えたものという。

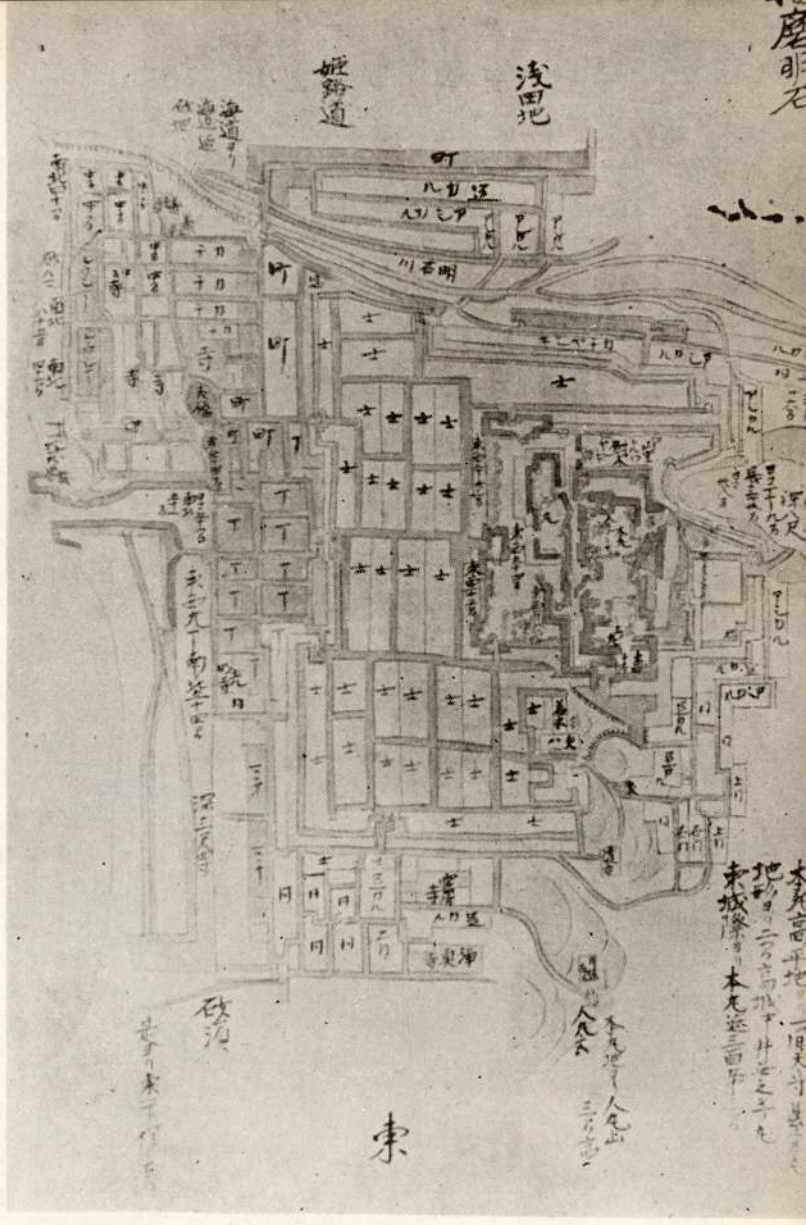
注2 小笠原忠真が移つた後、1年間は姫路城の本多政勝と本多忠義とが交代で明石城を守つた。

2

創築のくわしい事情は遺憾にも不明であるが，縄張り図その他僅少の資料をとおして輪廓だけは，ほぼ知られている。大阪夏の陣の功を賞して，元和3年7月（1617）幕府は小笠原忠真をこの地に封じ，明石美嚢の両郡において10万石を与えた。時に忠真は年なお22才であった。いったん高山右近の旧城（船上城）に入ったが，同年11月幕府の命によって新地を相して築城することとなった。そこで忠真のために，岳父本多忠政は後見となり，親しく現地について縄張りを考え，また監督の任にも当り，幕府もとくに村越三右衛門吉正を派遣して作事のことを担当せしめた。経営前後3ケ年，元和5年8月（1619）には一応の工を了え，10月12日に新城に移従したという。なお築城に用いた材料の大半は三木城や伏見城をこぼった古材であったというから，かく短期間に工をおえ得たのも，一つには，こうした事情があずかって力あったのではなかろうかと思う。

3

城地は大蔵谷の北方から西へひろがる丘陵の西端にあり，南は間近に明石海峡をひかえ，西は明石川の流れにのぞみ，平山城のうちでも最も地の理を占めた一つであろう。幕府が命じて，この地に城を移さしめたのも，ゆえなしとしない。船上城趾の地形に比較してみて，とくにそう感じる。



2. 明石城と城下町（神戸大学建築学教室蔵）

4

城廓の構成は挿図を参照すれば判明するであろうが，つぎにそれについて少しく点検してみよう。

まず内郭である。台地の西端に「本丸」を築き，その西に一段低く「稲荷郭」を構え，東に「二の丸」，「東の丸」を配し，さらにその東方に千石堀をほる。台地の北にそうて「桜堀」をうがち，その北方に「北の丸」を設け，「北の丸」の西方「剛の池」をへだてたところから「稲荷郭」の西方にかけて「山里郭」がある。また「本丸」から「東の丸」へかけての台地の南方下には一段低く「南帯郭」を構え，その南方一帯にひろがる「三の丸」には，西半に「居屋敷郭」を設けて城主の居館を配し，東半には「用米蔵」その他をおく。

堀は上記のもののほか，「居屋敷郭」の前面をめぐって「内堀」を設け，「北の丸」，「山里郭」および「三



3．坤　　櫓（天守台よりみる）

の丸」の外側を取り囲んで「中堀」を配し，さらに「山里郭」西方の「中堀」と明石川との間から始まって南へのび，西国街道の北側から東へ曲り，相生町の北側で北へ折れて「外堀」を作り，「外堀」内を藩士の居住に当てている。

まことに巧妙をきわめた縄張りである。それにしても，こうした縄張りのあとを細かく見てくると，東方の備えに対して，とくに意を用いたらしいことは確かに看取される。小笠原が江戸に向う東方の城地をあまりに入念に構築したために幕府のきびにふれ，小倉へ移されたという伝説が後世生れたゆえんであろうと思う。

ついでに一言したいのは天守のことである。本丸の西端に東西13間5尺・南北11間の天守台がある。が，おもしろいことに，こうした台を造りながら，実は天守の造営は見なかったのである。元和えん武の影響をうけて，そうなったように思われるのか，なんとなく吾人の興味を覚えさせる。築城史上また看過のできない点であろう。

5

現存する遺構は，わずかに櫓2棟と門1棟である。

前者は「巽櫓」と「坤櫓」の2棟で，ともに3重3階櫓である。外部は総塗籠になり，内部は各階を1室としている。各重の落ちは概して上層ほど大で，安定した容姿をもっている。試みに落ちを表示すると，つぎのとおりである。

巽　櫓

	東西面 寸 尺	落ち 尺	南北面 寸 尺	落ち 尺
1階	30.7	6.0	26.7	5.9
2階	24.7	7.2	20.8	6.6
3階	17.4		14.2	

坤　櫓

	東西面 寸 尺	落ち 尺	南北面 寸 尺	落ち 尺
1階	30.5	6.3	36.5	6.4
2階	24.2	5.6	30.1	6.8
3階	20.6		23.3	

建立年代は明らかでないが，瓦や軸部材料からみて，江戸初期として大過あるまい。その後の修理についても，つまびらかでないが，「坤櫓」には元文4年（1739）修理の墨書や棟札があるから（注），その際「坤櫓」は相当の修理を受けたものと思われる。

後者は四脚門で，今「月照寺」の山門となっているがもとは「居屋敷櫓」の「切手門」であったと伝えている。建立年代は明らかでないが，様式手法から推すと，やはり櫓と同時の建立にかかるもののようである。

注（イ）初重大梁墨書

元文四巳年六月日

御櫓修覆有之

普請奉行　吉村八右衛門

同　目付　松村正八郎

同　内田勘平

同　佐藤文左衛門

手大工　河井平吉

同　小巻嘉平治

同　西川源七

（ロ）棟札

石清水　元文二二年

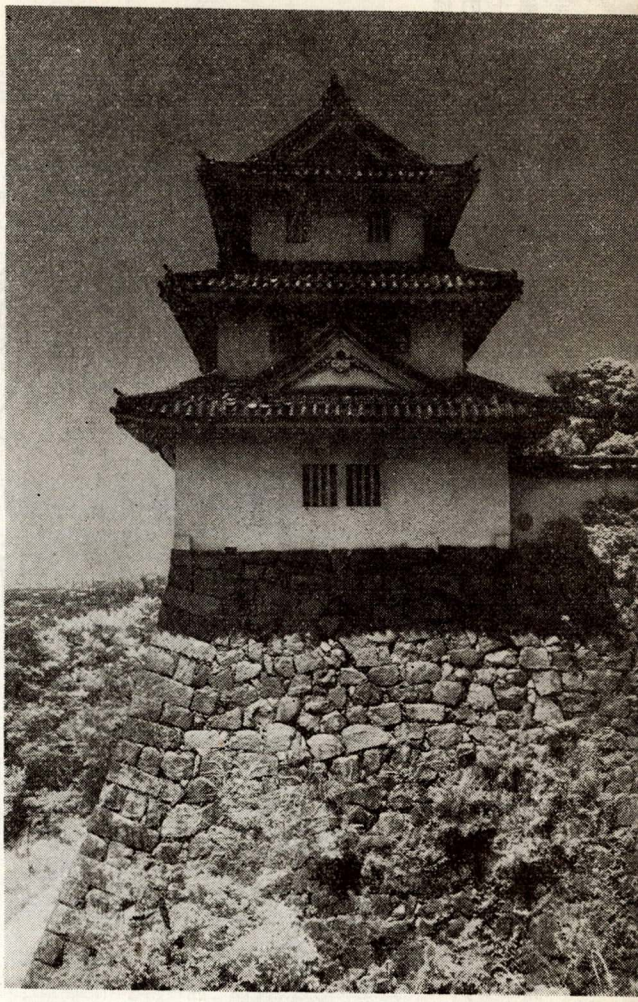
奉修覆不動護摩供御城内安全祈所

八幡宮　五月吉日

6

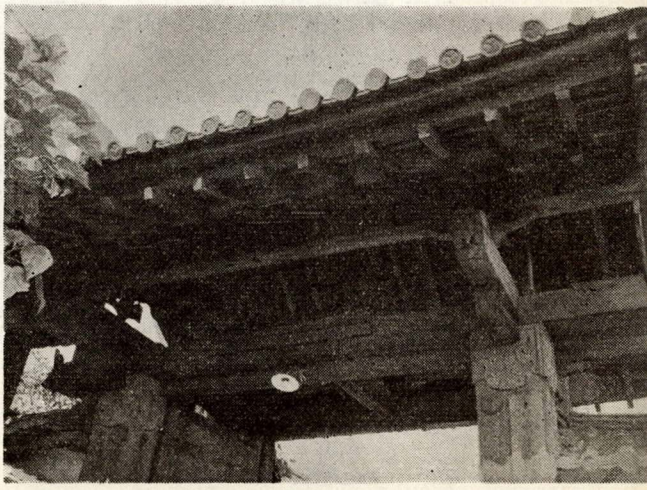
これを要するに維新後いちぢるしく旧態を損じたが，なお「本丸」をはじめ「二の丸」，「三の丸」以下多くの郭がそのまま残され，城の構成がよくうかがわれる上に，櫓2棟と門1棟が残されていることは，城の遺構の数少ない中で，また貴重な資料といわねばならない。

（筆者　神戸大学工学部教授・工博）



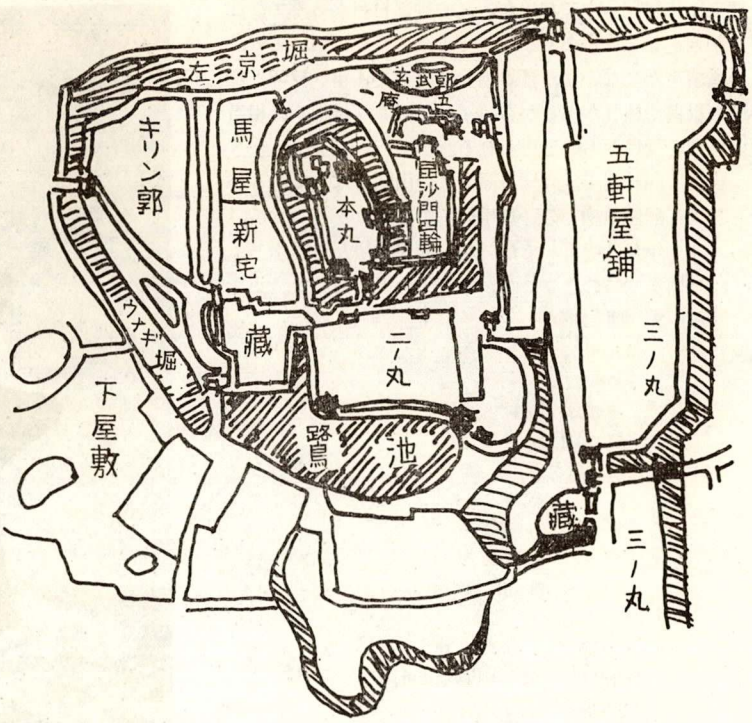
4．巽　　櫓（土の門よりみる）

5．切手門



郡　山　城

河　東　義　方



文禄5年当時の城郭略図

昔の奈良の都は大和平野全体にわたった大平城京であったが，その南端の薬園荘が分立して郡山の庄となり，平城の末期に郡山の町が誕生したのである。

当時の城は土豪の館が発達したもので石垣もなく，周囲に多少の堀割をめぐらし，土塁で囲み，要所に簡単な櫓があった程度であった。

天正8年，一国一城の令に基いて多くの城が整理されたが，郡山城は政治的には京都に近く，また大阪城の藩城として重要であったため天正6年，筒井順慶によって近世的な城郭が計画された。

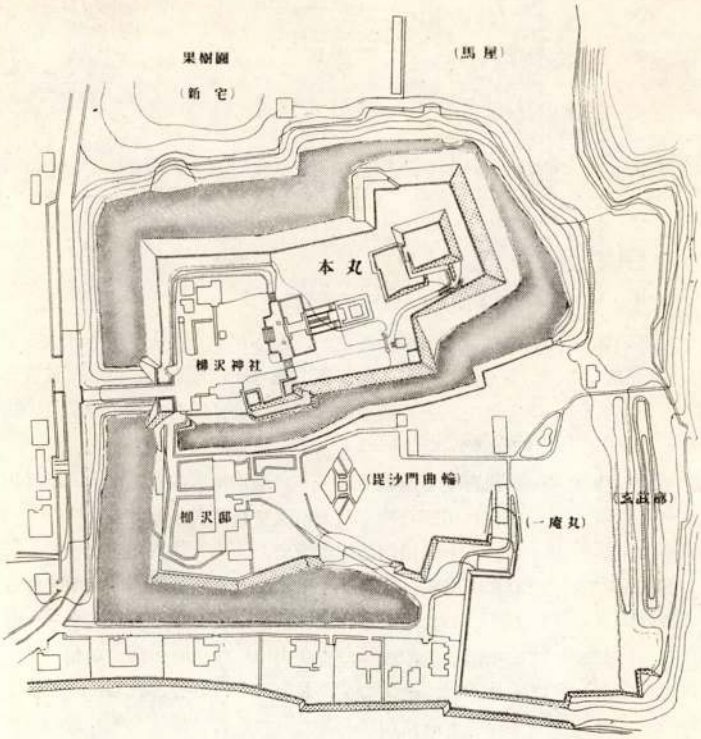
大体の築城の経緯を拾ってみると次の通りである。

天正6年7月	筒井順慶によって縄張り
〃　7年8月	廃城となった多聞山城の大石を運搬
〃　9年5月	着工，奈良の大工を招集
〃　〃　8月	信長の命によって，明智光秀工事の指導に来郡
天正11年4月	天守閣を急造（世相不安）
〃　13年8月	豊臣秀吉の弟秀長入城，大修造を加える
〃　15年3月	紀州根来寺の大門を移築して城門とする
〃　〃　8月	春日社の水屋川から大石を切り運搬する
〃　16年6月	奈良一体の寺々の礎石庭石の大石を供出せしめた
文禄5年	増田長盛入城，外回りの惣堀工事着工，城郭は解体して伏見城に移築
元和元年	大阪夏の陣で城下焼失，城内畑となる。水野日向守入城，居住の二の丸三の丸等復旧，天守閣は再建されず終る
明治2年	柳沢保申のとき藩籍奉還，奈良県の所属となる

当時，石取場が付近にないため，古い寺々の礎石，五輪，石仏等が容赦なく供出され使用されている。

天守台に自然石で，野面積（牛蒡積）で石垣の外観は大変乱雑で荒れて見えるが，石垣の奥行は深く内部でしっかりと組合わされて，容易に崩れない堅牢第一の築石法になっている。その石垣の中に混って梵字のある石等が見受けられ，とくに東北角には羅城門の礎石と伝えられる見事なものが三基ある。松香石でくり出しがあり天平時代のものである。その北側に花崗岩で造った石仏が無造作に積み込まれているのは面白い。

石垣の面が荒れて隙間があり，鎌倉時代の地蔵尊が逆さまにはめ込まれてある。それが現代に至って「逆さま地蔵」としてお参りが絶えないとは，どこまでも皮肉である。なお柳御門，鉄御門の要所も野面積で，いずれも大きな礎石が使用されている。



現在城趾の見取図

わが国の仏教美術史上，記念すべき重要な石造物が，石垣として多く用いられていることは，郡山城の一つの特色であろう。中世的な信仰が一応とどめを刺され，新興勢力の力強さが，ここに感じられて面白い。

豊臣家在城10年の後をうけて文禄4年，増田長盛が入城した。だんだんと家中も増し，約1万の城下町に発達したので，長盛はこれらの町の外回りに外濠を築造して町全体の備えとした。

秋篠川を付替え，一部その川跡を内濠に利用した。

南は箕山を限り，西は丘陵の断崖に二，三の溜池を利用してこれを連絡し，北は凹地に沿って惣堀が巡らされた。総延長50町13間におよび，内側に土塁を築き外側に堀を巡らした。土塁の大きさは場所によって異るが，西，南の丘陵を利用して，とくに雄大である。

今も老松生い茂り籔の笹なりをきく景色は壮厳で，昔日の跡を物語るものである。

城の中心である天守閣は順慶時代に上棟，これを秀長の時代に拡張整備されたが，途中地震によって崩れ，その後は江戸時代にも再建されなかった。

当時の天守閣は三層であったことは明かであるが，図面等は残っていない。

城郭の規模は，今に残る本丸，毘沙門，曲輪，法師郭，二の丸，キリン郭，綠郭，玄武郭，五軒屋敷，三の丸を包む内濠等である。

要するに大和郡山城は建築としては，ごく初歩的な荒削りのものであったことが想像され，石垣にしても粗雑な粗石積で，仏像等の既成石を近郷より供出させてまぜ使った堅固第一のものであって，名古屋城とか姫路城等の精巧さには比ぶべくもないが，ただ中世の館より始まり仏教盛衰の歴史を持って，順慶，秀長，秀保，長盛の4代20余年の間に主として完成された特色ある城として研究に価する。

したがって永い歴史の中には，これにまつわる伝説も多い。また最後の城主柳沢保申は有名な赤膚焼の増産とか金魚の養魚等，郷土繁栄に貢献したことは有名である。

(筆者　大阪郵政局建築部長)

杭
株式会社　武智工務所
取締役社長　福留並喜
大阪市東区瓦町3ノ11(井池筋)旭洋ビル3階
電話㉖3606・4089

随　筆

城

藤　原　義　一

近ごろ旅行すると，先年の大戦に爆撃されて，その都市とともに消え去った各地城下町の天守閣がいつの間にやら復興されて，車窓から眺められるのに驚くことがある。軍国主義の名残りとか象徴とかいって顔をしかめる人もあるが，われわれは，そのものの造られた時の目的とか意味善悪とは別に，何か生きた歴史の流れと，当時の社会や人々の息吹きを感じる。東海道線を汽車で京都へ帰る夕焼雲を背景にして，丘陵上に聳え立つ彦根城の美しさ，穏やかな近江平野の湖畔風景とともに夢のように，うっとりとさせられる。彦根城には全体として，どこか姫路城に似たところがあり，夜汽車で東海道線を下り，朝，眼をさまして，ふと，この城を見て姫路まで乗り過ごしたのかと思わずびっくりすることもある。

名古屋城の天守閣が再興されて，今まで何か物足りなかった名古屋の風景が，またよみがえったようである。西の方では広島城の天守閣が再興して，今まで永い間，死の街のような悲惨な感じが多少救われたような気もする。あるいは天守閣より戦災家屋の復興が先だという意見もあると思うが，悲惨な都市の雰囲気がこれで多少とも救われれば，これもまた決して無駄ではないだろう。

不思議なのは岐阜城の天守閣である。市外の金華山上にあり，汽車の窓からよく眺められたのであったが，いつのまにか忽然と姿を消した。怪火で焼失したとかで岐阜の風景が急に淋しくなった。しかし，間もなく復興されて昔日の観景を取り戻したと思っていたら，また消滅した。再び怪火で焼けたという。原因は無知な人間の放火ともいわれる。城の大敵の随一は，現在の世の中では原爆などは別とすれば白蟻である。何しろ基礎の土中を根拠地として，大きな城全体を白蟻の巣窟にしてしまうのだから堪らない。全国各地の城で白蟻の被害を蒙らぬところは殆んどないといってよいほどで，その最も甚だしいのは高知城であろう。最近の修理工事で苦心惨胆して対策を講じたそうであるが，大変なことであったらしい。

記述が前後したが，火事は現在の城郭遺構で白蟻以上の大敵で，代表的なその例として四国の松山城と北海道の福山城（松前追分で名高い松前城），松山城は現存する城郭としては，規模においても三層の天守閣以下，櫓や門塀など20数棟を現存し，姫路城や彦根城等に次ぐ重要な城郭遺構であるが，近年相次ぐ怪火（多分放火）で多くの建物を失い，福山城も同様怪火でしばしば被害をうけて，とくに福山城の諸建築はほとんど全滅に近い状態に陥った。

現存する城郭で最も古い遺構は犬山城である。木曽川の流れに臨む断崖の上に築かれ，白帝城とも呼ばれている。もと津田信清の居城で，その後数代城主が代り，現存の天守閣は慶長5年に石川光吉が美濃の兼山城を移したといわれている。兼山城は天文6年に斎藤大納言正義の築造と伝えられ，現在の城には当時の様式が相当にとどめられ，全体の形においても，部分部分の様式手法においても天文創建と考えられる古い部分を多く遺し，木曽川の風光に一段と光彩を添えている。

古い城の遺構に対して，その観景の最も立派なのは姫路城である。

姫路城の創始は元弘2年（今から628年前）赤松則松の時といわれている。後年，羽柴秀吉が三層の天守閣を築き，次いで慶長13年に池田輝政が拡築した。これが現在の姫路城の主要部分で，その後，徳川氏の時代になって本多忠政，松平忠明，榊原忠次以下領主が代り，最後に寛延2年に酒井忠恭が入城して以来10代にわたって酒井家の領有として明治に至った。

その本丸天守閣のあるところは姫山と称し，西の鷺山（さぎやま）には本多忠政の代に成った西の丸櫓がある。以後松平，榊原等領主が代り，最後に寛延2年に酒井忠義が入城，以来約10代にわたって続き，明治の藩籍奉還となって現在に至った。

姫路城の美しさは何といっても，この大天守閣を中心として，その西北に連る三つの小天守を以てする，いわゆる連立式の構成，高い石垣上に聳える白壁の大建築と，その裾を二重三重に取りまく各種櫓や門など展開する大観景にある。また現在は風化していて，ほとんど判らないが，表大門に当る重層の菱の門には，窓の格子に漆を塗り飾金具をちりばめた痕跡があり，当初の豪華さを偲ばせるものが認められる。

ここから西へ山陽線に沿うて行けば，以前は岡山城から福山城などの名城があって旅情を慰めるものがあったが，広島城同様に戦災で失われ車窓の観景が淋しくなり，ただ岡山市には，本丸の位置から相当離れた位置に



姫路城天主閣

ポツンと孤立して遺された月見櫓と，福山城に伏見三層櫓と呼ばれるものが僅かに遺されているにすぎない。

ただし，倉敷から伯備線を北へ入ると備中高梁に高梁城，本名は松山城という，ここに二層の天守閣と櫓が一棟，他に土塀などが残されている。この城は松山と呼ぶ山の頂上にあり，高さは京都の大文字山ほどであるが非常に急な山で，それに山肌に笹の葉が繁っていて，この笹に滑って靴ばきでは，なかなか登れない。この城は羽柴秀吉が中国征伐のとき，抵抗が強くて攻め抜くことができず手を焼いた城といわれている。そのとき山肌の笹の上に油を撒き散らし，これに滑って登ることができず，万一登れば火を点けて火攻めにする計略だったといわれている。この高梁町は高梁川の美しい清流が流れ風光明眉で，町並の家々もよく整い，落着いていて，どこか京都風のところがあり，小京都の別名もある。この町中に立派な古い土蔵が一棟ある。高梁城築城当時の遺構と推定され，土蔵の遺構としては全国で最古と推定される。その四方の厚壁は油壁と称されるもので，同様の壁面が姫路城の本丸の入口に一面だけ残されているが，高梁町のそれと照合して興味深いものがある。

一体，土蔵なるものの歴史は割合に新しく，遺物としては普通は江戸時代以降のものしか知られておらず，一般には二条城の本丸等に現存しているのが最古のものとされている。

土蔵が一般に造られるようになったのは江戸の大火が再三あり，町家の屋根に桟瓦葺が次第に用いられ，それと平行して，宇立と呼ばれる一種の防火壁が普及してくる。このことは京都の町を描いた絵図をできるだけ多く集めて年代順に並べて見ると，よく判る。すなわち古い時代の町家のほとんど全部に近いものは板屋根または栃葺屋白に石をたくさん置いたもの，この頃でも富山県や新潟県の海岸沿いに汽車の窓から眺めると，よく判る。その他不便な地方には，いくらでも見られる。

寺院の瓦葺屋根や厚壁は本質的には同じ意味はあるが，多少事情は異り，城郭の厚壁と瓦葺には防火と外観の威容との両面の意味があった。

城の石垣石組みは本来の主目的は防禦であり，高く築いて敵勢を寄せつけず，また堅固を旨として安全を保ったのであるが，その築き方は非常にむつかしく，その技術の根本にはオランダ人などの助言があったとも考えられる。かって姫路城西の丸石垣の修築を見たことがあったが，個々の石はそれほど多くはなく，その石積みの裏込に非常に入念な配慮が加えられているのに驚嘆したことがあった。

地方に行くと，よく古城の遺跡がある。かたはらに草々の花語るらく亡びしものは美しきかな，と藤村の詠んだ小諸城趾は石垣だけが残存して何百年，まだその石垣の石目は微動もしていないようである。会津若松城址の石垣，近いところでは関西線沿線では亀山城址，一見粗末に見えるような小石を積み重ねた緩勾配の広石垣が夏草の繁るにまかせながら，ほとんど狂いを見せていないのである。

石垣ばかりで肝心の城がお留守になったから申しわけに一つ二つ記すことにする。姫路城や彦根城など，立派な天守閣や諸櫓諸門を完備した一流の城郭では，その天守閣や櫓の形状は上下よく均整がとれていて，全体の形も完好と云いうる。しかし熊本城の宇土櫓（現天守閣）や松本城の天守閣には，その輪廓に直線的な硬さが示されているのを感じる。茶筌を例にとれば利休式に対する石州流に相当するような感じ，日本画でいえば狩野派に対する長谷川派とでもいいうるか，城廓を一の造形美術とすれば，これも流派による一つの特徴といえるかもしれない。　33. 7. 8　（筆者　京都工芸繊維大学教授・工博）

随　想

山陰山陽の城

佐藤重夫

幼い頃から，遊び場に仰いでいた郷里の城は，細かなことまでよく知っているはづなのに，一度戦災で失ってしまうと，そのなつかしい姿はただ夢のように浮んでくるに過ぎない。一昔前というには，あまりにも甚だしい移り変りの現し世を，怨むともなく想い返してみるとき，落着きも取戻したという現在ではあっても，私は浮いた今の日本の状態にある空虚をなんとなく悲しまずにはいられない。山陰山陽の各地に残存していたお城にしても，われわれの父母や祖父母の眼には，維新前の偉様を背景として，よほど空虚に写っていたに相違ないし，それに似たような望郷とか懐古とかいうことは，誰の世にも忘れられないものであるに違いない。とはいっても近時，観光という目的をもって，天守閣が各地に建てられて来たのは，一体どういうことなのであろうか。これは復元（科学性）なのかどうか，私には判りかねる気持が積って，まだ未解決であるのだが，所詮，焼け落ちた城は心の内に既になくなってしまい，幼い頃あれほど親しみ，遊び場にさえ考えていた親しみある城というものは，城に附随した七不思議などの語り草と，それを夏の夕話や童話に聞いた頃の生活とともに，よい部分をも既にそっくり失ってしまっているのではないかと思うと，城は城でも，すでに形のみの美観のように思われてならない。グロピウス氏は大阪城を木造であったならと嘆いていたが，何か心に通う気持を味わないではいられない。

山陰筋には松江城が天守を残存せしめ，これこそ美しい極みとして，その個性を大切にしたいが，鳥取の山城，萩の城，完備した美作津山城，浮城として美しかった三原の城は維新にすでになく，岡山，広島，福山等の山陽筋の大きな城は，ことごとく今次の戦に失ってしまった。今，僅かに松江城と備中松山城（高梁市），岡山の月見櫓と西手櫓，福山の伏見櫓と城門等を残すのみで広島城はコンクリートで一応外観は復元されたという淋しさである。

たいていの城下町では正午に太鼓とか鐘とか，明治中頃からは午砲が刻を知らしていた。私は岡山で鐘楼の捨鐘打三つの時報を朝な夕な，昼となく夜となく聞きつつ育ったのであったが，街は今はメロディ――サイレンに明け暮れている。洋服と浴衣を着た生活のことを思うと，われわれの生活の中には，いろいろの複雑な要素が含まれていても構わないし，一方，不可解な気持に包まれないでもいられない。また，これが良いものを採り入れるという点からみた，われわれの長所でもあろうが，結局お城もこれと似たような気持であれば割切ることもできるのであろうかと思われなくもない。

しかし何はともあれ，多くの城の形のよさとか構成的面白さには双手を上げて賛成しないわけにはいかない。

山陽道第一の姫路城は他に語られようから別格として，比較的に古い城郭建築を代表した岡山城天守は不整形な平面とその形の内に強い安定した姿を見せ，これが後楽園の景色の一部になっていたし，伏見城の遺構を多く持つ福山城は，後期の垂直的な白亜の天守をもっていた。天守こそなかったが，三原の城は濠がすべて潮入りで，白亜の壁と数多くの櫓がついて，海より見えるその姿は，山陽鉄道が城を二つに割って横切るまで夕陽に映えていたことは，父などのよく云い伝えていたことである。比較的小形の天守をもった広島城は軍団屋敷の向うに仰がれ，明るい瀬戸内海の景色と対蹠的に黒ずんでいた。鳥取の城，備中松山城は山城として，とくに後者は著名であり，石垣の立派さは津山城の完備とその残存をもって誉としてよい。また石垣の強さと傾斜の工夫では萩城や三原城は著名であり，水攻めで著名な高松城（備中国）は，ほんの小さな城ながら，その悲しき語り草を今に残している。このほか中世の城趾としては備中庭瀬の撫川城など今も石垣と濠を残存して古城の跡をしのばせている。しかも水攻めの高松城の水留め堤防は，やがて土木工事に自信を持たしめて浮田堤を起工せしめることとなり，これは江戸期に入っての海面干拓にその技術が発達し，現在の干拓開発の礎をなしていて，蒼海変じて黄金の水田となっていったことなども城に関わることなのであった。

それにしても欧州の多くの古城を見た私はヴィオレー・ル・デュックがよく復元したという南仏カルカッソンの中世の古城に，その復元復旧の完備さを見て，外人の徹底さに感心するとともに，しばし逍遙を禁じ得なかったことも思い出される。城の復元も日本では，生活内容の点と同様になかなか難かしい。しかし，もしできることならば木材で昔通りに作って，その上で郷土館に用いるというようなわけにはいかないものだろうかとも思う。観光に性急に直結して考えることなく，10年，20年をかけての復元を，われわれの良きものを残す意味で考えて行くべきではないだろうか。われわれが絣や上布に，また陶器や彫刻，絵画，古建築に誉とよさを今も持ちつづけて行きたいと同様に，日本のよいものの一つとしての城という建物の保存と復元と発揮を望んで止まない。貼石でない石垣と同様に，もののよさという深い感じは，やはり，せめて城にくらいは残しておきたいような気がしてならない。むやみに急ぐことなく復元を待ちたい。ライト氏は個性の強いものは永久に新しいといったと伝えられているが（藤岡博士・城と城下町より），こういう建築の誉としても，ほんとうによく考えてみたいものである。

（筆者　広島大学教授）

お城談義（石と堀）

河東義方

城については全くのしろうとの私が編輯委員なるが故に，紙面を汚すことをお許し願いたい。「伊勢は津で持つ，津は伊勢で持つ，尾張名古屋は城で持つ。」というのは誰にもよく知れ渡った対句だが，私の古い記憶の中に先輩の「いやそれは石はツンで持つ，ツンは石で持つ，尾張名古屋は城で持つ，が本当であって，ツンとは石と石との間につめる楔石である。」という建築家らしい一説が思い出された。その真偽はさておいて，城といえば石垣はなくてはならないしろものである。城址といえば建物は残っていなくても石垣だけあればよいのである。またこの石については大阪城のように大石を以って有名なものもあれば，大和郡山のように古い仏像等を積んで歴史を以って有名なものもあるが，つぎに，城としてなくてはならない大切な石がこのほかにもあるということを御紹介したい。

あるお城の石垣が風水害のために崩れ落ちたことがある。そこで担当の技術者はこれが修復工事を出したが，その仕様書によると石垣の石は崩れ落ちた石をそのまま使用し，その中に入れる裏込の栗石は何としても不足であるので，相当数をその山麓から130メートルの高さまで運搬しなければならなかった。その見積りは相当に上るので入札をしてもなかなか落札しない。頼まれても誰もやり手がなく，その担当技術者は困ってしまった。ところがある業者がこの儲からない工事を引受けようと申し出たのである。それには一つの条件があった。その条件は「栗石はその山で採集できれば取らして貰いたい。その代り元通り直して置く。」というのである。しかし見たところ，その山は赤土で栗石らしいものは少しも見当りそうもないのでどこから採るかと聞くと，「それは工事を引受けてから申し上げます」といって種を明さない。まあいづれにしてもこの難工事を引受けてくれるのであるからとて，その業者と契約を結んだ。ところがいよいよ工事にかかるとどこから引張って来たか一人の白髪の老人を現場に連れて来た。その老人はまづ本丸の一ノ門の少し離れた草叢を指してここ掘れワンワンとはいわないが指図をした。そこを掘って見るとこわいかにコバンのような手頃の栗石が沢山に出て来るではないか。これにはその技術者も恐れ入ったという実話である。

もちろん城の戦争は今で考えるように科学的ではない。城壁にあけた窓は石を投げ下す窓である。いよいよ敵が近くなり石垣をよじ登って来る時は矢も楯もたまらない。石を投げて戦ったものである。

そこで城にはその一ノ門，二ノ門の内外に，手榴弾としての手頃の栗石が沢山埋めてあるのが普通であって，たまたまその場所を武士であったこの老人は知っていたのである。近頃こんなボロイ儲けはないものかと涼しい話である。

つぎに堀もまた城にはなくてはならない大切な要塞であって終戦後この堀に蚊がわくので，進駐軍が文武の道を断って埋立てよというので，風光明眉を削いだ話もまだ記憶に新しい。その堀もまた戦には防禦線として大切である。ところがこの堀と申すは深くては游いで渡れ不覚をとる。浅ければ歩いて渡る。そこで浅くして泥土をつめ，歩けば足が泥沼の中に入ってしまい，水は少くて游ぐにも游げないというのが堀の効能書であって，はじめサンズイの濠がいつか土ヘンの堀の字に変ったという語原学者のマユツバものも出て来るわけである。

堀は土木工事として河川の付替によって，城のみならずその城下を護り，さらに灌漑用水にも考慮され，水田をつくり農民のためにもなったことはもちろんである。

しかしわれわれ建築家はこの堀を埋立てた跡に建築することもしばしばあって，城に迷惑を蒙ることが多いのも城跡（シロート）の悲しさである。また付替えた河川のために，洪水に見舞われ人命を失うこともある等，城の影響するところは大きい。とまれかくまれ，最近は観光の一助としての城の復旧が流行して来た。これについてはわれわれ建築家は愼重に心すべき幾多の事柄のあることを銘すべきであろう。

（筆者　大阪郵政局建築部長）

特許　防火シヤッター全般
小俣式
電動式～箱型・ウオーム・スパー
手動式～自動・鎖
オートマチツク
株式会社 小俣製作所大阪出張所
（旧田中シヤッター）
大阪市北区若松町30　TEL ㉞9016
本社及工場・埼玉県与野町
東京事務所及工場・東京都北区田端町

大阪城を中心にして

石垣としゃちほこの話をきく

――波江悌夫氏を囲んで――

波江悌夫（本会名誉会員）
川口一二（大阪市大講師）
司会　吉田信武（本会編集理事）

とき　昭和33年7月23日
ところ　本会談話室

石垣

司会　とくに大阪城を中心に，波江さん，川口さんの思い出話からお聞かせ下さい。石垣のことなどについてもどうぞ。

波江　あの時，関市長から突然お天守復興の話を聞かされた時は，実に意外だったんだけれども，市長の話では，できるだけ大阪，京都の学者を顧問にしてやってくれという話だった。私としては燃えないものを建てたいという考えを強く持っていた。鉄筋なら木造の形をそのままに残せるからね。また，あの時代に8階まで木造の架構を組み上げたということは，日本の城楼建築史からいったら非常に驚異で，世界に誇るべき当時の建築技術ですね。しかも出来上った天守閣および櫓は寺でも御殿でもない，やはりお城という一つの形式美をこしらえているんですね。伊東忠太博士も，信長の安土城など，宣教師が向うから来ているから何か外国の技術を採り入れたのではないかという考えをもっておられた。ところが当時の記録と宣教師の報告文を見ると，日本の芸術家の造り上げた独特のもので，宣教師に信長は欧州にもこんな城楼高閣があるかと聞いている。そもそも天守閣は金閣，銀閣から来ており，地方の豪族が将軍の真似をして閣を起した。建築技術からいったら京都を中心に木造の相当の芸術家がいたんですね。それが招かれて腕を振るった。

さて，信長が永禄7年岐阜に入り，岐阜城の経営をやる。そして11年に京都に出て行き，将軍義昭のために早速，二条城の築城にかかり石垣工事をやった。岐阜城の本城には二階建の殿館の上に閣を起したから，三層四重の天守閣であった。金華山の上にも二層三重の閣があった。ところが長篠の役で武田氏を破ってから天正4年，安土城の経営にかかり，三年にして完成したが，天守閣は五層七重であり，前代未聞の結構で誠に驚異の進歩ですよ。なぜ4階から7階まで構造術が発達したか，当時の閣はみな殿館の屋根の上の望楼です。信長は天正3年に柴田勝家に北之荘城の天守閣を試作さしている。これが三層五重です。安土城は南北20間，東西17間で，不等辺の六角形の石垣の上に3階建の居館を建て，その上に二重の閣を興した。これが石垣の中を初重とする七重の居館で，全部畳を敷いた。2階が台所，3階が居間，4階が客間，5階が茶室，6階には地獄・極楽など仏絵が画かれている。7階は朗らかな明るい部屋で入側付三間角の座敷です。全部畳が敷いてあり，柱は布で巻いて漆で塗ってあるという実に素晴らしいものを作っている。太田牛一という祐筆がそれを詳しく書いているのだが，各室の襖絵は狩野山楽ならびに永徳が絵筆を振るった。この安土城の天守を造るのに，明智光秀が建築的に非常に骨を折っている。当時，唐風の建築と称した。信長は今一つ本丸の中に平屋の御殿を造り，そこへ後水尾天皇をお迎えしょうと御座之間を造った。このとき羽柴秀吉は建築の頭はないが，一万からの部隊をつれて大石運搬をやっている。標高200mの山の上に南江州の山々から花崗石を運んでくる。これは佐々木氏の本城，観音寺山城の結構を見て教えられたらしい。この本城は永禄11年に信長が一晩で落した。この城は山頂（400m）の自然石（花崗岩）を利用し，切石を塡接している。岐阜の本城も盛んに花崗岩を使っているところを見ますと，城の石

垣の発達したのは永禄半ばからですよ。大阪でも三好長慶の飯盛山城には今も当時の石垣が3ケ所残っている。

当時，城を造れば10里四方の墓が荒れるといわれた。何でも石であれば運んだのだ。大和の郡山城（秀長の居城）など，昔の奈良の寺の円い礎石や方立石を石垣に使っている。加工などしているヒマがない，石という石を全部運んだんだね。当時は手間をかけないことを自慢にしているくらいだ。だから大阪城など3年ぐらいで完成した。瀬戸内の小豆島などから御影石を堺港に運んだ。大きな石は筏の上に乗せて空の酒樽で浮ばせ，舟で挟んで運んだ。しかし，水につかったのは験が悪いといってみんな捨てた。陸では勾配を利用して丸太をコロとし，人力で運ぶ。しかし結局，信長が安土城を，秀吉が大阪城を造った時分は，城造りが愉快で愉快で仕方がなかったのだろうと思う。大きな石は錦で包み，その上から指揮者は緋の陣羽織を着て軍配を振った。あのダンヂリを引くときの「エィライヤッチャー」という言葉は城造りに使ったのだと思う。南江州に馬淵，倉橋という石工の本場があったが，それが大阪築城まで骨を折っているらしい。だから，とにかく城を造るといっても，そんなに大きな石は運んでいないが，石という石を運んだ。

天正期の石垣の勾配は緩く，大体直線式である（百万石の城廓なら，戦前の一等戦闘艦を造るぐらいの工手間と金を使っている）。大阪城は永禄末年から天正の8年まで11年間，石山合戦の本願寺派の根拠地で，今の二の丸まで土塁の城を築いて5千丁の鉄砲を配置しているので，織田氏の兵力でも，なかなか陥すことができなかった。それが結局，秀吉が大阪に目をつけた動機だ。石垣も鉄砲の発達にしたがって防禦方法として発達したのだが，もっとも鎌倉時代，博多では蒙古の襲来に悩まされ，7年かかって博多の浜に石垣を造った。だから，石垣を造る考えは古くから日本人の頭の中にあったのだといえる。天文12年に鉄砲が輸入され，弘治，永禄，元亀，天正と僅かな期間に，この武器が全国に流布した。天文23年の川中島の戦いや永禄3年の桶挟間の戦には僅かに鉄砲が使用された。ところが天正3年の長篠の戦では，信長が一万の統士をもっていた。そのうち三千人の狙い撃ちの上手なのを集めて，しかも三段に隊を並べて，交互に一斉射撃をやって武田勝頼の密集馬隊を破った。敵の馬が10間近くに来るまでは撃たない戦法を考えた。信長はまた鉄鈑を船に張って毛利の水軍も破っている。

築城に石垣を用いてから元亀，天正，文禄，慶長と僅か30年間に各地に名城が築かれた。しかし文禄以後，城造りが苦役に変っていった。それは，朝鮮征伐で西国大名は朝鮮に行って，東北の大名の兵は京阪に駐屯しているが仕事はない。それではいかんというので，秀吉が伏見・淀の両城，大阪の三の丸の城（外濠）を造らした。これが城造りが苦労になった始まりである。朝鮮に行っている連中も戦争らしい戦争はない。清正は蔚山に，小西行長は順天にそれぞれ築城，その間に各軍はそれぞれ18ケ所で城を造って，南鮮で頑張っている。その築城の苦労と，淀・伏見の城造りと同じ苦労であった。日限が決っていたのだから。徳川氏の天下になって名古屋，静岡，江戸城の修築や大阪城の改築を西国の大名にやらせた。これが，みんな苦労であった。

大阪城の改築工事は元和から寛永の6年まで11年かかった。秀吉のときは3年余でしたがね。楼門の中の巨大な石ね，蛸石だの三つある。六甲の御影石を切り出したのも，このとき。太閤が造ったときは，あんな大きな石はないんだもの，太閤は儲けているんですよ。要するに，苦役であったけれども，石奉行はじめ石工が今日見ると何ともいえない美しい石垣を造ったということは，何といっても平和時代の作品なんですね。平和時代だから，同じ石を積むのでも力学的に上品なカーブに積み上

げているね。私は，朝鮮征伐のときに日本のいろいろの文化輸入をやったと同様に，城造りも向うから入って来たのかもしれないと思って昭和15，16年満州訪問の際，朝鮮を通って平壌，京城，晋州城を検べたが，石垣を見ると，ほとんど垂直に近く，また，みな小石を積んでいる。これらは日本流の石垣でないことを発見したんだが，清正の蔚山城へ行くと，日本流の石垣を積んでいる。その他二つほど日本人の造った城を見た。だから，城造りは朝鮮から学んだのでなく，あれは平和時代に日本に石工業が発達したため立派な石垣を築いたんだといえる。この石垣は地震学上，理想的な Hyperbola のカーブになっている。もっとも中には濠の底で両方から突き当っているような曲線もあるが……。

司会　大阪城では，どうですか。

波江　大阪城の今の天守は秀吉が造ったときの石垣を崩して新たに造らせ，将軍秀忠が検分までやったのだが，昔はもっと寝ていたと思う。今は突っ立っていますが。あの焼石は，明治維新の銅御殿を焼いた名残りで，何だか古城の面影があるでしょう。何も催しのないときでも史跡見学者が一日平均3千人も見物に来ていた。今の警視庁のあるところは，本丸の濠の土を上にのせたので非常にやわらかい。天守の下だけ，もとの地山の上に石垣が積んであることが調査でわかった。大阪城ができたとき一つのエピソードがあるが，秀吉が「この大阪城を陥すのに，どうすればよいか」と家来は返事に困った。すると秀吉は笑いながら「一度攻めて講和するんだ。そして外濠をこわしたらよい」と説明した。そこで家康はその通りに攻めたんだ。その外濠を壊すときに，大手門のほか玉造および京橋口の三つある「馬出曲輪（うまだしくるわ）」までも埋め立てたが（ここからは今でも金箔瓦などが出てくるんだね），結局「はだか」城にしたから元和夏之陣では野戦になった。

司会　そうすると，石垣ができたのは鉄砲に対する防禦と，鉄砲が撃ちやすいためにできたものといえるんですね。それから，城をできるだけきっちりと，城の壁面と下の石垣と一本になるような意味もあったのではないでしょうか。

それから石垣関係のことで，現実的に大阪城を調査されたときのお話を川口さんにお伺いしたいのですが…。石垣の上に鉄筋コンクリートをのせるには，脆弱ではないんですか。

川口　石垣に荷重をかけないということを頭において考えたのですが，根入れはほとんどないと見えたので，普通の常識で考えて，荷重はかけられないという結論に達したのですが……。大阪城の場合，焼けているのは上の方の石だけだと私は思っているのですが，内側の低い石垣は施工にも全く頼りなかったので，取り払ってしまった。したがって石垣に荷重をかけるということは，どこの城でも無理な話で，それぞれ調査をやってみるまでもなく，石垣に荷重がかからない方法で復興されるのではないでしょうか。

主体構造

司会　そのほか，主体構造は，鉄骨の大きな骨組で，垂木も鉄骨が入っているんですか。

川口　入っています。屋根を固めるために，かなり密に鉄骨が入ってます。垂木も，塗り込めているのです。今度，新しくできた四天王寺の五重塔の垂木はどうしているのですか。

司会　仮枠はおそらく鉄でやっているのでしょう。

川口　耐火構造では垂木は木ではいけないのですか。あとで垂木をひっつければよいと思っているのですが……。

波江　故武田博士はね，進歩的な考えを持っていて，高野山の大塔を頼まれ，鉄骨鉄筋でやったところが，天沼博士は金堂を鉄骨に木を巻く方法を用いた。また天沼博士は大阪の四天王寺をやるときに，当時，府技師の中沢誠一郎さんが「耐火構造でおやりになっては」と注意されると「日本建築を木造でやるのが，なぜ悪い。殊に四天王寺はね，公園のように広い。火災の憂いもないところだ」といっておられた。実際，日本建築は木造であるから木造で造りたいが，もう時代がどうかな。

川口　木造でやれるものは鉄骨でも力学的には同じような取扱いが出来ましょう。

波江　あの時代は石垣の上の塀もお天守の垂木も，みな漆喰壁だが，あの時代にセメントが発明されれば，もっと城造りに利用しただろうと思う。

川口　日本人は適応性が強いから

波江　話は違うが，伊東博士が交換教授で，ドイツの学生に寺や御殿の写真を見せたが，ピンとこなかったらしい。お城の写真を見ると，ウンとうなって引っ張り凧の有様。これがドイツのモダン建築に影響を与えているんだね。横の線を非常に強調したデザインとして。向うにいわせると東洋の匂いがあるというのだが……。それがモダンだというので，また日本へ逆輸入されている。（笑）

川口　耐火構造にやり直したのは，小倉・和歌山城ですか。

波江　今，鉄筋でやりたがっているのは岡山，福山，萩，熊本城ですよ。いずれも写真が残っているし，実現させたいね。

川口　松江城は木造ですね。

波江　そう，松江，松本，丸岡等，みな修理された。

川口　広島城は耐火構造ですね。

波江　黒田家の黒田屏風に拠ったんだから，東西面に慶長期の匂いがある。

川口　耐火構造でやられたのは，あまり数ないんです

ね。

波江　松本，姫路，松江城は今に焼けないだろうかと心配している。北海道の福山城を焼いたのは過失だというが，法隆寺が焼け金閣が焼けた時代ですから，監理者は頭痛の種ですね。

しゃちほこ（鯱鉾）

司会　もう一つ，しゃちほこの話を。

波江　鯱ほこの一番古い形を調べたことがあるが，古いほどスッキリしている。実際は武人があの形を喜んだんですかね。〝しゃち〟というものは小さい魚ながら大きな鯨をやっつけるでしょう。昔，東京に遊就館というのがあって，城と武器に関係のある参考品が全部揃っていたが，そこで初めてわかったんだが，弓袋（ユブクロ）という舞楽の方の道具の形が，しゃち形の彫刻になっている（だから起源は舞楽の道具から来ていると思うんだが）。支那では水に縁のある魚を屋根の鬼板につけた。中には鯨のように鼻から水を吹き出しているようなのもあって，水に縁のあるものを火災防禦の意味で使っている。武人が〝しゃち〟を喜ぶというので，しゃち形の兜までできている。すなわち，命ぜられて作った彫刻家が，武人であるから勇ましい〝しゃち〟がいいだろうというんで舞楽から採ってきたのではないだろうか。そして屋根の両方に威勢よく〝しゃち〟を上げたんだね。とにかく，いくさに関係のある闘争的な魚だからね。それが時代の下るほど〝しゃち〟の形が崩れてくるね。名古屋城は金鯱で有名だが，形がくづれている。大垣の天守の鯱は青銅製で，のびのびした天正型で一番古いものだったが戦災にかかった。高松城の鯱は慶長期のものだが，青銅で鯱より鯉といった形ですよ。姫路城には瓦製で21種類もあり，最上のところが一番大きく，あとのは，それに釣合っているんだね。現存天守閣中，最古の越前丸岡城の〝しゃち〟は石の彫刻であり，屋根の瓦も石を削っている。あの附近の安山岩はカンナで削れるんだ。これらは，みんな彫刻家が骨を折って造ったんだね。大阪城の〝しゃち〟の形が問題になったとき，名古屋城の〝しゃち〟の形でやれというんだが，元亀，天正の匂いがないんだな。今，江戸城の坂下門，桜田門，隅やぐらにも徳川期の鯱がたくさん残っている。

川口　江戸城も天守閣を造ったんですか。

波江　図面で残っているよ。家康は非常に地味なのを造ったんだね。静岡のも地味だけど。徳川時代（慶長）の天守は，屋根と屋根との間に破風がおとなしく按配されている。千鳥破風というのだが……。天正時代のは破風が突き破っているね。

川口　お城の普請奉行というのは，どういう人だったのですか。

波江　それは，大工棟梁のえらいのがやったんだよ。ちゃんと文献が残っている。安土城は岡部又右衛門，名古屋城は中井大和守正清とある。石垣は加藤清正が造っている。

川口　鬼板にするか鴟尾にするかの問題，意匠など昔はどういうふうにして決ったのですか。

波江　当時の帰化人，百済技術者ですよ。四家あった四天王寺の金剛など名家ですよ。

司会　それから，〝しゃち〟には耳があるのですか。どうですか。

波江　耳があるんですよ。魚面でなく獣面だという説があるんだが，それでは耳があるというのは矛盾しているね。

司会　本当のしゃちは魚類で，しゃちほこのしゃちはキリンと同じで理想的な形になっているのではないでしょうか。

波江　うまい，そうと思いますね。

城復興の心構え

司会　では最後に，城復興に対する御私見をお聞かせ下さい。

波江　それは，お城が各地方色をもっているだろう。ことに慶長年間の各地各藩が競ってやったときは，地方の大工棟梁，芸術家が骨を折ったのだから，それぞれの特色をもっていて一つも似ているものがないんだ。だから最近，復興ブームが来ているが，その昔の各地方の特色をもったお天守を建てることが望ましいね。破風のない津山城も実に代表的な面白い天守だし，会津の若松城のごときも，明治7年に破壊される前の写真を見ると非常に特色があるね。現存の城も，天正の匂いのある彦根城土佐の高知城，雲州松江城，また文禄年間の，最近復興された広島城，信州松本城，それぞれ地方色をもった面白い形のものでね。復興するのなら，そういう地方色を残してほしいということで，もっとも記念事業とか何とかいうんだから，賑やかなものを造りたいのだろうから，一律になるきらいがあるんだね。今日でも地方，地方の技術家を尊重して任すべきで，東京の学者に相談すると，つまり，特色がなくなるわけだね。

司会　いろいろ，ありがとうございました。

× × × ×

× × × ×

× × × ×

近世城郭関係文献目録 (1958.7.)

日本の近世城郭に関する文献のうち，地方雑誌掲載のものなどを除き，比較的利用し易いものについてまとめてみた。短時日にまとめたため，若干脱洩の点もあるかと思うが，その点御寛恕いただきたいと思う。

雑誌名の略号は次の通りである。

建　雑 …… 建築雑誌
建学論 …… 建築学会論文集
建学報 …… 建築学会研究報告
建学講 …… 建築学会講演梗概集
史名天(Ⅰ) …… 史蹟名勝天然記念物（大正5～8年）
史名天(Ⅱ) …… 〃　（大正15～昭和18年）

単行本

大類　伸	城郭の研究	日本学術普及会	大正4年
大類　伸 鳥羽　正雄	城郭及び城址（考古学講座）	雄山閣	昭和3年
大類　伸 鳥羽　正雄	武家時代の城郭及城址（考古学講座）	雄山閣	昭和5年
鳥羽　正雄	城郭の変遷（岩波講座日本歴史）	岩波書店	昭和8年
大類　伸 鳥羽　正雄	日本城郭史	雄山閣	昭和11年
古川　重春	日本城郭考	巧人社書店	昭和11年
大類　伸 鳥羽　正雄	Castles in Japan	鉄道省	昭和11年
鳥羽　正雄	城郭と文化	大東出版社	昭和17年
城戸　久	城と要塞	朝日新聞社	昭和18年
藤岡　通夫	城と城下町	創元社	昭和27年
林屋辰三郎	城と襖絵（毎日ライブラリー〝日本の美術〟所収）	毎日新聞社	昭和27年
小倉　強	仙台城の建築	仙台高工	昭和5年
沢島英太郎 吉永　義信	二条城	相模書房	昭和17年
城戸　久	名古屋城	彰国社	昭和18年
古川　重春	錦城復興記	文晁堂	昭和6年
大阪市立大学	大阪城の研究	大阪城址研究会	昭和29年
橋本　政次	姫路城史	姫路城史刊行会	昭和27年
姫路市役所	国宝姫路城		昭和13年
大垣市役所	国宝大垣城		昭和14年
松本市役所編	国宝松本城	彰国社	昭和16年
名古屋市役所	国宝史蹟名古屋城		昭和17年
長野県教育委員会編	松本城（写真信濃風土記4）	長野県教育委員会	昭和31年
井上宗和編	古城をたずねて（アサヒ写真ブツク35）	朝日新聞社	昭和32年
高柳　光寿 監　修	千代田城（岩波写真文庫）		昭和27年
猪熊　兼繁 監　修	京都御所と二条城（岩波写真文庫）		昭和31年
町田　甲一 監　修	姫路城　（岩波写真文庫）		昭和29年
井上宗和著	城—井上宗和城郭写真作品集—	日本城郭協会	昭和33年

修理工事報告書

重要文化財弘前城二之丸辰巳櫓同丑寅櫓及三之丸追手前	昭和16年
重要文化財名古城東南隅櫓修理工事報告書	昭和28年
国宝松本城　解体調査編	昭和29年
重要文化財二条城修理工事報告書第一集・第二集・第三集	昭和30，32年33年
重要文化財岡山城月見櫓修理工事報告書	昭和32年
重要文化財松江城天守修理工事報告書	昭和30年
重要文化財高松城二之丸・月見櫓続櫓渡櫓水手御門修理工事報告書	昭和32年
国宝松山城　筒井門及同東続櫓，同西続櫓，隠門及同続櫓，戸無門乾門及同東続櫓，修理工事報告書	昭和13年
重要文化財高知城天守修理工事報告書	昭和31年

雑誌の部

総説

大類　伸	本邦城郭の美観	国華	236
大類　伸	天守閣の起源	考古学雑誌	5—6
大沢三之助	城門の話	中央建築	11
大類　伸	城郭談　1～4	建築世界	10
波江　悌夫	天守閣の由来	建築と社会	15—7
鳥羽　正雄	日本城郭図説　1—4	歴史公論	2—5～9
鳥羽　正雄	城郭の窓と狭間	宝雲	11
白井　喬二	築城秘話	中央公論	538
保岡　勝也	封建時代城堡の保存	建築世界	10—6
鳥羽　正雄	城郭の調査と保存について	史名天(Ⅱ)	4—7
久留　正道	矢倉建築法及其創出　1～5	建築世界	4—6～11
石橋　絢彦	日本の築城法と穴太の者築城上の中祖	土木建築工学	106
石橋　絢彦	日本築城術の起源　1～4	土木建築工学	132—139
鳥羽　正雄	城郭構築の社会経済的一考察	歴史教育	12—8
大類　伸	桃山時代の城郭に就いて	建築と社会	15—8
鳥羽　正雄	織田信長と城郭	歴史公論	5—6
鳥羽　正雄	豊臣秀吉と城郭	歴史公論	5—10
鳥羽　正雄	城の構成と美術	国画	3—5
魚澄惣五郎	桃山時代の精神と城郭の構成美	国宝	6—3
藤岡　通夫	城郭古建築の背景と美	新建築	22—6
藤岡　通夫	戦争中に失われた城郭古建築	建雑	726
丸山　尚一	城の日本的性格	新建築	32—9
伊藤　延男	城郭建築の美	ミユージヤム	58
城戸　久	室町末期天守建築に対する一資料	名古屋高工学術報告	6
藤岡　通夫	初期天守閣の一考究	建学論	5
藤岡　通夫	天守閣建築概説　1～6	画説	21.23.24
藤岡　通夫	所謂「複連結式」天守に就いて	画説	65

藤岡　通夫	層塔式天守の一考察	建学論	29
藤岡　通夫	天守層重呼称法考	建学論	30
城戸　久	近世城櫓建築外容上の性格に於ける楽地型の提唱	建研報	18
城戸　久	元和一国一城令と武家法度の城郭禁令に就て，一江戸幕府の諸候城郭に対する政策に就ての一考察　其の1—	建学論	33
城戸　久	江戸時代に於ける諸候城郭の新営と修築に就て—江戸幕府の諸候城郭に対する政策に就ての一考察　其の2—	建学論	33
藤岡　通夫	天主構架法の研究	建学講	昭21
城戸　久	山城天守の一考察	建学講	昭23
城戸　久	近世日本城郭建築に関する基礎的研究	建　雑	750
城戸　久	小豆島に於ける近世築城採石について	建学報	22
城戸　久	伊豆半島における近世築城用採石について	建学報	31

雑誌の部

地方別

北海道

筆者	論文名	雑誌名	
剣介生	五稜郭の築造	土木建築工学	37
服部　勝吉	松前城について	北海道建築	3

東北

服部　勝吉	仙台城大手門（名建築解説）	東洋建築	2—1
山村　鶴山	鶴岡城の沿革	歴史地理	4—9

関東

大類　伸	本邦の城郭に就て—特に江戸城—	史名天（I）	1—18
伊東　忠太	江戸城の保存に就いて	史名天（II）	1—2
城戸　久	江戸城蓮池門遺構現名古屋城正門に就て	国　宝	3—12
藤岡　通夫	一古図に拠る江戸城天守私見 上・下	画　説	49.50
大熊　喜邦	梯形を構成せる江戸城の諸門-主として外郭三十六門に就て-	史名天（II）	18-11
大島　盈株	旧江戸城御本丸御殿之棚一・二	建　雑	195.201
大島　盈株	江戸城本丸白書院と黒書院	建築工芸誌	1—22
大熊　喜邦	近く開放される本丸	建　雑	741
亀井勝一郎	千代田城	芸術新潮	1—10
藤岡　通夫	水戸城の三階櫓に就いて	建築史	5—5
城戸　久	水戸城天守式城櫓建築の系統について	建学報	24
藤岡　通夫	小田原城天守とその模型に就いて	建学論	27

中部

古谷　清	桶狭間古戦争伝説地と大高城址　附丸根鷲津両砦址	史名天（I）	13—1
城戸　久	長篠合戦絵屏風に描かれたる城郭建築に就て	名古屋高工学術報告	4
長沼　敏音	名古屋城の御天守と金鯱	土木建築工学	76
斉田時太郎	名古屋城天守閣と地震	東洋　建築	1—6
城戸　久	名古屋城天守造営年次考	建学論	17
城戸　久	名古屋城本丸殿舎建築私考	美術研究	116
城戸　久	名古屋城本丸創築縄張に関する一知見	名古屋高工学術報告	7
浅野　清	名古屋城の建築に就いて上・下	美　育	8—10.12
長崎　敏音	加藤清正と名古屋城　1.2	建築世界	16—12 17— 1
剣介生	金の鯱	土木建築工学	3
長沼　剣介	名古屋城天守閣築城と加藤清正	土木建築工学	2
城戸　久	名古屋城上洛殿の造営に就て	建学論	21
城戸　久	名古屋城天守と小堀遠江	建学論	18
服部　勝吉	名古屋城の追憶	建築文化	1
城戸　久	名古屋城天守閣の復興について	建　雑	857
土屋　純一 城戸　久	尾張犬山城天守建築考	建学論	5
服部　勝吉	犬山城天守閣（名建築解説）	東洋建築	1—4
城戸　久	美濃岐阜城建築論	名古屋高工学術報告	3
土屋　純一 城戸　久	美濃大垣城天守考	建学論	6
服部　勝吉	大垣城天守閣	東洋建築	1—8
城戸　久	駿府城慶長造営天守建築考	名古屋高工学術報告	5
景浦　勇生	幕府最終の築城工事　静岡城	土木建築工学	65
藤岡　通夫	三州岡崎城天守に就て	建学論	27
藤岡　通夫	信州高島城天守復原考	建学論	31
河村　惇 梶元　成 松本　吉雄	松本城	建　雑	545
渡辺　多伸	松本城を観る	史名天（I）	10—3
巌谷不二雄	松本城天守閣（名建築解説）	東洋建築	1—2
田辺　泰	松本城天守閣	国　宝	1—3
金井　円	松本城の築造とその背景	新建築	32—9
大河　直躬	松本城について	新建築	32—9
土屋　純一 城戸　久	越前丸岡城天守建築考	建学論	12
城戸　久	若狭小浜城天守考	建学論	23
大類　伸	福井県下古城址踏査談	史学雑誌	28—11

近畿

新家　孝正	伏水桃山城郭の古図に就きて	建　雑	75
堀田璋左右	桃山城	歴史地理	10—1
剣介生	桃山築城の土木工事	土木建築工学	23
城戸　久	伏見城に関する研究		
	その1. 備後福山城伏見櫓建築考	建学論	24
	2. 秀吉に依る伏見城営築に就て	〃	25
	3. 秀吉没後に於ける伏見城破却に就て	〃	25
	4. 山城淀城天守考	〃	26
	5. 大阪城伏見櫓建築考	〃	27
	6. 二条城天守考	〃	29
川上　貢	伏見城本丸御対面所の間取について	建学報	34
川上　貢	伏見城本丸殿舎対面所間取推定の資料	〃	34
川上　貢	元和年間の伏見城本丸殿舎について	〃	33
足立　康	二条城の創建に就て	建築史	2—1
足立　康	二条城本丸と天明の大火	建築史	2—2
沢島英太郎	旧二条離宮（二条城）の本丸について	史蹟と美術	111
藤島亥治郎	国宝二条城の建築　上・下	国　宝	3—6.7
岩波　武信	元離宮二条城の御下賜について	史名天（II）	14—12
沢島英太郎	国宝二条城	史名天（I）	14—12
大熊　喜邦	二条城時代の規模と本丸二之丸の殿舎	史名天（I）	14—12
芝　葛盛	皇室と二条城	史名天（I）	14—12

上田　三平	史蹟としての二条城	史名天(I)	14—12
島田　武彦	寛永再建の二条城天守	建学報	29
島田　武彦	寛永の二条城御幸御殿	〃	30
川上　貢	二条城二之丸殿舎貞享度破損見分ならびに修理	建学論	55
川上　貢	二条城二之丸殿舎の寛永度作事について	建学論	57
城戸　久	丹波亀山城天守考	建学論	31
藤原　義一	姫路城の諸相	国宝	2—2
服部　勝吉	姫路城（名建築解説）	東洋建築	1—3
大熊　喜邦	赤穂の城	建築工芸雑誌	1—8
池田谷久吉	岸和田城址	史名天(I)	18—8
藤岡　通夫	和歌山城天守とその造営について	建学論	17
藤岡　通夫	慶長造営の伊賀上野城天守に就て	建築史	2—6
上田　三平	天険を誇った高取城址の保存	史名天(I)	3—7
城戸　久	大和高取城天守について	建学報	3
桑田　忠親	豊臣時代の大阪城	歴史地理	446
山田　幸一	寛永建立の大阪城殿館について	建学報	33
藤岡　通夫	天正造営大阪城天守私見	建学論	33—2
辻　善之助	安土城址に就て	歴史地理	9—1
渡辺　世祐	安土城に就いて	歴史地理	19
土屋　純一	安土城天主復原考	名古屋高工25週年記念論2集	
城戸　久	安土城復原についての諸問題	建学報	20
中田　行	安土城の成立について	〃	21
中田　行	安土城の成立と復原について	〃	24
土屋　純一 城戸　久	近江彦根城天守建築考	建学論	9

中　国

仁科　章夫	岡山城に就いて	建雑	502
田辺　泰	備中松山城天守閣について	史名天(I)	13—10
永山卯三郎	歴史上より見たる備中松山城 上・下	史名天(I)	13—12 14— 1
城戸　久	備後福山城櫓建築考	建学論	24
大須賀　厳	福山城の用材	建築と社会	13—8
藤岡　通夫	美作津山城天守復原考	建築史論叢	
野村　晋城	毛利輝元の広島城築城	歴史地理	472
橋本　秀夫	広島城石畳工事普請符号について	建学報	30
藤岡　通夫	萩城天守復原考	建学論	22
大熊　喜邦	松江城天守閣	国宝	2—6
大熊　喜邦	長門国阿武郡萩松平千代熊丸居城の図	国宝	2—6

四　国

城戸　久	伊予宇和島城天守寛文再築とその創築天守について	建学論	28
藤岡　通夫	高松城の天守	美術史学	74
沢島英太郎	高知城（名建築解説）	東洋建築	1—1
大岡　実	四国の旅　丸亀城その他	画説	69

九　州

藤岡　通夫	豊前小倉城天守考	建築史論叢	
坂本　新八	熊本城天守閣設計に就て	建雑	545
藤岡　通夫	熊本城天守復原考	建学論	22
城戸　久	熊本城宇土櫓造営年次私考	建学論	30
T. K. 生	鹿児島城の沿革	歴史地理	4—9
野村　孝文	薩藩の外城及麓	建学報	22

（西川　幸治）

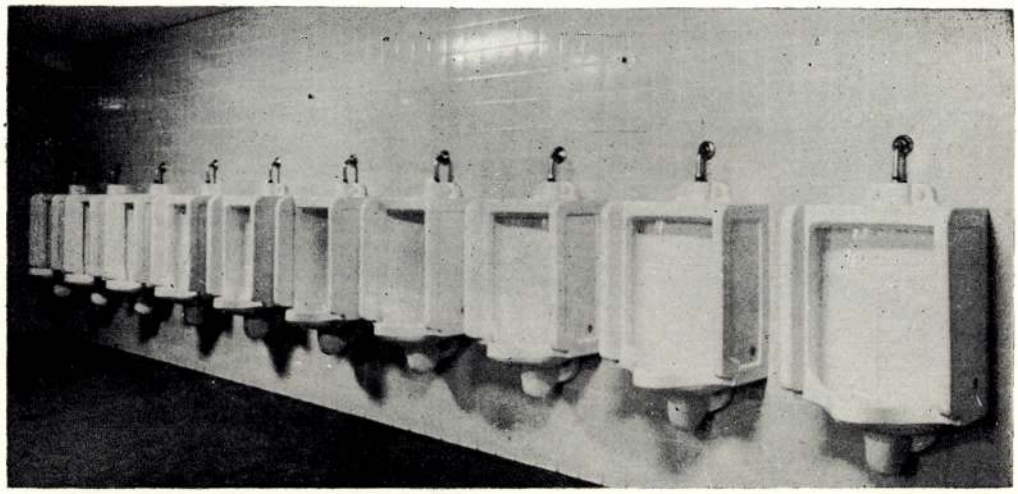
冷房暖房装置
空気調整装置
設計施工
大和設備工業株式会社
（ダイワ）
大阪市南区鰻谷仲之町57番地　電話㉗4664,6584㉖2565

最高の品質・最大の生産を誇る！

伊奈の
タイル・衛生陶器

Inaseito 印 附属金具

伊奈の鳩印衛生陶器には Inaseito 印附属金具をセットで御利用下さいます様おすゝめ申上げます。



本誌で見たと御報知次第カタログ進呈

伊奈製陶株式會社

本社及工場　愛知県常滑市扇面新田　電話常滑(代表)700
東京事務所　中央区西八丁堀2－8　電話築地㊺5261・5262

岩住のサッシ.ドアー

弊社製品の総てに

オートメーションに依る **ボンデライト**を

錆止メ塗装は **焼付塗装**を

実施致しまして **完全防錆**を

期しています　是非御採用の程願上ます

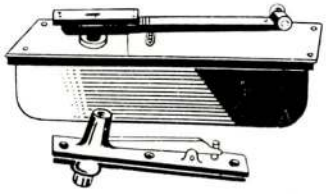
株式会社 岩住鐵工所

大阪市西淀川区千舟東二丁目三一番地

電話 淀川(47) 0903・0904・3000・4351・4352・4353

NEW★STAR

創業大正八年

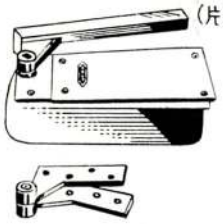


フロアーヒンヂ（両開キ）

ドアーチエック

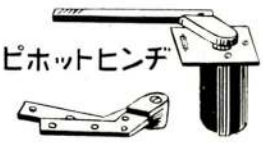


フロアーヒンヂ（片開キ）





ラバトリーヒンヂ



ピボットヒンヂ

輸出　本邦唯一

ニューヨーク・ロスアンゼルス・カラカス・バンクーバー・ロッテルダム・マニラ・シンガポール・香港等へ毎月輸出致しております。

日本ドアーチエック製造株式会社

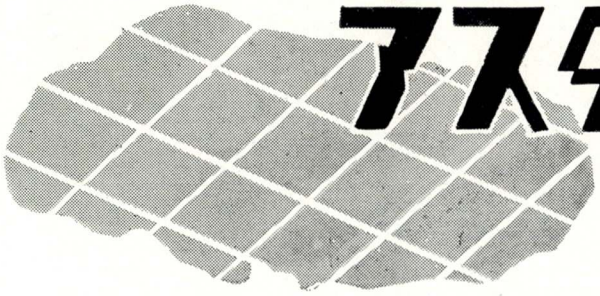
取締役社長　出向井啓蔵

本社工場　布施市横沼町3丁目11番地　電話大阪(72)代表6666－9
東京支店　東京都千代田区神田錦町1丁目23　電話東京(29) 1920・4920
福岡出張所　福岡市舟津町1番地　電話福岡(4) 2372・3312
名古屋出張所　名古屋市中区下園町1丁目5番地　電話名古屋(23) 7361

最も進歩した建築には最も進歩した床材

ビニアスタイル

(2粍厚)



アスタイル を

藤森建材株式会社

本　社　東京都中央区日本橋通1ノ5(中央ビル)
電　話　東京　㉗　6　4　3　2　～　5
大阪営業所　大阪市西区土佐堀通1丁目1番地(大同ビル内)
電　話　土佐堀　㊹　1　6　2　3

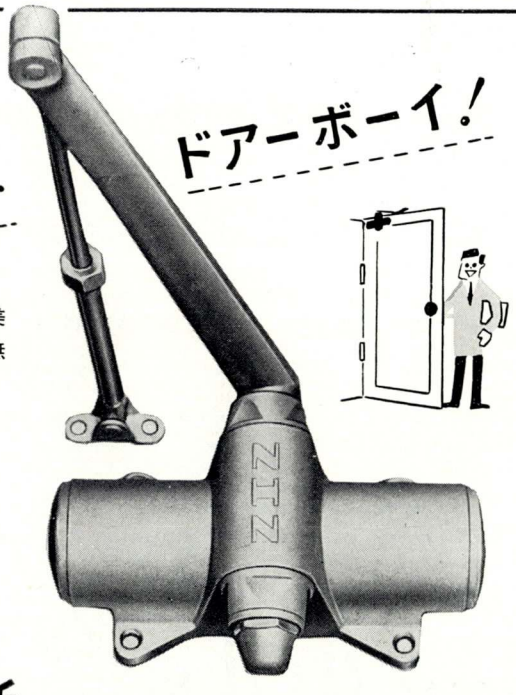
NHN

あなたの忠実な…

型状優美
故障絶無

日・米・英・独、各国特許

ドアーボーイ!



ニッカナ
ドアーチエック

日本金具製作所

製造元 ダイハツ工業株式會社

ABCの建材

ABCコーキング

凡ゆる間隙から永久に漏水の心配を根絶する
永久に気密を保持する
廉価で耐久性のある コーキング剤

18リッター罐		8,500円（現場渡）
1cm×1cm×1cm	材料費	48円
コーキングガン		3,000円（現場渡）

カラクリート

美しく，磨耗せず，滑らず，かつ耐水性に富んだ床材
床，廊下，階段，ロビー，バルコニー，ガソリンスタンド等美しい色彩と耐磨耗性を必要とする場所や，防水力があるので戸外にも使用出来る。

価　格　42kg袋入（6坪分）　現場渡｛緑 7,080円（坪当り￥1,180）／その他 5,880円（〃 ￥980）

フェロコン

工場，倉庫用コンクリート床仕上材
コンクリート床の金属性硬化材で，フェロコンの施工によって床は恰も鋼板を張ったような効果をあげる。

価　格　49kg袋入（7坪分）　現場渡｛色物 6,200円／ナチュラル 5,400円

コルキート

近代人の部屋には疲れをいやし，いらいらを取る壁材
合成ゴムとコルクから製造されたコルクシートで落着いた上品な感覚で，老化せず水洗出来る

価　格　坪当り　東京渡　2,200円　　寸法　3尺×6尺×0.7mm

ロビンスコンダクティブタイル

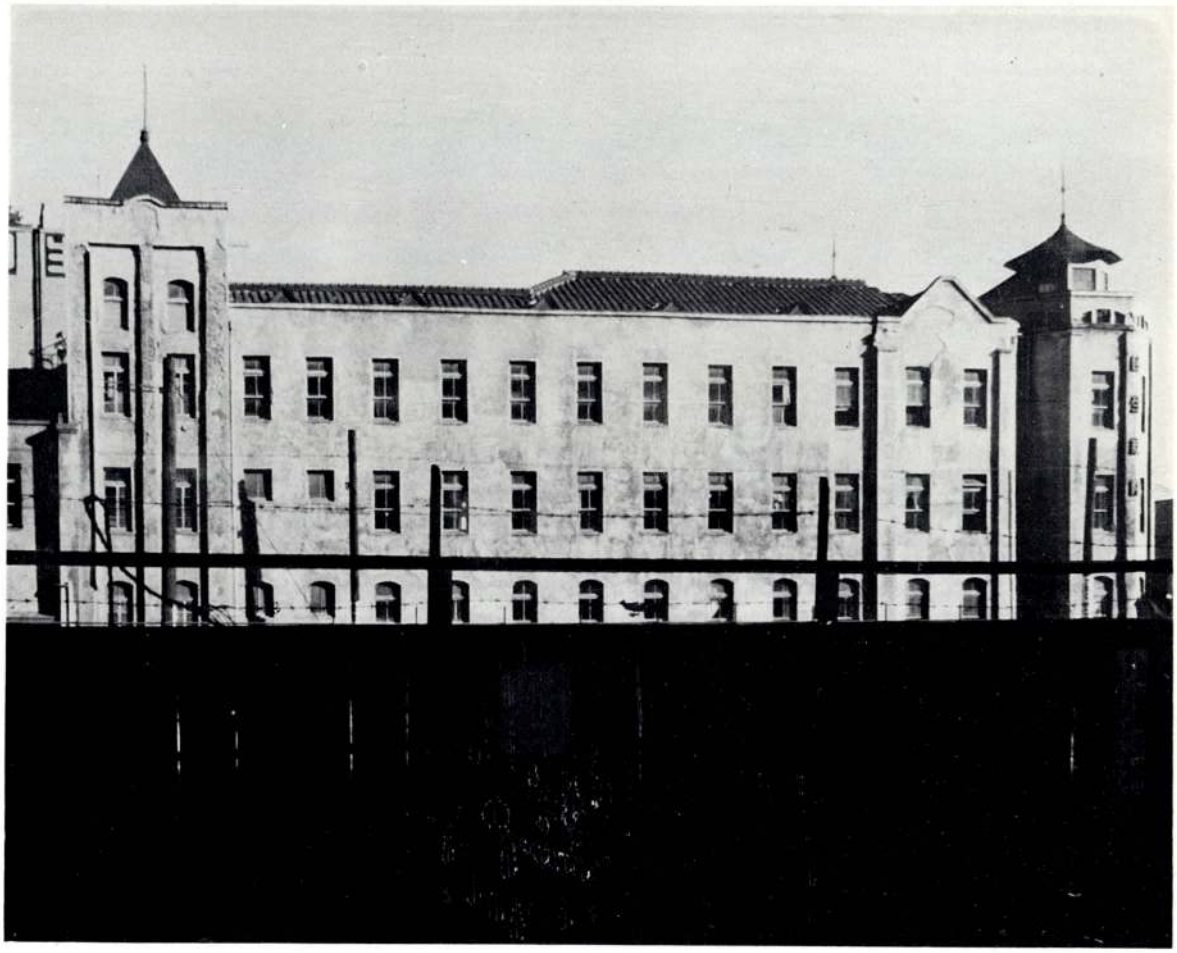
麻酔ガスの爆発を防止する手術室用電導ビニールタイル

- 常に一定の電導性を保証出来る
- 施工翌日から使用出来る
- 掃除、補修が容易である

K.K. ABC商会

東京都中央区八重洲5～5
TEL (28) 7687～8・2765～6・0760

大阪出張所
大阪市西区京町堀通1～18(日新ビル)
TEL (44) 3915・0500



建　　物　小林貞彦

主題：建築に関連のあるもの

（建築を中心にしてかもしだされたもの）

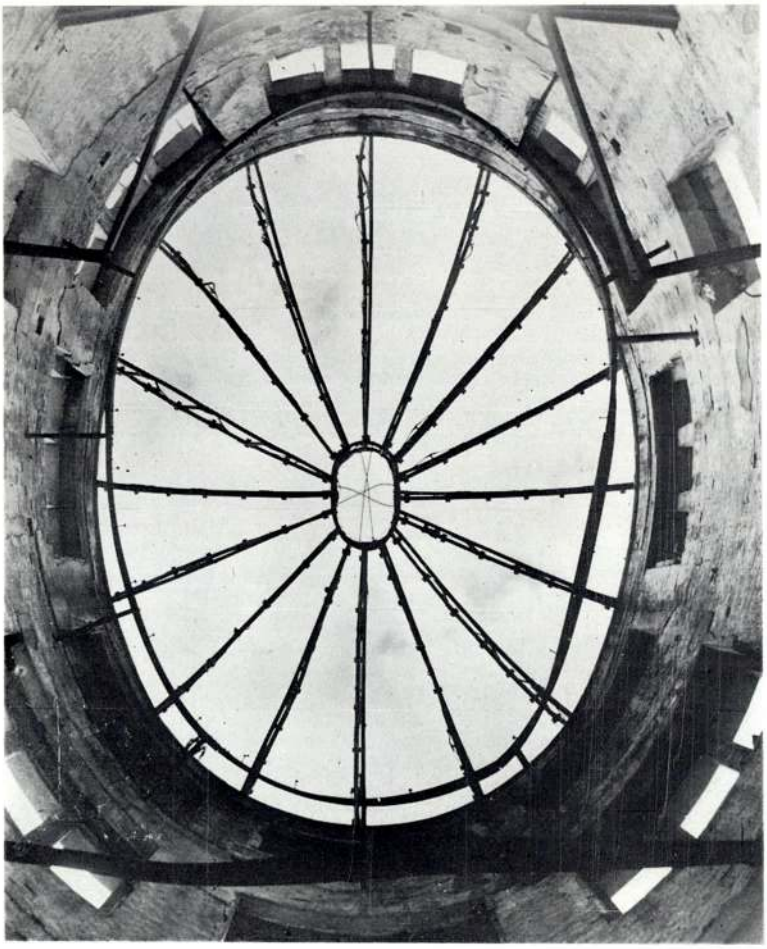
この写真コンクールも，今回で3回を数えることになり，四国および東京の地方在住会員の応募もいただいて，新しい事業としての実をあげつつあります。今回は28点の応募作品の中から，5月30日本会4階集会室において，森忠一氏，恒成一訓氏，梅原幸彦氏の審査員と村上主査の出席により，慎重に審査の結果次の3氏の写真5点が入選と決定いたしました。ここに入選作品5点を発表いたします。

小林貞彦（三和銀行・管理営繕課）
建　物（大阪・堂島にて）
昭和33年10月　ロード 1/50　F11 ベロナ

三川栄吉（兵庫県建築課）
原爆ドーム（広島にて）
マミヤフレックスⅠ型
F8　T1/50・Y2 ベロナ F3

松井邦彦（耐酸化学工業K.K.）
建　築（毎日大阪会館）
構成美（東京・聖蹟記念館）
影　（大阪・北区）

スケッチブック：　第3回建築写真コンクール入選作5点

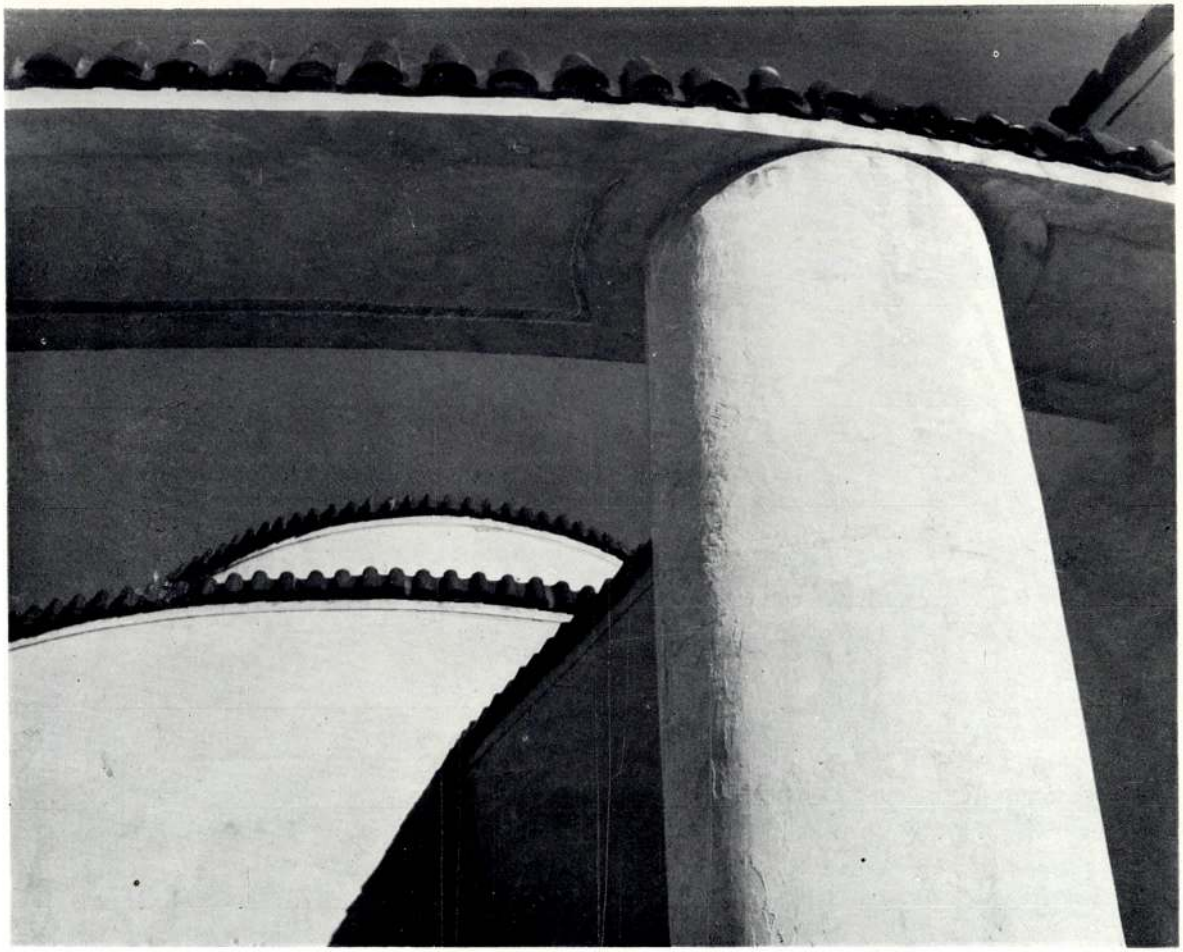


原爆ドーム　三川栄吉

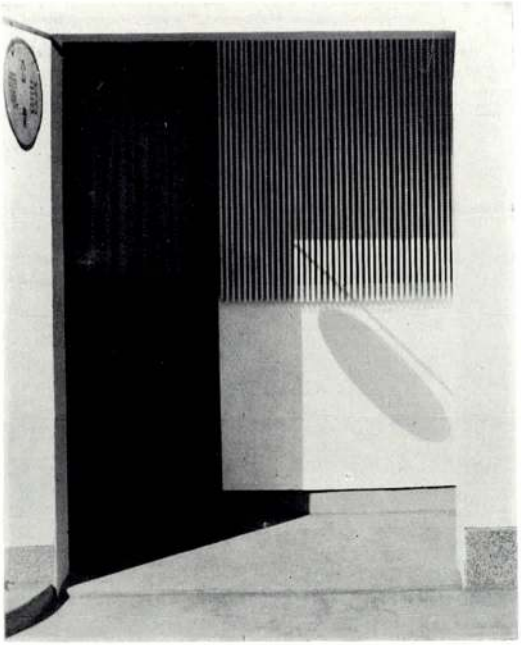
第3回建築写真コンクール入選作



建　　築　松井邦彦



構成美　松井邦彦



影　松井邦彦

審査概評　　恒成一訓

建築写真コンクールも第3回を数えたが，応募者数は第2回より若干減少，内容的にも大した変化は見られなかつた。

このことは，建築写真の一応の限界を示しているのかも知れない。ただ会員数に比較して応募者があまりに少いので（カメラをお持ちの方は非常に多い？）その原因すら摑めない。

もつと気楽な気持ちで出品していただければと思う。プロではないのだから，生活を楽しむ程度の態度で充分ではなかろうか？

一つの意志

御堂筋に，ビルが竣功した。あのビルは，僕のお父ちゃんが作ったんだと，小さな子供が目を輝かした。これは，このビルの鉄骨工事に携わった鍛冶工Aの子供である。

工事主任Bは，今度こそ，畢生の仕事をと，思ったのに，出来て見れば，アラ許り目についてと，謙遜した。

設計者Cは，私が予て研究していた立体計画の理想を不充分ながら，一応，具体化し得たものと思うと語った。

そして，このビル会社の社長Dは，今回のビルは，不肖がこれまでに手掛けましたものの中で，最も新しい設備を誇るものでございましてと，テナント達に披露した。

一体，このビルは誰が作ったんだ。左様，苟くも，この工事に関係したみんなが作った。そして，各人がそれぞれ，自分がこれを作ったと，自負しているのである。

この自負は，無くてはならぬ情熱である。

この自負が，この建物を支えている。

そして，一工事に携わる無数の自負が，一つの意志に向って統一された時に初めて，完璧な建築が誕生する。

(TN)

桶屋の風

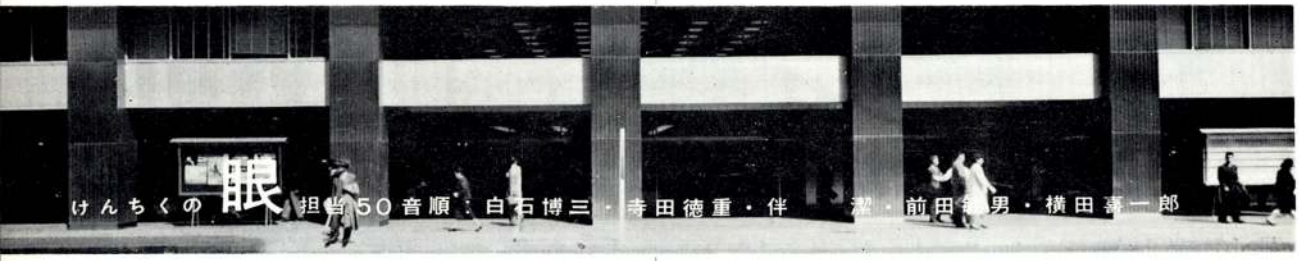
あらゆる商品が年々新型を競って購買心理をかき立てる。衣食に関する商品は各々分相応に購買意慾も満たし得るが，さて住の問題となると，ことはさよう簡単に解決できぬ。

建造物とてやはり時勢に応じて機能的にも感覚的にも改造改装されて，事務に休養に充分活用されねばならぬ。

だが，ここに大きな障害がある。必要止むなき改造はもちろん外装の化粧替すら一寸嵩ばると税務署は営繕費を否認し，建物の価値増として固定資産の増額と来る。また国税局基準の建造物耐用年数と償却率もおよそ時勢のテンポとは随分ズレたものだ。天然記念物の保存を目的としたような数字でなく，現実的に使用価値から割出すべきだ。しかしながらいづれも政治につながる問題だけに，これが改正にはよほど強力な推進母体がなければ達成できぬ。

営繕費の査定緩和，耐用年数の短縮，償却率の増大，固定資産税の軽減等，いずれも業界にとっては桶屋の風よりずっと身近な問題のような気がする。

(YK)



過ぎたるもの

30センチ1尺の竹の物指を毎日使って腹を立てている。何をおこっているのかといったら，一方の端の方に0.5ミリの目盛と1厘目とが切ってあって，じゃまになって仕方がないのだ。せっかく当てた物指の向きを変えねばならぬことは度々で，そのつど腹が立つ。0.5ミリは目測で充分用が足りる。それよりも，そんな目盛がしてあるために読みにくい。1厘目に至っては，言語道断だ。目盛の正確さは甚だ頼りなく，縞に見えているのが多い。かりに正確な目盛の物指があったとしても，あれが読める人は稀だろう。しかも1厘目があるから1分目が見にくくて困るのだ。労して功なし，全くいらざることをしたものだ。しかし，われわれもみずから，これに類することを他方では，やっていやしないだろうか。

(SH)

構法の乱用

一つの材料には，その材料の建築用材としての得失があるように，一つの構法にもそれぞれ特質と欠点がある。こういえば当り前ぢゃないかといわれるが，実施建築にこれらが応用されているところを見ると必ずしも「当り前」が通用していないように思える。ある新しい構造材が生産されると，その構造材で建物の隅から隅まで架構しなければ，それを用いた意義がないような考え方の建物が散見されるし，一つの新しい構法が紹介されると，その構法の適当な規模にお構いなく乱用されている。こういうことは一体誰の責任だろうか。材料のもつ形のみに捕われて，機能の適切な使用を誤っていても，それを新しい設計のあり方だと誤認している建築家がいなければ幸である。建築物は絵画や彫刻と違って，地球の重力の影響を最も多く受ける固体である。この重力の影響のない宇宙のどこかで建築すれば面白い種々の造形品ができるだろう。

(BK)

建設業体の適正規模について

吉田元七

私はこの一文を書くに当って，はじめから，適正規模なる事実があるとの想像を持っていたわけではない。

ただ，建設業界に身を寄せて，約30年の来し方を振り返って見たときに，治乱興亡の跡が，ありありと眼前に浮び，それぞれの動きの理由，得失，といったような因子を捉えて見たいと，思い立ったところに出発があるのです。しかし，そのような大それた慾望を満すには，なかなかもって，大変な手数と，資料を用意せねばならないので，本業片手間ではとても出来ることではありません。

そこで，最も手っ取り早い方法を考えました。

すなわち，現存の建設業者は少なくとも，生き残った組であるから，この中の代表的なものを10社ほど選んで，それらの実体を検討すれば，およその目的は達せられるであろうというのです。

さて実体検査というても，これまた容易の業ではありません。それで，ほんの一部の経営上の財務諸表を比較することによって，目途をつけようとしたのです。

建設業界は一般にはその経営内容が発表されないものでありますから，真相をつかむことには困難があるのです。しかし幸なことに，建設業法の強制による，報告がありますので，一応それを信用してかかることに致しました。　こうして検討作業を続けているうちに，自然と適正規模なる事実のあることに気がついたのであります

さて建設業界は，日夜はげしい運動，妥協，闘争を繰り返し，その結果獲得したる工事の施工を通じて，国家社会に貢功献しているわけであります。

しかしそれは，大部分，利益を追及することに直接の目的を持っているのです。

では，利益とは何か？　それは儲けである。

儲けは多からんことこそ貴けれ。

というわけです。

沢山の儲けとはどんなことか？とつきつめて見ると，

（1）千円儲けるよりは，二千円の方がよい。

（2）自己の資本に対する利益率が少しでも多い方がよい。

（3）手持の機械力に類する固定資産に対する利益率の多い方がよい。

（4）自社職員の一人当りの利益金の多い方がよい。

という工合に種々の見方があるのです。

（1）は最も素朴な考え方でありまして，直感的には人力，機力，資力ともに綜合した意味の日本一の大業者になれば，叶えられそうな儲け方です。

だが必ずしもそうではありません。

（2）は，少し高級な考え方でありますが，あまりにも，配当取りの株主的なところがあります。

また半面には多額の借入金を要する場合もあって，折角の努力の結果が金融資本の食い物になる。

すなわち，不労所得の追及あるいは搾取され易い嫌いがあります。

（3）はあまり重要な見方ではありませんし，それを目指すは，建設業を工業と見ないで，単なるブローカー的または商業の変形と見る人でありまして，極く稀れです。

（4）は最も合理的な儲け方であると思います。

なぜならば，職員，すなわち国民の一人一人の生み出す利潤が最大であればあるだけ，富の蓄積の国家，社会的総量と拡大の速度が大きくなるからであります。

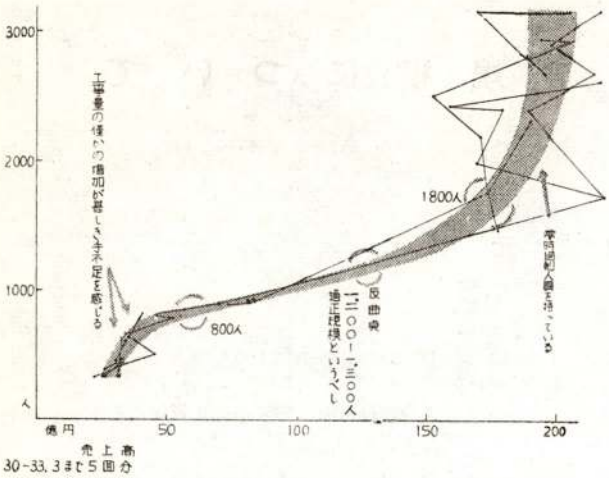
それが人間の最も有効な働き方であり，働かせ方でもあるという次第です。

戦時のような，再生産の伴わない大消費の時代には，今述べた理屈はなり立ちませんが，平常経済においては，当然の理念といわねばなりません。

これを具体的にいえば，100人の規模をもって50の利益を挙げたのと，60人の規模をもって40の利益を挙げたのとを比較した場合に明らかに，100人の規模会社が60人の規模会社より，10だけ利益が多いのであります。

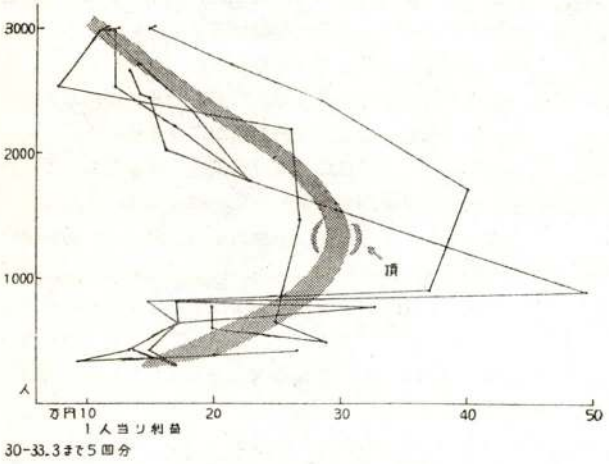
しかし，規模一単位に対する利益は少ないのであるから，この評価は，大会社の方が小会社に劣ると，いうことが出来ます。以上の見方で，過去数期に渉る各業者の財務諸表と，職員数との間の函数関係を検討して見ました。

第１図



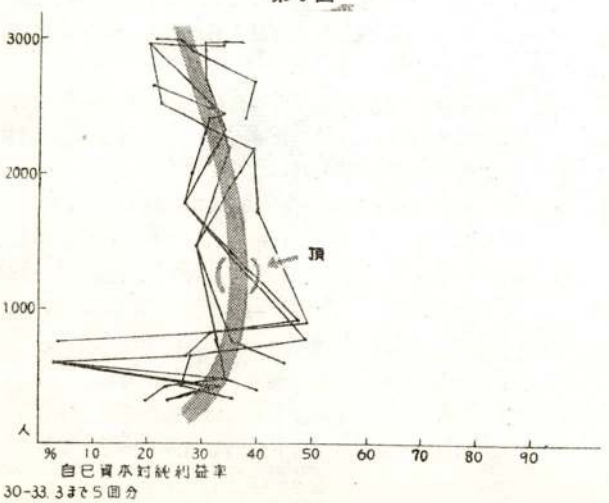
30-33.3まで5回分

第２図



30-33.3まで5回分

第３図



30-33.3まで5回分

まつ**第１図**を作って見た。

これは，縦軸に職員数，横軸に売上高を取って多数の点を表示し，それぞれの固有点を連結いたしますと，ある巾を持った曲線帯が形成されました。

この巾は各業者の特殊性，景気の動き，総工事量の多少等々種々の影響下に発生する現象であって，多数の点を集めた場合には，単一業者の連続点に認められない指向性があることを示しています。

この巾の大略中央を通るように一本の太い線を引くと，一コの反曲点を見出すことが出来ます。この線の意味するところを読めば，次の通りです

左下方は職員 800 名以下の業体を示し，その人数の差は，売上高にあまり大きな差を付けていません。

すなわち，わずかの工事量の増加によって，たちところに人手不足を来たす。

弾力性に乏しいことを知り得ます。

右上方は職員数1800名以上の会社を示し，人数の増加の割合に売上高が増加していません。

ところが工事景気の上昇につれては，直立に近い形で一斉に右方に巾広く移動します。

すなわち，弾力があることを示している。いづれにしても，限界を越えた人数は，剰員であるといってよい。

しだがって，理想員数は 800—1800 名の間であるといえる。

この間の線帯は一見，巾が狭く見えるけれども，両端部に比して傾角が多いから，相当の弾力性を持ちながら，剰員というべき人数ではないことを示します。

その中で，最もよい点は反曲点であります。

それを求めると，大体1200名のあたりにあるようです。

第２図は縦軸に職員数，横軸に一名当り純益金を取って第１図のごとく纏めあげたものであります。

相当拡散された点群でありますが，次の第３図の意味するところを参酌して考えますと，上下の両端細く，中央が巾広い曲線帯をなしておることがわかります。

そして，その中央に想定し得る一本の曲線は，縦軸1200あたりで最も右に突出した弓状線であります。

これは，その辺が一名当りの利益金が最も多いところであることをしめしています。

なお，この曲線帯の巾の変化が意味するところ

を考えて見ると，上下両端，すなわち，大業者と小業者にあっては，利益が安定し，中業者の利益の変動が激しいことを示しています。しかし一面から見れば，それだけ，全般的に経営上のフレキシビリテイが大きいことをも示すものと考えられます。

第3図は，縦軸に職員数，横軸に自己資本対利益率を取って見ました。

この曲線帯も大体において，第2図に似た性質でありまして，1200名あたりのところが，最右頂点となるような弓状曲線であります。

この曲線帯の特性は，下端に行くに従って，巾が広くなることである。

以上これは業体が小さくなればなるほど資本構成に大きな相違があることを示しています。

以上の三図を要約していえることは，職員数は，800—1800名の間が日本の現況に適した規模であって，1200名のところが最も理想的な業体であるということです。

さて，つぎは，この理想的規模を持った業者を仮定して，その業体内容はいかなるものであるべきかについて考えて見たい。

内容の区分についても種々の形があろうかと思いますが，私はつぎの四種を取り上げて見ました。

1. 使用総資本の量。
2. 自己資本が総資本内に占める比率。
3. 固定資産が総資本内に占める比率。
4. 固定資産の廻転率から逆算し得る売上高の限界。

これらの量域は比率の適正数字を探求する方法としては，第一に，多数業社—(この場合10数社)—のそれぞれの数字の一職員当り平均値を適正なりと認めて算出することである。しかし単なる平均値が適正なりと断定するのは，いささか危険であるとはいえます。

さりとて，数10年の経歴を有する各社が示す数字というものは，各自特色を持っているにしてもその平均値には千斤の重みがあるといえます。

そこで一応平均数字を示せば，

1　職員当りの　使用総資本　137万円
　〃　　自己資本　60万円（44%）
　〃　　固定資産　85万円（62%）

これを職員数1200人の会社に当てはめれば，

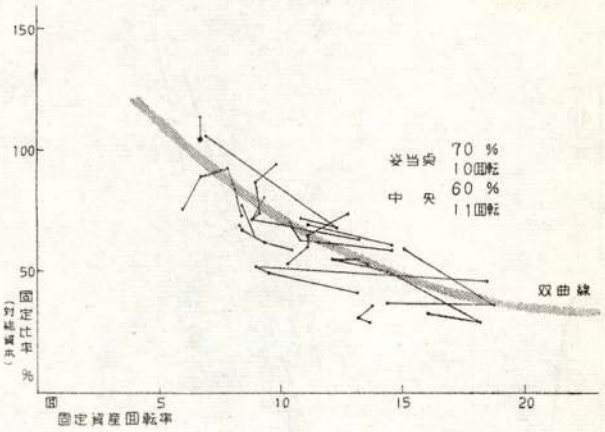
総資本		16億4千4百万円
内	自己資本	7億2千万円
	他人資本	9億2千8百万円
固定資産		10億2千万円

となります。

そこで，自己資本について少しく説明します。

これは，いわゆる公称資本金と積立金，準備金，余剰金等を含めたものであります。

第4図



それらの占める比率についても適正値がある筈ですが対総資本比率は60%まで高めたいものです。

固定資産の中には，土地建物，権利，投資等をも含められてはいますが，私が主として考えているのは，建設機械の分量であります。

土地建物等といえども，事業の円滑なる運営には必要なものでありますから，何がしかの比重は当然もってよいのですが，機械施設の重要度には一掛を輸するものとみたいのです。

そしてここにもそれぞれの比重の間に適当な割合がある筈ですけれども，これは略します。

機械は非常に進歩の激しいものですから，いつも同じ比率を保ってよいものではありませんし，高能率，高機動力を持った品物に絶えず乗り替えて，量の低減を計る必要があるは論をまたないところです。

ここらで探査の方向を変じて，第二の方法に移ります

第4図は，固定比率と固定資産回転率とを，縦軸，横軸に取って，点群を表示してあります。

これもやはり，ある巾を持った，双曲線帯をなしていることがわかります。

なおここにいう固定比率は，特に総資産に対する比率を取りました。

なぜならば，戦後の建設業の自己資本は，今以て，アブノーマルな僅少さの域を脱していませんし，長期負債化した短期借入金を含めた総資本で，曲りなりにも経営を続けられているのが，通念だからであります。

さてこの線帯のどこにいても，一応の経営は出来ているのだとはいえ，ここにも適当なる位置がある筈です。

それを探すために**第5図**を作りました。

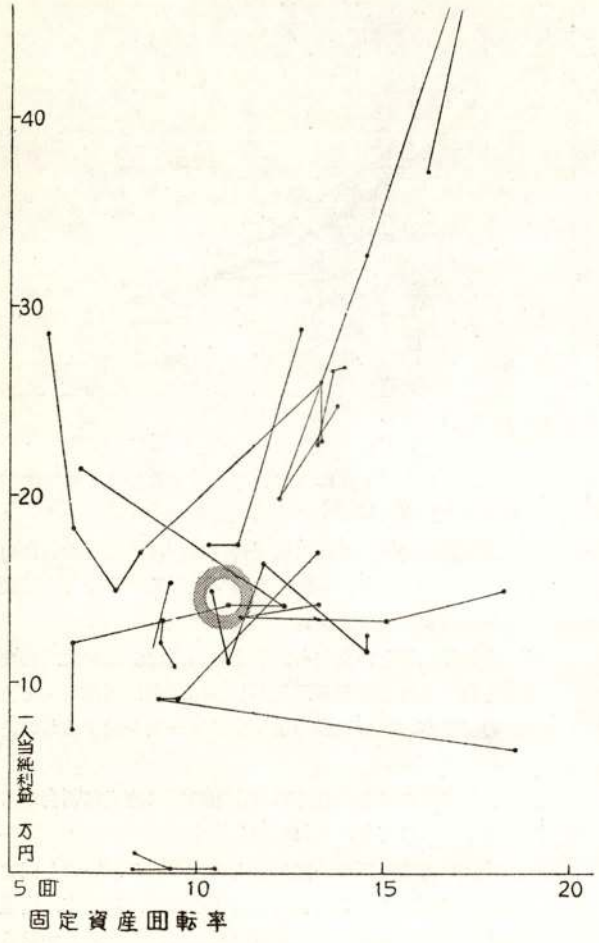
縦軸に一職員当り利益金，横軸に固定資産廻転率を取って点群を表示したものです。

一定の指向性を発見出来ませんが，漠然たる密集地域らしいものがあります。

その中心点は，廻転率10回のあたりです。

それで第4図の横軸10回の線を見ますと，前述の双曲

第5図



線と交わるところは縦軸70のところに相当いたします。

それは固定比率70%ということです。すなわち第一方法の平均値と8%の相違を示します。故に両者の中位点を66%として逆算しますと，修正固定資産は10億8千5百万円となります。これを10回転すれば売上高の中庸点は108億5千万円であります。これは第1図にて指摘した点に略々近いといえます。

以上述べましたところは，私の手元にある貧弱な資料を基礎に計算作図したのでありますから，資料に間違いがあれば結論も変化いたします。また資料その物も年々変化するのですから最近五期の平均ということにして論を組み立てれば毎年の結論に変化が出ることは当然でありそのような変化を少しづつ繰返して，平常化，正常化の線に近づきつつある事も知り得るのであります。

なお，一口に建設業といっても，土木工事を主とする業者と，建築工事を主とする業者とでは，それぞれの特性がありますから，同列に組み入れて，考えることに，相当の無理があることも想像されます。従って，資料の選択には充分なる注意を要すると思います。

本文中に「資産」という言葉を用いておりますが，その意味が，一般に用いられているところと少し違いますから，念のために説明をいたします。

建設業者の決算報告書に記載される貸借対照表には，借方資産の流動部に未完成工事支出金，貸方負債の流動部に同じく受取金を載せています。

しかしこれは一般製造業にあっての棚卸資産とは性質を異にしています。

すなわち，一部出来高に対しては，出来高領収のある限り，すでに自己の資産ではなくなっているわけです。

完成引渡しにいたるまでは，その工事の決算が出来ないために，一時，流動資産，負債の部に記載して置くに過ぎないのでありまして，本来ならば，その収支差金のみを棚卸し扱いに記すか，あるいは，前受金として，流動負債に載せるべきものです。

私はそのような意味で，前記資産という言葉の中には，未完成工事の支出金を含めていません。

負債についても同じです。

結論の示す，固定資産（10億8千5百万円）が自己資本（7億2千万円）を超過していることは洵に不自然な形でありまして，当然是正さるべきものですが，これも，正常化移行への途中にあることが伺えます。

すでに記したように，この研究は，政治的経済的に，社会通念的に，そのほか学芸，技術等に種々の観点からの日本の現況を基礎に集約していますので，それらの変化は直ちに，結論にひびくわけです。たとえば，労働基準法，前渡金保証法等の改訂，新建築材料の発明，技法の進歩等があればすべてが影響し合う次第です。

こうして見ると，建設業はただ徒らに規模の大なることを求めては，却って反社会的な，マイナスを積むものであることを知り得ます。さりとて，あまりに小さな業体では，これまた不経済な団体であるといえます。

しかし，対象とする建設工事自体の各段階における平均規模が業体の適正規模を規定することも充分考えられるので，建設業者はすべて，前記の規模でなければならんというのではなく，一段階下の，多数の中小工事にはまた，それ相当の適正規模がある筈であります。

従って，建設省で年々作製している業者番付表等というものは，それが国民に対して，権威のある表示であるだけに，本文の意図するところをも充分参酌するのでなければ，飛んだ間違いを仕出かしたり，認識を誤らせたりすることになる恐れがあります。その挙句，不幸なる社会問題や，摩擦を起して，全体の進歩を妨げては遺憾なことといわねばなりません。

—— 昭和33年7月 ——

（筆者　KK戸田組広島支店）

戸締りは
これで安心

火も！
風も！



キレクスパルクシヤッター

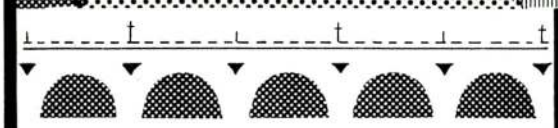
（御一報　カタログ進呈、近くの店より係員参上します）

大阪　**東洋シヤッター株式会社**　東京

本社・工場　大阪市西淀川区佃町4－33
電話㊼2812～3・3116
東京支店　東京都大田区新井宿5－547
電話㊻2947
名古屋支店　名古屋市中区正木町2－27
電話㉜0388
京都支店　京都市左京区東大路三条上ル東門前町
電話⑦3581
神戸支店　神戸市生田区加納町4－1
電話葺合②8843

宇部セメント

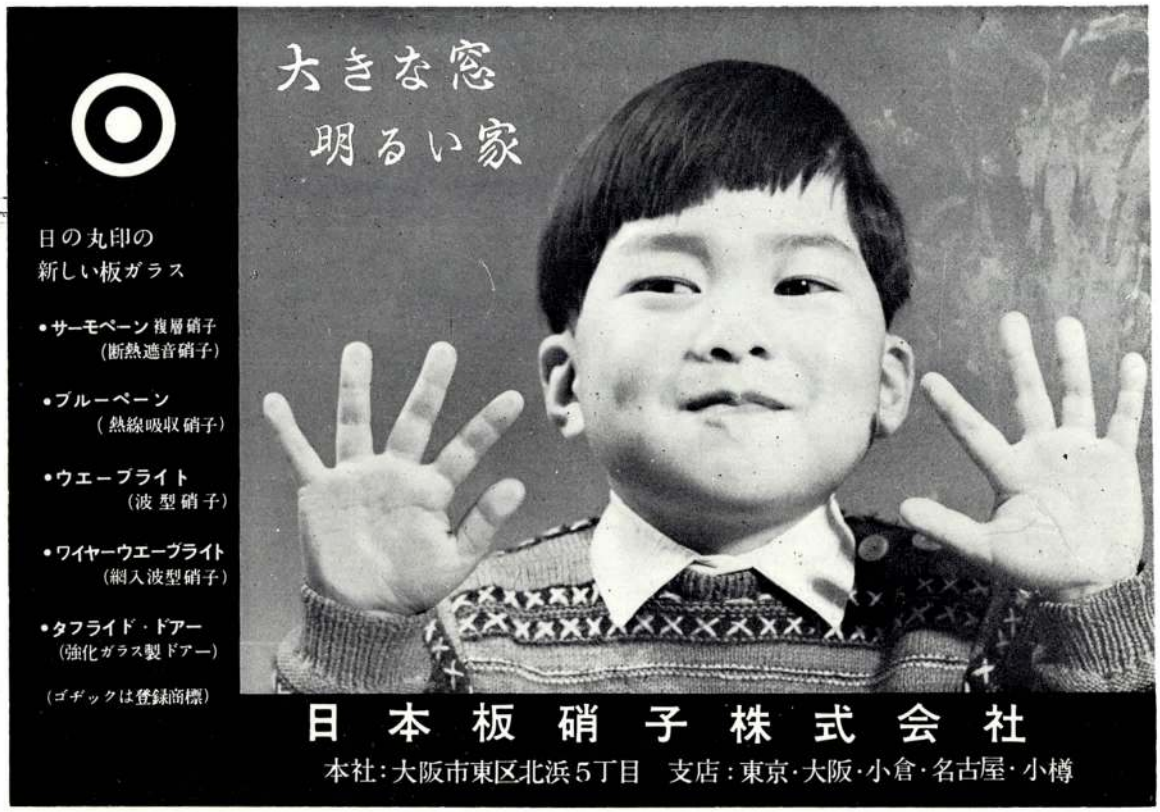
普通セメント
超高級セメント
中庸熱セメント



（混合セメント）
宇部ポゾランセメント
（セメント混和材　Fly-Ash）
宇部ポゾラン

御一報次第
説明書急送

宇部興産株式會社



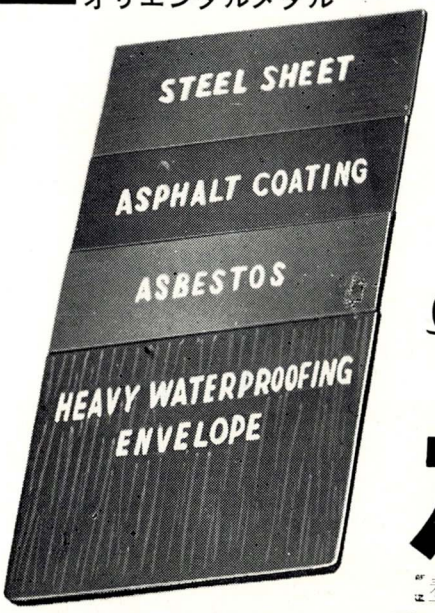
日の丸印の
新しい板ガラス

- サーモペーン 複層硝子（断熱遮音硝子）
- ブルーペーン（熱線吸収硝子）
- ウエーブライト（波型硝子）
- ワイヤーウエーブライト（網入波型硝子）
- タフライド・ドアー（強化ガラス製ドアー）

（ゴギックは登録商標）

日本板硝子株式会社
本社：大阪市東区北浜5丁目　支店：東京・大阪・小倉・名古屋・小樽

オリエンタルメタル



製造販売 設計施工

営業品目
特許　スーパーオリエンタルメタル製
特許　オリエンタルメタル製
屋根板・谷樋・軒樋・竪樋・呼樋
棟包・雨押類・ダクト並臭突類
特許　オリエンタル　スカイライト
特許　特殊屋根材「セラクタイト」
特許　オリエンタル・アスファルトブロック

asbestos protected metal

耐酸，耐アルカリ性被覆鋼板

オリエンタル メタル

着色カラー，不燃性，超耐酸被覆鋼鉄板

スーパーオリエンタルメタル

ORIENTAL METAL MFG. CO. LTD.

オリエンタルメタル製造株式会社

本社及工場	尼崎市長州字稲川新田44	TEL 大阪（48）4947～9・5920
東京支店及工場	埼玉県北足郡蕨町塚越	TEL（蕨）252・（川口）2736・5978
九州支店及工場	福岡県八幡市東浜町16の2	TEL（八幡）723・2512
東北支店及工場	福島県郡山市外富久山町久保田142	TEL（郡山）267
名古屋営業所	名古屋市熱田区三本松町2の35	TEL 名古屋（8）7674

日本レイヨン株式会社

天井に間仕切に 家具材に

サンライト

リブサンライト
チェックライト
吸音ライト

お家の…ちょっと修理サンライト
お家で…ちょっと工作サンライト

大阪サンライト会（イロハ順）

株式会社 紅中商会
浪速区幸町四丁目八　電㊺二〇五六

田辺工業株式会社
西区江戸堀下通二ノ七　電㊹七四三七

株式会社 室谷商店
北区絹笠町堂ビル五階　電㊱二〇二一

内田商会
北区万歳町四七　電㊱九〇〇

株式会社 山本建材社
西区・四ツ橋南詰　電㊹二一三一

株式会社 大和商会
南区高津町四番丁七三・電㊹一五八八

丸尾建材株式会社
西区九条南通一ノ三三　電㊸五六八〇

丸駒建材株式会社
南区北炭屋町三五　電㉗二六二八

丸正ベニヤ株式会社
南区日本橋筋三ノ六五　電㊹二二一一

三友工業株式会社
東成区大今里町六五五　電㊼八〇三一

宮本建材株式会社
南区・賑橋電停前　電㉕九〇〇五

マルエス印

床の色彩調節は

特許 プラスリューム

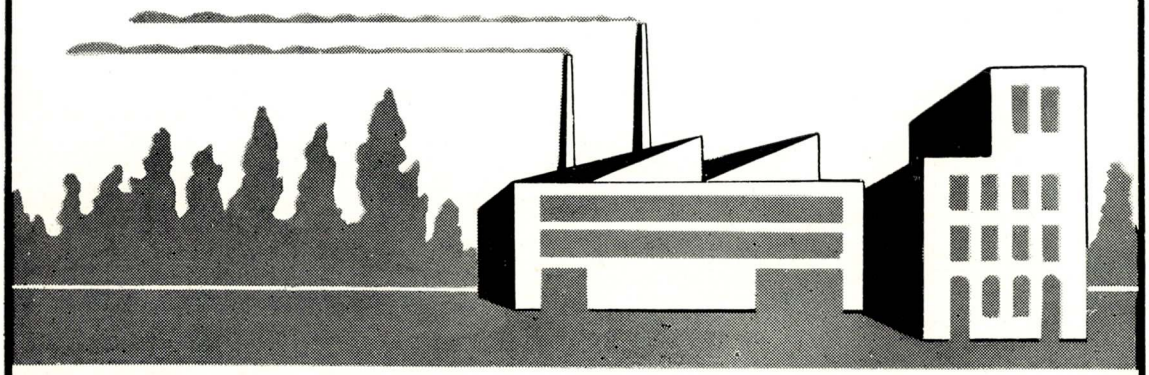
エスタイル

屋根材

ルーフィング

完全な防水工事をするためには

マルエス印石綿ウエルドルーフィング
マルエス印石綿エアーフリーフエルト
マルエス印石綿ノーコルーフィング（特許31408）
マルエス印ガラス網状ルーフィング



日新工業株式會社大阪支店

大阪市西区新町北通一丁目四〇番地　電話(53) 5281 5282 5283

会　　合　（7 月 分）

▶理　事　会

9日　4時——5時　　於会館会議室

出席者　伊東理事外9理事

会長，副会長共に欠席のため伊東理事議長となり開会

議　事　（1）　大阪建設業協会の「第2回建設資材展示会」後援の件。

（2）　近畿工高連盟の「工高生の建築デザイン展」後援の件。

（3）　日本建設材料協会の「新しい建材とその使い方の展示発表会」後援の件。

（4）　日本建築学生会議の第5回国際建築学生会議に代表派遣援助の件。

（5）　入退会者承認の件。

（6）　報告事項。

▶5会長午餐会

22日　　於東京虎ノ門　晩翠軒

竹腰前会長慰労を兼ねて開催され，竹腰前会長および尾崎会長相共に出席。

▶事業委員会

7日　5時半——7時　　於会館集会室

出席者　岩崎委員長外8委員

議　事　（1）　9月の事業企画について。

（2）　メートル法実施促進運動について。

（3）　古建築，建材工場見学の両小委会員企画案の承認。

（4）　全会員にアンケート発送に関する件。

（5）　8月開催の委員会について。

（6）　報告事項。

小委員会（建材工場見学会）

7日　4時半——5時半　　於会館集会室

出席者　山本主査外3委員

一応向う1カ年間の見学工場予定案を作成。

▶教育委員会

8日　3時——5時　　於会館会議室

出席者　奥島委員長外4委員

議　事　（1）　現場管理実務講習会について。

（2）　建築設備講習会について。

（3）　新規事業企画案について。

（4）　報告事項。

小委員会（空調部会打合会）

12日　3時——6時　　於電気クラブ

出席者　前田幹事外6委員

各執筆者間の原稿調整並に挿入図面の検討

16日　3時——6時　　於電気クラブ

出席者　前田幹事外3委員

原稿の調整，打合せ。

▶編集委員会

幹　事　会

11日　4時——7時　　於会館会議室

出席者　塚本委員長外2幹事2委員

招待者　樋口氏外2氏

10月「室内デザイン」特集号の企画について審議。



委　員　会

12日　2時——4時　　於会館会議室

出席者　塚本委員長外11委員

議　事　（1）　8月「保全」特集号経過報告。

（2）　9月「城」特集号経過報告。

（3）　10月「室内デザイン」特集号企画。

▶建材審査委員会

22日　4時——7時　　於会館集会室

出席者　置塩，竹内正副委員長外11委員。

議　事　（1）　委員長，副委員長選任の件。

（2）　審査決定の件（4件）

（3）　新規審査の件（2件）

▶講　習　会

第3回左官工事講習会

於大阪建設会館　　聴講者131名

15日（1時——5時）　洋　壁　　谷口尚武氏

17日（　〃　）　日本壁　　山田幸一氏

▶写真コンクール表彰式と懇談会

10日　3時——5時　　於会館会議室

出席者　尾亀事業副委員長，審査員2氏

入選者外5氏

入選者に対し表彰状と賞品を交付した後出席者一同で懇談会を行った。

▶座　談　会

「大阪城の話」座談会

23日　3時——5時　　於会館談話室

出席者　波江，川口両氏と吉田理事

9月「城」特集号に掲載のため開催。主として大阪城の石垣、鯱などについて語られた。

「室内デザインの考え方」座談会

29日　4時——7時　　於会館集会室

出席者　塚本委員長外4委員

建築関係2氏，家具関係4氏

美術関係2氏

編集委員会の主催で10月号企画として開催。

▶見　学　会

住友生命ビル見学会

5日　1時半——3時半　　参加者55名

大阪府建築士会と共催。

日立造船桜島工場見学会

19日　2時——4時半　　参加者26名

工場および試験所，研究室等見学。

明装興業工場見学会

26日　1時半——5時　　参加者23名

本社工場および堺工場にてベネシャン，ブラインドおよびアコーデォン，ドアの製作状況を見学，終了後高島屋会館に於て懇談。

▶後　　援

1．名　称　工高生の建築デザイン展

主　催　近畿工高連盟

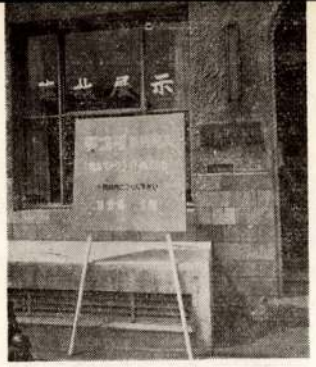
期　間　昭和33年7月19日——24日

会　場　神戸朝日会館

展示品　建築科生徒の建築設計製図並に模型作品

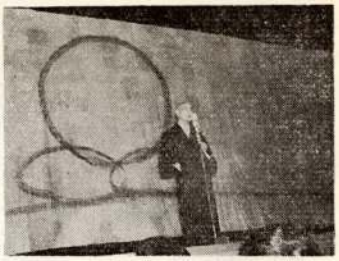
1．日本建築学生会議がレニングラードに於ける第5回国際建築学生会議に代表を派遣するにつきこれを賛助した。





デコラ特別展示


浜田特設展示会


西田天香氏　すわらじ劇団

社団法人　関西建材協会・七月分会報

福岡土木建築新報社と座談会　8日　12～2時

時田福岡土木建築新報社長来阪を機とし第2回会員との座談会を開く。会員10余社参加。常務理事司会し福岡中心の建築事情と景気，地方販売拡張方と代金回収問題，建材展示場開設，地方建設業社の信用調査とその方法等々話題に上り意義深き会合であつた。

講演と晩餐の会　8日　5～9時（於大阪建設会館）

講師の評論家塩沢元次を中心に有志晩餐を共にした後およそ2時間に亘り同氏より世界の政治経済に関し有益な話をきき，その熱弁に深く感銘した。会する者50余名。

展示場委員会　9日　3～5時

関西タイル外4委員，室谷外3理事。展示小間No.札様式決定，談話室談話ボックス作成等取止め，地下誘導様式，5枚綴茶菓券利用，P.Rの特別展示会の件，表入口と標識の件等協議。

理事会　10日　3～5時

青木副会長，室谷理事長外9理事，諸報告後下記協議した。11月見本市会館建築展に後援協力する。カタログ発行，表紙並に図案，全経費150万円各社割当額，ビールパーテー開催経費，入退会詮衡等。

保全部ワックス部会　12日　1～2.30時

マルシン外10社出席。保全パンフレット原稿等検討。

特別展示会　14～19日　（於1階北展示室）

住友ベークライトKK製デコラ特別展示会開催。

左官工事と塗装部会　15日　4～6.30時

会員11，特別会員岩木，北山，山田3氏列席，意見交換。

タイル部会　6日　1～3時

委員長諏訪商会外8社出席，カタログ集共同記事最後的打合せと経費問題を協議。

床，天井材，装飾部会　19日　4～7時

会員17社と特別会員井上，津村，竹内孝，西田4氏来会座談会を開く。

プラスチックス講演会　19日　1～4時（於今橋クラブ）

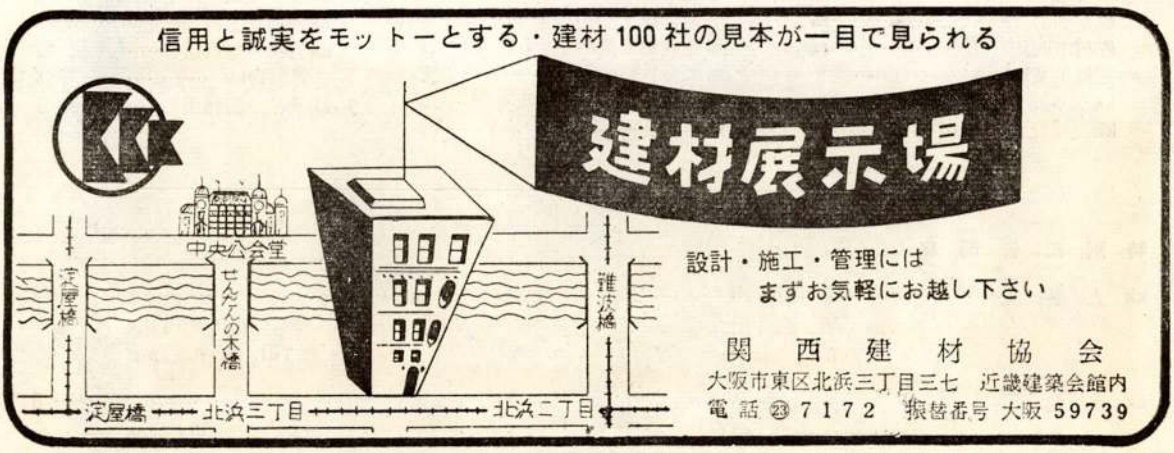
強化プラスチック協会と本会共催。燃焼性と建築への応用について，スライド併用東大教授星野昌一博士，構造材としての特性応用について東大教授林毅博士，講演後質疑応答，当日両講師共パンフレット配布，なお来賓にはプラスチック協会より土産を呈した。会する者府，市，公団，消防局，その他来賓およそ60名。本会々員30余名。

会員懇親ビールパーティ　21日　6～8時

（於桜橋ビル屋上）

会するもの来賓，会員，事務局104人，室谷理事長開会挨拶後涼風に吹かれてジョッキーを傾け懇親を深め歓を尽し盛会であった。

信用と誠実をモットーとする・建材100社の見本が一目で見られる



設計・施工・管理には
まずお気軽にお越し下さい

関西建材協会
大阪市東区北浜三丁目三七　近畿建築会館内
電話㉓7172　振替番号 大阪 59739

広告目次 (50音順)

ア 浅海電気kk …… 2
麻村サッシュ工業kk …… 20
朝日石綿工業kk …… 表紙 4
伊奈製陶kk …… 中挟
泉石綿工業kk …… 15
井田商事kk …… 7
kk岩住鉄工所 …… 中挟
岩元工業kk …… 13
宇部スレート工業kk …… 67
kkＡＢＣ商会 …… 中挟
kk栄興商会 …… 4
栄進鋼業kk …… 14
オリエンタルメタル製造kk 中挟
大阪建材工業kk …… 22
大阪コンベス建材社 …… 14
kk大阪城口研究所 …… 3
kk大阪電気暖房商会 …… 3
大阪耐酸工業所 …… 11
大阪サンライト会 …… 中挟
大島応用化学工業kk …… 14
kk奥村重兵衛商店 …… 35
奥山化工業kk …… 20
織本特殊構造研究所 …… 16
カ 樫野石灰工業kk …… 4
kk川岸窯業 …… 5
亀井kk …… 14
川口ゴム工業kk …… 前付
近畿建材工業kk …… 4
近畿車輌kk …… 8
工藤電気kk …… 2
kk久保商店 …… 1
黒川化学工業所 …… 14
kkケントク …… 22
kk建材社 …… 3
神戸材料kk …… 表紙 3
kk小俣製作所 …… 51
kk金剛商会 …… 5
サ 斎久工業kk …… 3
kk斎藤省三商店 …… 3
坂本商会 …… 15
佐村木商店 …… 14
三機工業kk …… 3
kk三幸商会 …… 6
kk三興社 …… 2
kk三晃商会 …… 3
三宝電機kk …… 2
kk三和シャッター製作所 …… 目次対抗面裏
敷島金物kk …… 7
彰国社 …… 36
昭和アルミkk …… 15
kk新興建材工業所 …… 18
新鋼建設工業kk …… 7
須賀工業kk …… 3
鈴木シヤタア商会 …… 7
タ 田島応用化工kk …… 表紙 2
田中工業kk …… 1
kk田中風呂製作所 …… 6
田辺工業kk …… 35
田村商会建材部 …… 10
kk谷山製作所 …… 15
耐酸化学工業kk …… 11
第一工業kk …… 4
大信ペイントkk …… 21
大日本硝子工業kk …… 13
大仏組 …… 5
大和設備工業kk …… 58
高砂熱学工業kk …… 4
kk武智工務所 …… 47
kk立花商会 …… 4
地建工業kk …… 5
中央電気工業kk …… 2
朝陽電気kk …… 2
東京鋼板工業kk …… 6
東洋キヤリア工業kk …… 4
東洋シヤッターkk …… 中挟
東洋陶器kk …… 前付
東洋リノリュームkk …… 前付
東洋レーヨンkk …… 目次対抗面
ナ ナニワ瓦kk …… 5
内外工業kk …… 8
内外土木建材社 …… 8
中本電気kk …… 2
中之島製鋼kk …… 前付
浪速合板 …… 6
浪速建材工業kk …… 21
日本金具製作所 …… 中挟
日本サッシュ協会大阪支部 …… 12
kk日本シヤッター製作所 …… 13
日本セメント防水剤製造所 …… 表紙 3
日本ドアーチエツク製造KK …… 中挟
日本ハードボード工業kk …… 9
日本レーヨンkk …… 表紙 4
日宝軽石kk …… 13
kk西原衛生工業所 …… 3
三星西日本アスファルト事業協同組合 …… 中挟
日本ペイント …… 17
日新工業kk …… 中挟
kk野上工業所 …… 2
ハ kk林塗装店 …… 4
kk汎建製作所 …… 16
kk日立製作所 …… 前付
平川鉄工所 …… 前付
藤本鉄工kk …… 4
福屋工業kk …… 4
藤森建材kk …… 中挟
二葉屋装備工業kk …… 6
kk不二製作所 …… 17
フタバ黒板 …… 7
豊国セメントkk …… 8
マ kk松重電機商店 …… 2
松平白蟻殺滅予防所 …… 6
kk美素工業所 …… 目次対抗面裏
水谷ペイントkk …… 68
kk水島商店 …… 17
kk三高製作所 …… 16
kk三谷製作所 …… 前付
三井金属鉱業kk …… 目次対抗面
ミツナ鋼建kk …… 11
kk峰岸商店 …… 10
三舟建材商会 …… 35
kk室谷商店 …… 5, 11
kk明正社 …… 15
ヤ kk矢橋大理石商店 …… 5
山宗化学kk …… 表紙 3
山田工業kk …… 3
kkヤマト電気商会 …… 2
kk油脂化工社 …… 表紙 3
kk吉田芳雄商店 …… 5
吉野石膏kk …… 5
ラ kkライト製作所 …… 1

特別広告関係 (順不同)

kk大林組 …… 5
大阪市東区京橋3丁目75
TEL ㊾ 0861～6

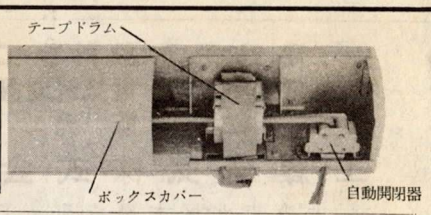
kk間組 …… 8
大阪市東区堺堀2丁目70
TEL ㉙ 代表 5035

kk奥村組 …… 7
大阪市阿倍野区松崎町1丁目51
TEL ㉗ 代表 0337・1500

kk藤田組 …… 6
大阪市北区堂島中2丁目38
TEL ㊾ 代表 0757

世界的に認められた

ライトベネシャンブラインドLK型



ライト〃LK〃は他のブラインドに比してどこが優れているか？

(1) 従来の設計常識を覆えし，どんな場所にも簡単に美しく取付ができます。
(2) しかも他のブラインドのようにボックス内部にホコリが入らない完全防塵です。
(3) 塗装はオートメーション赤外線焼付ですから，サビやはがれる心配はありません。
(4) その他各部には最高級品を使用してあります。

ブラインドは値段の安い点にばかり惚れ込んで買えば必ず後悔します。内部迄良心的に造るライトのベネッシャンブラインドは他の追従を許さない作動の軽快さと耐久性とを持った最も信頼できるブラインドです。〃ライトLK〃は40年の豊富な経験と近代的工場施設によって作られ，世界各地に最も大量に輸出されています。

株式会社 ライト製作所

本社工場　大阪市城東区野江東3—78TEL㉝代1751—4
東　京・広　島・和　歌　山

田中式 スカイライト

スチールサッシュ
スチールシャッター
オペレーター
スチールドアー
ベンチレーター
設計施工

田中工業㈱大阪出張所

大阪出張所　兵庫県尼崎市南竹谷町2ノ89　電話 ㊽0545
本　社　東京都墨田区吾嬬町東4ノ122　電話 城東㊽0870・0970
錦糸工場　東京都墨田区錦糸町1ノ25　電話 本所㊽0790・5133
小倉工場　小倉市赤坂上の宿37　電話 小倉0653・2833
川崎出張所　神奈川県川崎市東渡田3ノ43　電話 川崎②4540
札幌出張所　北海道札幌市北三条東7ノ4　電話 札幌③0515
盛岡出張所　岩手県盛岡市木伏179　電話 盛岡2554
名古屋代理店　名古屋市西区西菊井町2ノ12岡田建材店　電話 西㊽0121

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事

専業大店

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地　電話大阪(34)207～8・4836～7

電気工事設計施工
電気冷蔵庫・電気洗濯機
修理販売
工藤電気株式会社
大阪市北区太融寺町五四
電話・大阪㊱2891—5番
工場　大阪市西淀川区御幣島東一丁目二〇
電話　淀川㊼3477・3478
営業所　東京・名古屋・神戸・岡山・広島

各種電気工事設計施工
淺海電気株式会社
取締役社長　浅海正雄
大阪市東区北浜二丁目六九
電話　北浜㉓5273—5・5451—2
営業所　東京・札幌・沖縄・福岡

電気設備工事
設計・施工
朝陽電気株式会社
取締役社長　山本博三
本社　大阪市北区中之島三丁目三　朝日ビル6階
電話　大阪局㉓9531（大代表）
営業所　大阪市西区土佐堀通り四丁目十一番地
電話　大阪局㊹5201番（代表）～3

電気工事全般設計施工
中央電気工業株式会社
取締役社長　今村騰
本社　大阪市北区曾根崎上一丁目四一
電話　大阪㉞8131代表～4
営業所　東京・新宮・御坊

電気工事設計施工
三菱電機・冷凍機工事特約店
株式会社　野上工業所
取締役社長　野上清二郎
本社　大阪市東区北浜三丁目四七　電話北浜㉓770～3
支店　福岡市上東町十五　電話東③5010
支店　松阪市本町電話2480～2
出張所　東京・名古屋・神戸・直方・田川・大分・四日市

電気工事設計施工
株式会社　**ヤマト電気商会**
取締役社長　山本龍太郎
本社　大阪市北区西堀川町15番地
電話大阪㉞代3056
東京営業所　東京都中央区銀座東8丁目4番地
全国燃料会館607号室　電話東京㊺7464
出張所　名古屋・防府・福岡

電気工事設計施工
三宝電機株式会社
取締役社長　嘉納傳三
本社　大阪市大淀区浦江北2丁目51
電話㊺5148・6460・6646
分室　大阪市北区絹笠町50（堂ビル8階）
電話㊱3862・1141
支店　東京都千代田区飯田町2—15（飯田橋ビル4階）電話㉝8520・8527～9
出張所　名古屋・光

電気工事全般設計施工
株式会社　**三興社**
取締役社長　坪井大（タケシ）
本社　大阪市北区絹笠町50番地（堂ビル703号室）
電話　大阪㊱2138代表・5018
支店　東京都中央区日本橋箱崎町三丁目二番地
電話　兜町㊼1478・1479・1470番
出張所　大阪堺・名古屋・下関

電気工事各種設計施工
株式会社　**松重電機商店**
取締役社長　松本芳太郎
大阪市東区今橋二丁目十六番地
電話　北浜㉓6951（代表）～3㉓8121

電気設備工事
設計・施工
中本電気株式会社
取締役社長　中本正明
本社　大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電話　大阪㉝5143・5373
機器工場　大阪市城東区野江西之町三丁目一一三
資材倉庫　電話　大阪㉝2193・2134

暖冷房・水道・衛生設備
設計施工
山田工業株式会社
取締役社長 山田文次
本社 大阪市西区京町堀上通一丁目七 ㊹代2613・2061
営業所 神戸市生田区北長狭通七丁目一の一 ④1778・4386
出張所 名古屋市中区宮出町四七 ㉔5721
〃 東京都北区上十条一丁目一〇 ㊶2346
〃 岡山市桜町七六 ②295

暖房・冷房・水道・衛生設備
設計施工
株式会社 **三晃商会**
本社 大阪市北区堂島北町一四 ㉞代表7031
出張所 東京都港区芝琴平町四〇 ㊿9278
名古屋市中区新栄町二丁目一 ⑨1820
福井市宝永上町一〇五 1596
広島市石見屋町五五 ②1938
福岡市柳原一丁目七 ④1158

給排水・衛生
暖冷房・換気 設計施工
株式会社 **大阪城口研究所**
代表取締役 城口庸平
大阪市北区高垣町一・電話大阪㊲7575～7
京都市東山区大和大路大仏前・電話京都⑥4945～6
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話神戸④5892

電気・暖冷房・水道・衛生設備
設計施工
株式会社 **大阪電気商会**
会社 **大阪暖房商会**
取締役社長 菅谷三郎
本店 大阪市西区江戸堀南通一丁目三七番地
電話大阪㊹代表 5231番 / 8231番
支店 東京・名古屋
出張所 京都・神戸・岡山・高松・広島・福岡
熊本・札幌・仙台・新潟・金沢・福井

水道・衛生・煖冷房・其他管工事
設計並施工
特許YM式ルーフドレイン製造販売
(旧斎藤久孝事務所)
斎久工業株式会社大阪支店
大阪市南区順慶町通一丁目四四番地
電話大阪㉘代表4496～8・4993～4番
本店 東京都千代田区丸ノ内2ノ8仲12号館5号
電話 28局 6505～8番
金沢営業所 金沢市高岡町三五 電話金沢本局②2074
福井出張所 福井市城之橋下町一〇 電話 福井2436
高松出張所 高松市二番丁九 電話 高松5195

創業 大正二年
暖冷房・換気・空気調和
病院諸機械・給排水・衛生
株式会社 **斎藤省三商店**
東京店 東京駅前丸ビル6階676区
電話和田倉⑳3761・3762・3763・3764
大阪店 大阪市西区土佐堀通大同ビル714号
電話土佐堀㊹1568・1569・2594
札幌店 札幌・北四・西四(札幌駅前)
電話 札幌② 0010・0956 ③4661
名古屋店 名古屋市中区南大津通一丁目千代田ビル522号 電話 中局㉔1766

暖房・冷房・衛生・水道・電気・厨房・築炉
鋼製建具・軽量間仕切・工事設計施工
電縫鋼管・荷役機械・製造販売
三機工業株式会社大阪支店
大阪市東区高麗橋三丁目壱番地・電話代表26局 2951 3076
本社 東京都千代田区有楽町壱丁目十番地
支店・出張所 名古屋・福岡・札幌・広島
工場 川崎・鶴見・中津・六郷

暖房・冷房・水道・衛生工業設備
設計施工
須賀工業株式会社
大阪市福島区堂島浜通4丁目
電話㊺ 代表1171番 / 代表1351番
東京支店 東京都港区芝田村町6丁目 電話㊸代表7151
名古屋支店 名古屋市中区材木町1丁目 電話㉓代表7856
京都支店 京都市下京区烏丸通松原下ル 電話⑤1989
神戸支店 神戸市生田区北長狭通2丁目 電話③代表5101
福岡支店 福岡市千代栄町 電話②代表4735

給水・排水・衛生設備・暖房設備
汚水浄化装置・都市廃物処理装置
株式会社
西原衛生工業所大阪店
大阪市大淀区中津南通二丁目五一番地
電話 福島㊺3415(代)
東京事務所 東京都港区西芝浦三丁目一番地
電話 三田㊺5281(代)

空気調和装置・設計施工
株式会社 **建材社**
大阪支店
大阪市北区中ノ島三丁目(朝日ビル九階)
電話北浜㉓6041(代)
本社及東京支店 東京都中央区八重州三丁目七
営業所 名古屋市中区西万町二丁目一

暖・冷房・空気温湿度調整装置

設計施工

高砂熱学工業株式会社大阪支店

大阪市北区中ノ島3丁目3番地（朝日ビル7階）
電話北浜㉓7641(大代)
本社 東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

空気調和装置、各種冷凍機
設計・製作・施工

東洋キヤリア工業株式会社
大阪支店

大阪市北区堂島船大工町五三番地（毎日大阪会館内）
電話大阪㉞局8356(代表)
本社 東京都中央区日本橋兜町三丁目二四番地
支店 東京・名古屋 出張所 九州
工場 東京都足立区下沼田町360番地

温湿度調整装置、煖房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町30 電話大阪㉞{(代表)0977 / 0978～9・0970
本社 東京都千代田区丸ノ内2－10
電話㉘2631－5
仙台支店 仙台市新伝馬町60
電話 7332
名古屋出張所 名古屋市東区東門前町3－6
電話⑨2893

暖・冷房・空気温湿度調整装置 設計施工
各種送排風機・エロヒンヒーター・キャビネットヒーター
冷却塔・各種レヂスター・アネモスタット類製作

藤本鉄工株式会社

本社並工場 大阪市旭区赤川町三丁目二八 電話㊳1264－6
梅田営業所 大阪市北区神明町五〇 電話㉞1144－5
名古屋出張所 名古屋市東区駿河町一丁目三 電話⑨4594・5118
寝屋川工場 寝屋川市大字太間一九五 電話(寝屋川)0404

煖冷房・水道衛生工事
設計施工

株式会社 **栄興商会**

取締役社長 中山俊人

本社 大阪市福島区上福島北二丁目一番地
電話福島㊺3391～5番
支店 東京都新宿区荒木町一九番地
電話四谷1324番
出張所 神戸市生田区下山手通八丁目三三
電話元町④5377番

工業用及建築用各種石灰製造販売
小野田セメント特約販売店

樫野石灰工業株式会社
大阪支店

大阪市北区曽根崎新地三丁目五十三ノ一
(市電桜橋停留所前) 電話大阪㉞1274～6
支店・徳島・神戸・姫路・東京

PAINTING CONTRACTOR

塗装工事請負

株式会社 **林塗装店**

TEL. 大阪㉕1756—7・東京㉙1335

三菱電機製

NFノーヒューズ分電盤 NFノーヒューズ配電盤
螢光灯・モーター・変更器・冷暖房・エレベーター

三菱電機株式会社元扱店

株式会社 立花商会

大阪市東区南本町二丁目四三番地
電話本町㉖0323・1575－9

リグノイド床・床材料

製造・販売・施工

福屋工業株式会社

本店 大阪市西区南堀江上通一丁目三一
電話新町㊸3426～7

アーマーコート西日本代理店

近畿建材工業株式会社

防水美装塗料……アーマーコート
特殊防水パテ……タイガー印コーキング・ハイドロシール
床面美装仕上材料……フアルベトン
美装吸音材料……ラテックス，ボード

本社 大阪市北区茶屋町33 TEL 大阪㊲3003番
九州出張所 久留米市原古賀町北134の1 TEL 久留米7065番
北陸出張所 石川県松任町字布市町50 TEL 松任672番

雨風に強く
緩勾配に最適
だいわ
大和洋瓦
超軽量荷重（坪当37貫）和型より安い
発売元
大仏組　大仏瓦・各種和洋瓦
工事請負一式
本　店　京都市東山区今熊野池田町九　⑥3555
大阪営業所　大阪市東区内淡路町一丁目　㉞975

耐酸ツボ各種
天窓瓦福林産地直売
建築陶器の百貨店
株式会社 吉田芳雄商店
大阪市北区南森町交叉点
電話大阪㉞2403・3904

タイル衛生陶器
販売と施工
奉仕感謝の店
株式会社 川岸窯業
大阪市西区靱南通二の二五（市電靱南通電停前）
電話㊹ 2571・2764 番

株式会社 矢橋大理石商店
大阪出張所
大阪市東区高麗橋二丁目九　野村ビル五階
電話北浜㉓4257－8番

特許植物性　型枠離剥塗料
サンヒット
関西代理店　株式会社 金剛商會
大阪市西淀川区野里町1231　阪神国道電車　野里電停前
製造元 東京 坂巻サンヒット商会　電 淀川㊼0417・4091

雨水浸入剥落防止
耐震耐風
安定軽量
ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区元町二丁目七四三 電話(64)五六六
ナニワ緩勾配瓦
3寸緩勾配最適軽量 水止付（空葺）瓦

Acoustic Tex
吸音テックス
株式会社 室谷商店
本　社　神戸市生田区長狭通四ノ一地産ビル
TEL 三宮③0881～3
支　店　大阪市北区絹笠町五〇　堂ビル5階
TEL大阪㉑2021・3486・1141

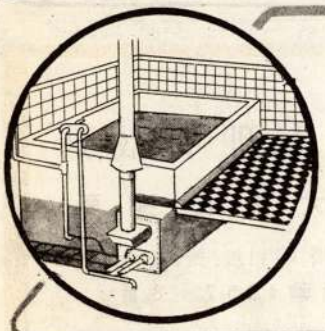
燃えない建築資材
タイガー印
耐火ボード
石膏デスボード
タイガートーン
絶対に亀裂を生じない劃期的下塗壁材
Y.N石膏プラスター
キーンスセメント
各種焼石膏
吉野石膏大阪支店
大阪支店　大阪市西区土佐堀通1—1(大同ビル)
電話（44）3694・0131
本　社　東京都丸ノ内・三菱東九号館四号
電話千代田（27）0701—2・7482—3
九州営業所　福岡市大字麦野260　電話西(2)7420

TKK

東京鋼板工業株式会社

アルミニウム
ステンレス　サッシュ・ドアー
スチールシヤッター

本社及工場　東京都荒川区尾久町5ノ1000
電話 ㊴8131～6
大阪支店　大阪市北区絹笠町18番地（聚嘻ビル3階）
電話 ㉞0621・0628
名古屋支店　名古屋市中区大池町24（丸菱ビル）㉔3048・4593
代理店・広島・福岡・富山・札幌



田中のガス風呂

清

各種銅鉄風呂釜一式
箱風呂・ボイラー・
ガス風呂

田中風呂製作所

大阪市浪速区元町1丁目742　但シ賑橋電停前　電話㊸5313・8128

陶管・ベンチレーター

株式会社 三幸商会
大阪市北区曽根崎上一ノ四一
電話 大阪 ㉞3145

ヒューム管

白蟻

特許

松平式白蟻殺滅予防所
奈良市南城戸南方町28　電話奈良4098
（近日移転先）
奈良市登大路二番町（博物館前）電話奈良4098
出張所　奈良市春日町尾田組内　電話 6011・6012
本部　高知県宿毛市宿毛町2639

FUTABAYA DECORATORS, LTD.

建築物船舶等造作工事
家具・建具・室内装飾工事　設計施工
内外織物・敷物類一式
（創業大正7年）

若 二葉屋装備工業株式会社
取締役社長 若林繁吉
大阪市大淀区本庄川崎町2の6
（天六電停西北2丁）
電話・豊崎㊲3321～3・3630

リブ付塗装合板
美装パネル
吸音多孔合板
ベニヤトーン
日楽の繊維板
ヤマハボード
二重色調浮出柄
カラーボード
ポリエステル化粧板
ポリプライ
線條塗装合板
ラインボード
ビニール合板
ビニライト
立体塗装合板
カーベライト
九つの特長を誇る
九徳天井板



モデルルームへどうぞ

一歩でも時代感覚に先駆しようと努力しています

大阪市浪速区幸町通3丁目20
浪速合板
電話 新町(53) 2201-3番

工場 大阪市住吉区西加賀屋町4丁目81・電話 住吉(67)5109

鈴木式防火シヤタア

鈴木シヤタア工業株式会社大阪出張所

株式会社 **鈴木シヤタア商会**

大阪市北区茶屋町33　電話 ㊲ 0098・5837・8729

コペンハーゲンリブ

商月報無料送呈

井田ベニヤ

井田商事株式会社

大阪市淀川区西円手町一〇一七番地 淡町駅貨物八号門前

電話 (53) 4890・(54) 0808~9

低水位の地盤に

地建の合成基礎杭

木杭にほんの僅かな工費が嵩むだけです

責任施工 **地建工業株式会社**

大阪市北区絹笠町50堂ビル内電㊱2701

軽量鉄骨・軽量鋼製窓枠の

設計・加工・販売

新鋼建設工業株式会社

取締役社長 吉田信武

大阪市西区新町通2—25

電話大阪㊸6575・0609



Standard Board&Slate

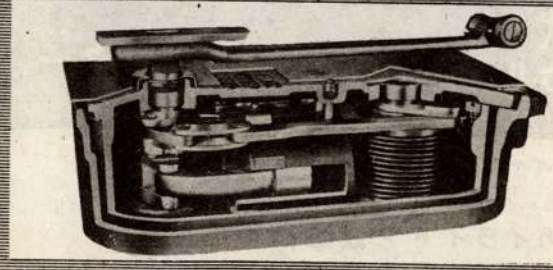
フタバ黒板

大阪市東住吉区桑津町三丁目101番地 電話天王寺(77)4692番

S.K ユートピア

近代人の感覚にマッチする

S.K.ユートピア印の フロアーヒンヂ



カタログ御入用の節は御申込み下さい

製造元 **敷島金物株式会社**

布施市横沼町1丁目46番地　電話 布施(72) 839番

東京都千代田区神田和泉町1ノ11　電話 東京(866) 3051~2番

豊国セメント株式会社

本　社　福岡県苅田町
事務所　小倉・大阪・東京

責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルト
モルタル工事

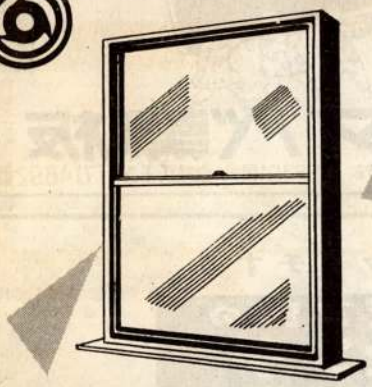
N.G.C式

メタリヤンメッシュD.M38番責任施工
米国パブコ.コンパウンドアスファルト販売

内外工業株式会社

脇山静夫
本社　大阪市阿倍野区旭町一ノ五一　電話(64)3434～6
工場　大阪市阿倍野区旭町二ノ六六

N.G.インシュライト断熱材製造発売元



STEEL DOOR SASH

営業品目　鉄道車輌の製造
土木建設機械の製造
建築用鋼製建具扉の製造

布施市橋本一番地の一

近畿車輛株式會社

TEL (72) 2231代表直通 (72) 2434

40年の伝統と経験を誇る

内外式
バーチカル(電動式)ベンチレーター

自然換気の15倍・従来のものより5割も効率大

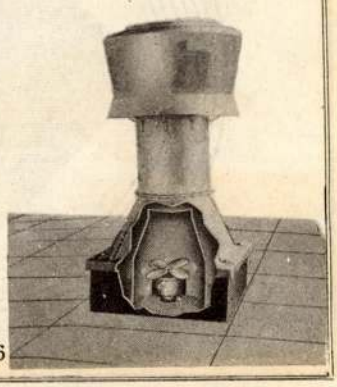
工場・発電所・病院・ボイラー室・倉庫・料理店等
特に熱及び臭気の発生する所に最適です

内外式スカイライト・波型硝子完全葺
内外式ベンチレーターコンチニアス並二筒型

設計施工

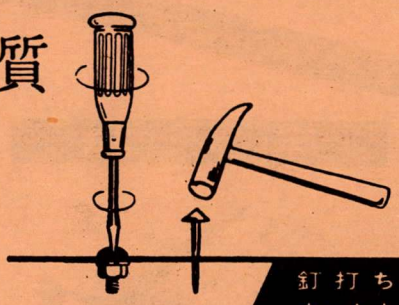
株式会社 内外土木建材社

大阪市西区土佐堀船町23（大阪商工ビル）　TEL(44) 3983・4396



丈夫で使いやすい第3の材質

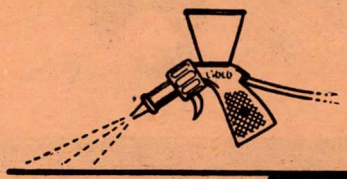
ゴールデンボードを



釘打ち・ビス
ナット止め可能

Golden BOARD

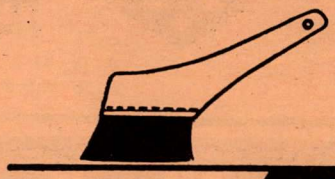
建築・家具
造船・車輌
キャビネット



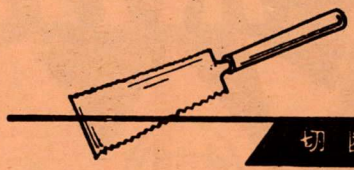
吹きつけ自由

JISA 5907 1957 1号

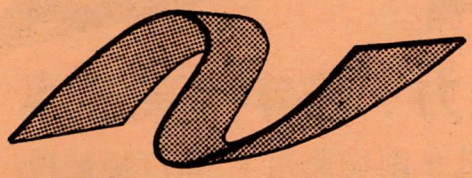
ゴールデンボード



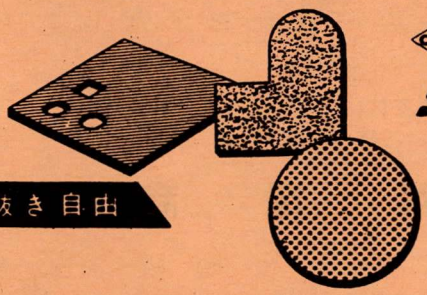
ハケ塗り簡単



切断容易



曲げ可能



打抜き自由

代理店（イロハ順）

伊藤忠商事株式会社　東京(66)1211 名古屋(23)4552 大阪(27)2251

安宅産業株式会社　電話東京(286)101 名古屋(23)2161 大阪(23)2751

三菱商事株式会社　電話東京(28)1021 名古屋(23)2111 大阪(36)1231

住友商事株式会社　電話東京(27)5551 名古屋(9)2631 大阪(26)6781

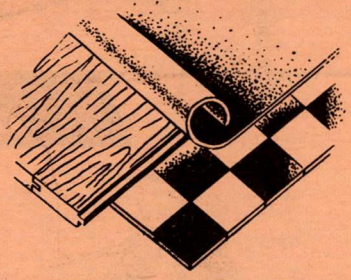
日本ハードボード工業株式会社

本社　名古屋市中区広小路通6－3　住友銀行名古屋ビル
電話　本局　(23)　代表　1281

・カタログ御請求の節は誌名御記入下さい・

タムラ 最高の品質・新しい建築資材

床　　材



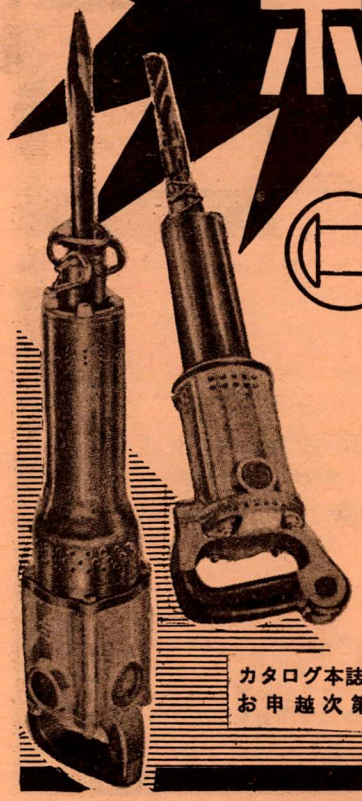
フローリング　さくら・なら・ぶな
ブロック　さくら・なら・ぶな
パーケット・寄木　さくら・なら・ぶな
アピトン・桧床板
三星印アスファルトタイル
東洋リノリューム
田村式コンベス床

創業明治24年
貿易・木材・建材

田村商會 建材部

本　店・神戸市生田区栄町通二丁目三九(安田火災ビル)　電話神戸③局0591—3・5092—3・0498
支　店　東京都中央区八重洲一丁目一 西河岸橋西詰　電話東京㉗局6181・6182

ボッシュ電動式ハンマー



強力・堅牢・高能率

穿孔・削切兼用・(電灯線使用)

コンクリートの穿孔，削切
目粗しに高性能を発揮します。

独乙ロバート・ボッシュ会社製
日本総代理店

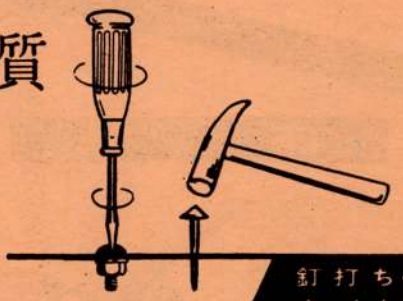
株式会社 峰岸商店

大阪出張所
大阪市西区江戸堀上通1丁目8番地
電話土佐堀㊹0842・2181

カタログ本誌名記入
お申越次第進呈

丈夫で使いやすい第3の材質

ゴールデンボードを



釘打ち・ビス
ナット止め可能

Golden BOARD

建築・家具
造船・車輌
キャビネット



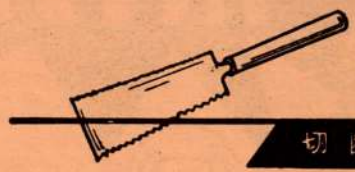
吹きつけ自由

JISA 5907 1957 1号

ゴールデンボード



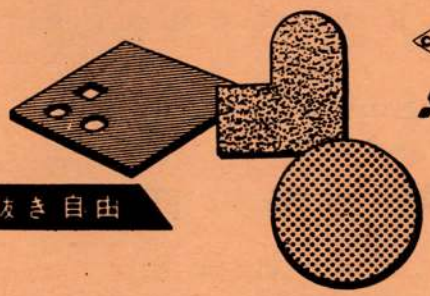
ハケ塗り簡単



切断容易



曲げ可能



打抜き自由

代理店（イロハ順）

伊藤忠商事株式会社　東京(66)1211 名古屋(23)4552 大阪(27)2251

安宅産業株式会社　電話東京(286)101 名古屋(232)161 大阪(23)2751

三菱商事株式会社　電話東京(28)1021 名古屋(23)2111 大阪(36)1231

住友商事株式会社　電話東京(27)5551 名古屋(9)2631 大阪(26)6781

日本ハードボード工業株式会社

本社　名古屋市中区広小路通6－3　住友銀行名古屋ビル

電話　本局　(23)　代表　1281

・カタログ御請求の節は誌名御記入下さい・

タムラ 最高の品質・新しい建築資材

床　　材



フローリング さくら・なら・ぶな
ブロック さくら・なら・ぶな
パーケット・寄木 さくら・なら・ぶな
アピトン・桧床板
三星印アスファルトタイル
東洋リノリューム
田村式コンベス床

創業 明治24年
貿易・木材・建材

田村商會 建材部

本　店・神戸市生田区栄町通二丁目三九(安田火災ビル)　電話神戸③局0591—3・5092—3・0498
支　店 東京都中央区八重洲一丁目一 西河岸橋西詰　電話東京㊸局6181・6182

ボッシュ電動式ハンマー



カタログ本誌名記入
お申越次第進呈

強力・堅牢・高能率

穿孔・削切兼用・(電灯線使用)

コンクリートの穿孔，削切
目粗しに高性能を発揮します。

独乙ロバート・ボッシュ会社製
日本総代理店

株式会社 峰岸商店

大阪出張所
大阪市西区江戸堀上通1丁目8番地
電話土佐堀㊹0842・2181

PABCO GRIP-DEK

床には パブコ グリップデック

滑り止・軽量・耐火・防蝕の特質があり
木，鉄，コンクリートに完全密着するマスチツク・フローリングです
主なる用途　化学工場床・船舶甲板・プラツトホーム・廊下・その他何れの床にも耐久性で調和のとれた色彩に応じられます

耐酸化学工業株式会社
大阪市北区高垣町80　電話大阪㊱0178・4161(代)

(説明書呈上)

CERA BOARD

石膏ボードは進化した！

火に遭えば陶器となり
水に遭えばスレートになる

セラボード

関西地区販売店

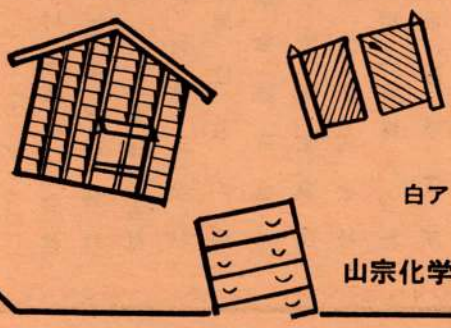
青盛建材株式会社　広島市鉄砲町108　TEL中②2281～3
中央建材株式会社　大阪市南区難波新地1—36　TEL ㉕ 6531・2431
株式会社 室谷商店　大阪市北区絹笠町50　TEL ㊱ 2021・3486

ミツナ式

スチールサッシュ
スチールドアー
スチールシャッター
鋼製建具

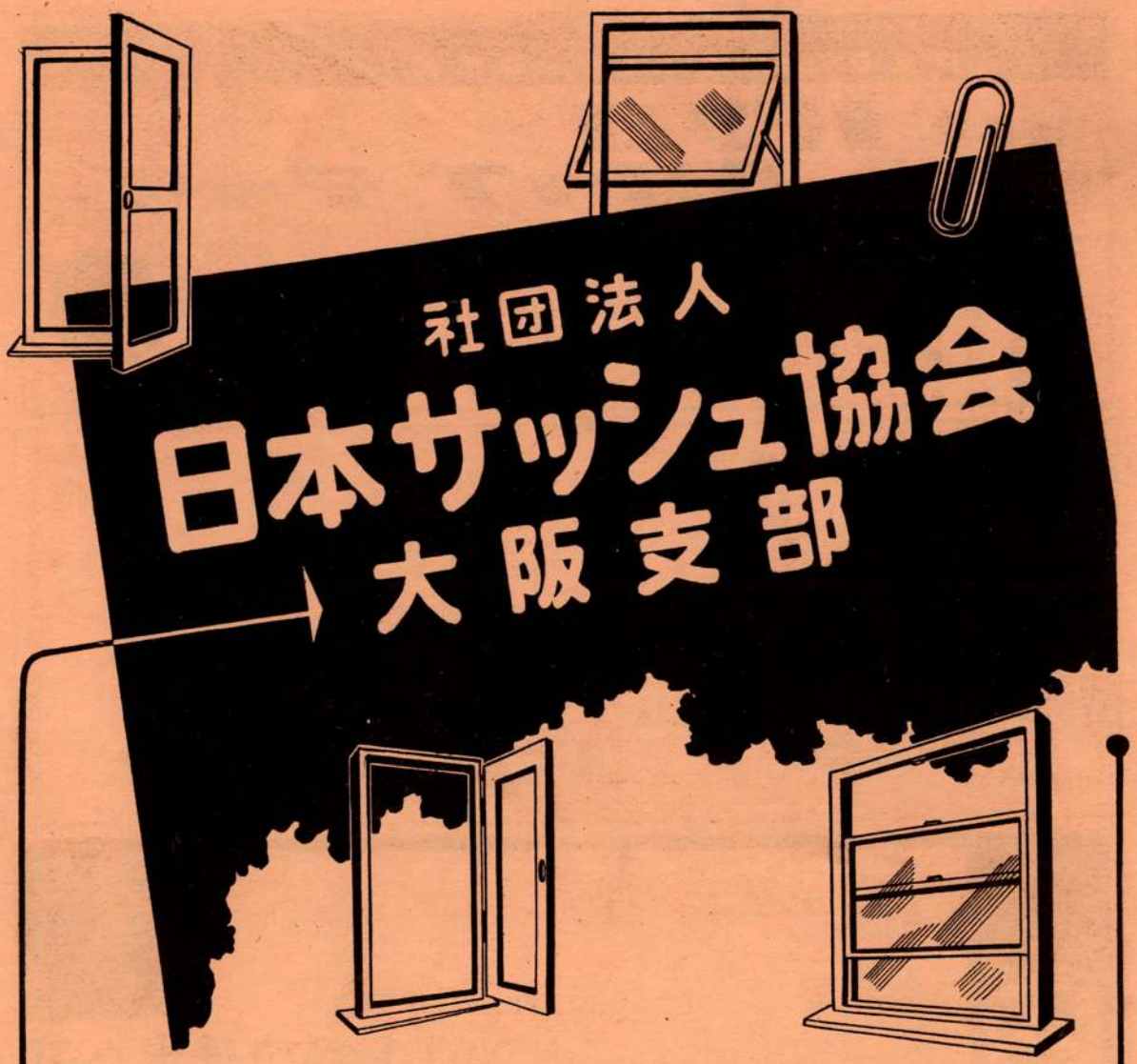
製作販売
ミツナ鋼建株式会社
京都市南区油小路通り十条下る
電 ⑤ 6393 6635

住宅や家具につく白アリや害虫を退治します、その上「アリノン」は
くされ・かびにも特効があります。



白アリに アリノン

山宗化学株式会社　東京都中央区八丁堀2丁目3番地 電話 (55) 5292・3634・0729
大阪市西区江戸堀下通2～38西船場ビル 電話土佐堀 (44) 7715・2803



大阪支部　大阪市東区道修町1—3（花房ビル）　電話 北浜㉓4975番
支部長　福田好雄

（アイウエオ順）

朝日建材工業株式会社
旭鋼鈑工業株式会社
麻村サッシュ工業株式会社
尼崎建材株式会社
株式会社岩住鉄工所
栄進鋼業株式会社
栄進社大阪営業所
大阪機工株式会社
大阪建材工業株式会社
株式会社大阪鉄工所
大阪理研工業株式会社
加地シヤッター工業株式会社
川鉄商事株式会社魚崎工場
合資会社関西鋼業製作所
三機工業（株）大阪支店
昭和鋼機（株）大阪支店
谷山鋼機株式会社
中国理研サッシュ株式会社
東京鋼板工業（株）大阪支店
浪速建材工業株式会社
西日本規格サツシ株式会社
日東建鉄株式会社
日本建鉄（株）大阪営業所
株式会社汎建製作所
不二製作所大阪支店
理研鋼機（株）大阪営業所

PABCO GRIP-DEK

床には パブコ グリップデック

滑り止・軽量・耐火・防蝕の特質があり
木，鉄，コンクリートに完全密着するマスチツク・フローリングです
主なる用途　化学工場床・船舶甲板・プラツトホーム・廊下・その他何れの床にも耐久性で調和のとれた色彩に応じられます

耐酸化学工業株式会社
大阪市北区高垣町80　電話大阪㊱0178・4161(代)

(説明書呈上)

CERA BOARD

石膏ボードは進化した！

火に遭えば陶器となり
水に遭えばスレートになる

セラボード

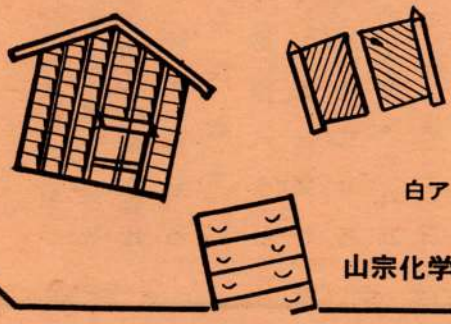
関西地区販売店
青盛建材株式会社　広島市鉄砲町108　TEL中②2281～3
中央建材株式会社　大阪市南区難波新地1—36　TEL ⑮ 6531・2431
株式会社 室谷商店　大阪市北区絹笠町50　TEL ㊱ 2021・3486

ミツナ式

スチールサッシュ
スチールドアー
スチールシャッター
鋼製建具

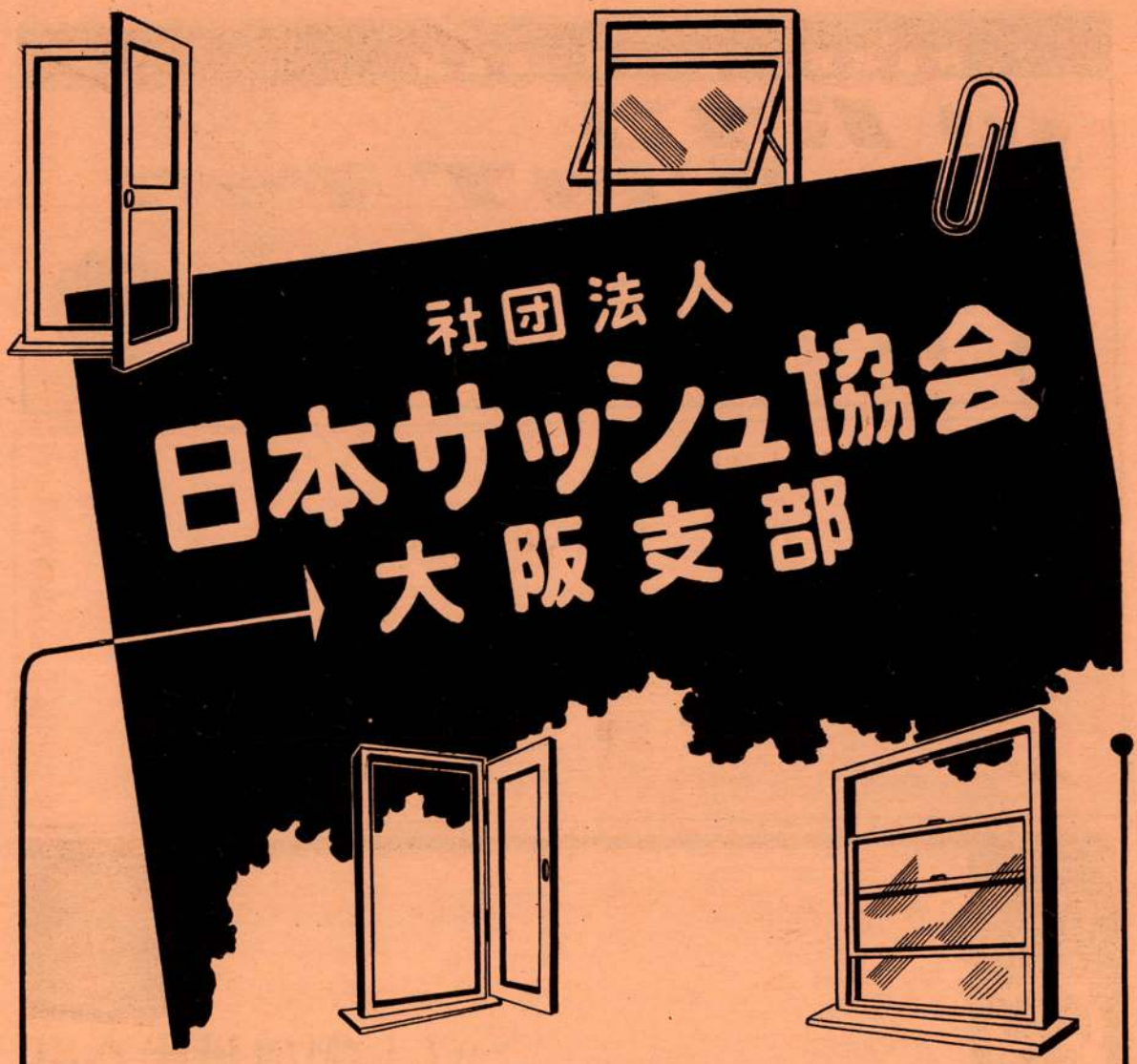
製作販売
ミツナ鋼建株式会社
京都市南区油小路通り十条下る
電 ⑤ 6393 6635

住宅や家具につく白アリや害虫を退治します、その上「アリノン」は
くされ・かびにも特効があります。



白アリに アリノン

山宗化学株式会社　東京都中央区八丁堀2丁目3番地 電話(55) 5292・3634・0729
大阪市西区江戸堀下通2～38西船場ビル 電話土佐堀(44) 7715・2803

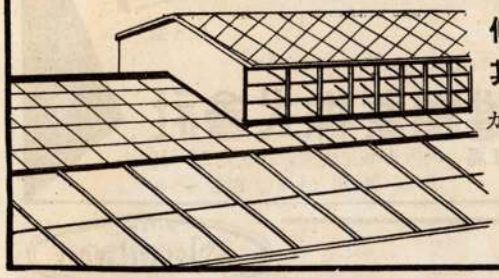


大阪支部　大阪市東区道修町1—3（花房ビル）　電話 北浜 ㉓ 4975番
支部長　福田好雄

（アイウエオ順）

朝日建材工業株式会社
旭鋼鈑工業株式会社
麻村サッシュ工業株式会社
尼崎建材株式会社
株式会社岩住鉄工所
栄進鋼業株式会社
栄進社大阪営業所
大阪機工株式会社
大阪建材工業株式会社
株式会社大阪鉄工所
大阪理研工業株式会社
加地シヤッター工業株式会社
川鉄商事株式会社魚崎工場
合資会社関西鋼業製作所
三機工業（株）大阪支店
昭和鋼機（株）大阪支店
谷山鋼機株式会社
中国理研サッシュ株式会社
東京鋼板工業（株）大阪支店
浪速建材工業株式会社
西日本規格サツシ株式会社
日東建鉄株式会社
日本建鉄（株）大阪営業所
株式会社汎建製作所
不二製作所大阪支店
理研鋼機（株）大阪営業所

岩元式 スカイライト 並 固定筒型 コンチニアス ベンチレーター



サッシュ、ドアー、シヤッター
伸縮扉、オペレーター、門扉鉄柵
其他金物一式製作施工



カタログ進呈

岩元工業株式会社

本社 大阪市東成区東今里町4の40
電話 ㊳0616・0617

ヒルヨシ

耐火 断熱 保温 保冷 防音
吸音 結露 防止 に

焼成蛭石

㊝ 日宝蛭石株式会社

大阪市東区高麗橋3～7 TEL(23)1601.1704.5627.5628 淀川工場・大阪市東淀川区豊里菅原町119 TEL(38)3101

光り 波型ガラス （網入及網ナシ）

ダイニチライト

ポリエステル樹脂
硝子繊維強化板
6尺×2尺4寸(波型)



製造元 大日本硝子工業株式会社

大阪支店 大阪市北区玉江町2—4（三菱倉庫ビル）電話土佐堀㊹3389・1597
本 社 東京都中央区京橋3—6 電話㉘6926～8

冷蔵庫防熱工事
耐酸モルタル工事

アスファルト専門工事

アスファルト防水工事
アスファルトタイル工事
各種床工事

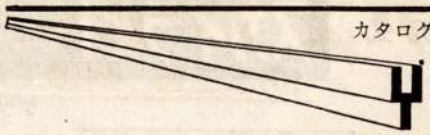
大阪耐酸工業所

大阪市北区浮田町82番地 電話豊崎㊲1333番

（ＪＩＳ）製作工場

スチール.サッシュ
スチール.ドア
スチール.シャッター


NS型


LS型

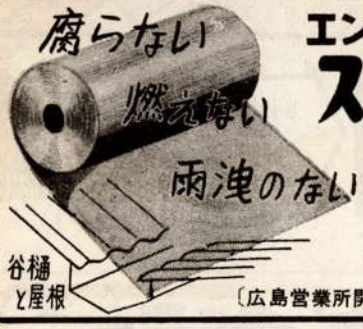
カタログ進呈

パテ切リ不要ノ　〝サッシュバー〟

榮進鋼業株式會社

本社及工場　大阪市城東区野江西之町2丁目2
電話城東㉝8261～3

出張所 福岡 連絡所 名古屋 広島 長崎 富山



エンドレス（長尺もの）
スタンダードメタル
谷樋.屋根に 是非どうぞ

PATENT Standard

スタンダードーメタルの大島化学
エバーブライトの大島化学（アルミ箔ルーフイング）
オーシマライトの大島化学（ポリエステル樹脂積層板）

大島応用化学工業㈱

本社工場　大阪市城東区野江東ノ町4丁目　電話城東㉝3679・4481・8471
第二工場　大阪市城東区古市中通2丁目　電話城東㉝8813
支店　新居浜市西原町　電話2327・2938・3255
営業所　名古屋市 電(中)7025・広島市 電(3)7582 出張所 四日市市 電2065

〔広島営業所開設〕

窓掛、緞帳、日除、壁紙 **室内装飾** 絨毯、舗床材一般

東洋レーヨンの**ナイロン**緞通と絨毯 発売元

亀井株式會社

大阪市東区南久宝寺町四丁目(心斎橋筋)
電話船場（25）1353～5番

経験と技術

Y.C.コンベス（リグノイド）

ゴムタイル
プラスチックタイル
スポンヂシート
アスファルトタイル

大阪コンベス建材社

大阪市北区浪花町三五　電話豊崎㊲6760・7063

標準セメント防水材・特許ニッポン
特許ニッポン防水液・急結液一号（噴水急止）
二号（湧水防止）・姉妹品粉末ニッポン
施工指導並ニ責任模範施工

黒川化学工業所

（国立大阪工業試験所創製）セメント防水材特許権実施工場
（大阪営業所）北区芝田町六八　電話北㉞7916
（本社・工場）神戸市灘区住吉町反高林1876・
御影 ⑧ 2723

風雨に強い **平安瓦**

合資会社
佐村木商店
実用新案

営業所　大阪市東区京橋前之町二　各種瓦葺工事請負業
電話 ㉞ 1528

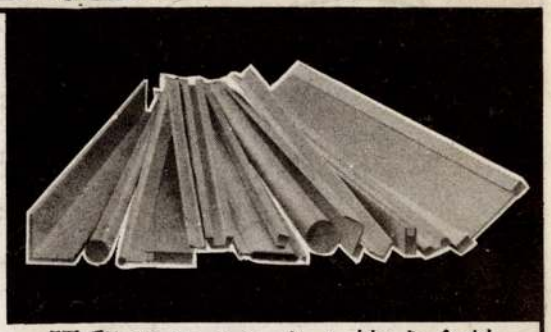
良心的な工事と材料

アスファルト
防水工事．耐酸工事．

ブリヂストンの
エバーソフト
最も進んだゴムのクッション

志垣の 明正社
大阪市北区樋上町45
TEL (34) 8157・8158・8159

昭和アルミの
押出型材



アルミニウムの押出型材は複雑な型状のものが容易に作れ、製品コストを下げ、軽く、美しく、錆びず、合金によって鉄鋼に匹敵する強度を持ちます。
最近は、建築、船舶、航空機、その他軽工業や家庭器具等極めて広範囲に使用されています。
アルミニウム工業に於て伝統を誇る当社は、最新式押出機により、棒、管、線、その他各種の型材を生産し、急激に増大してきた新しい需要に応じています。

昭和アルミニウム株式会社
本　社　堺市海山町6の224
東京営業所　東京都中央区日本橋堀留町1の12



建築界待望の新扉錠……！
ゴールユニロック
GOAL

シリンダーレバーハンドル錠
押ボタン式シリンダー錠
アンチ式シリンダー錠
シリンダーナイトラッチ
シリンダー抽斗錠
各種高級彫込錠

日本住宅公団・公営住宅御指定
株式會社 谷山製作所
大阪市東淀川区三津屋北通四丁目・電話(37)3117・5871・7724

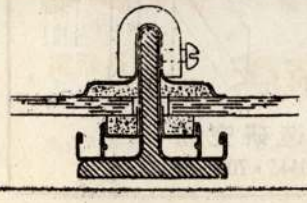
石綿セメント製品の最高水準を行く!!
アスベストバリヤ（硬質石綿板）
Asbesto. Barrier

建物内外壁、間仕切、天井扉
電気室、発電所、配電室、製鋼
ガラス工場の壁、製糖、製油
製薬工場の床スカート壁など
に最適

呈カタログ

泉石綿工業株式会社
大阪市北区北同心町1丁目11
電話堀川㉟3442・4078

坂本式
スカイライト



営業種目
坂本式 スカイライト 坂本式 ベンチレーター
坂本式 連続通風装置 一般建築鈑工場

坂本商会大阪出張所
大阪市東区平野町1～4 電話 北浜㉓4643
本社 東京都中央区日本橋江戸橋1—11(明治ビル)
電話千代田㉗7266・9859・9918
工場 東京都墨田区寺島町2—50
電話城東㉘3918

坂本式
ベンチレーター



三高式　ドアーハンガー　　スチールサツシュ
三高式　オペレーター　　スチールドアー
三高式　重量戸車　　スチールシヤッター

TRADE MARK
M.T.K.S

株式会社　三高製作所
本社工場　大阪市東淀川区西中島町7－69　電話大阪 ㊲ 1754(代表)

伝統に輝く
優秀な製品

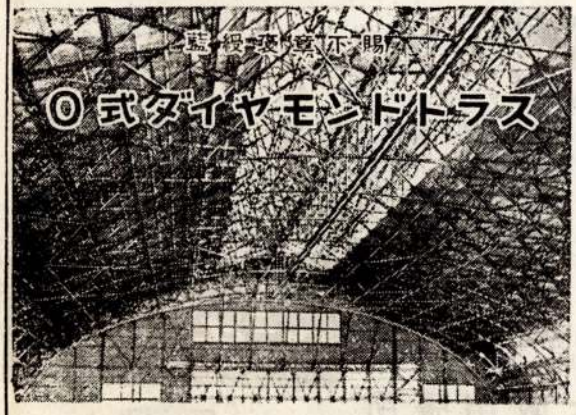
スチール　サッシュ
スチール　シャッター
スチール　ドーア

新規製品
完全密閉片引き窓
気密度極めて高く
開閉軽快・堅牢・低価

株式会社　汎建製作所

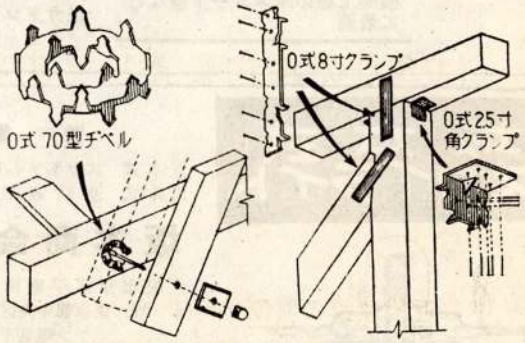
大阪市此花区恩貴島北之町11　電話 此花 ㊻ 2903・4461

鉄材が少くてすみ施工簡易な格納庫・工場・体育館の建築には
"ORIMOTO" DIAMOND TRUSS

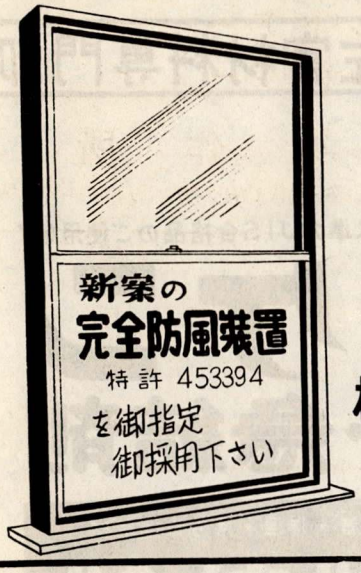


設計の御依頼に応じます（施工は御自由です）
カタログ及び設計参考資料贈呈
考案　織本建築設計計算事務所
東京都中央区日本橋瀬戸物町3～2（水天宮交叉点角）TPL（67）6443・7007・7062

官公庁御採用　耐震耐風木材接合金具
住宅、工場、学校、集会場、体育館にまた2階梁に
PAT O式ヂベル
PAT O式クランプ



販売　織本特殊構造研究所



不二サッシ

◦機械設備の充実　◦絶対責任製作
◦卓越せる技術　◦堅牢軽快優美

株式会社 不二製作所大阪支店

大阪市西淀川区御幣島町中三ノ四
電話淀川㊼1220・1454～6・4414～5
本社及び工場　川崎市中丸子一三五　電話田園調布㉜4261～5

マヂック　ペイント

ゼラン

ゼリー状壁塗料

JELLUN

特　長

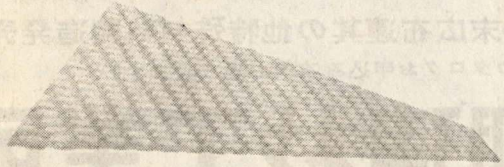
- 1回塗りで肉厚仕上げが出来る。
- 刷子，ローラー，スポンヂでも塗装が容易で，垂れたり流れたりしないので衣服を汚すことは殆どない。
- 乾燥が速い（指触30分）ので作業が容易である。
- ゼリー状のため使用前攪拌の必要がない。

大　阪　**日本ペイント**　東　京
名古屋・福岡・札幌

MIZUSHIMA

MOP MAT WAX
モップ　マット　ワックス

100万の建物を美しくする



近代建築の玄関に
新しいデザインのマット

★洋式清掃用品専門店★
信用と品質を誇る店

OSAKA **ミヅシマ** KYOTO

☆ユービー金属マット・五輪印床油☆
☆ユービーゴムマット・五輪印モップ☆
☆ラインゴムマット・五輪印マット☆
☆カラーラインマット・五輪印ワックス☆
☆ニューラインマット・各種手入用品☆
ホーム・ソフト・モップ　発売元

株式会社 **水　島　商　店**
MIZUSHIMA CO. LTD
大阪店・大阪市西区北堀江上通一丁目
TEL ㊸ 3514 8246
京都店・京都市中京区蛸薬師烏丸西入
TEL ② 5363 0214
工　場・京都市右京区西院松井町八
TEL ㊹ 1697

SK

特殊壁材製造と左官材料専門卸



★セメント防水剤は世界的水準のJIS合格品のご使用を！

シンケン
防水剤・急結剤

★近代建築の和洋室内壁に防音・保温・落ちぬ塗壁材

いすゞかべ

★劇場・洋室・学校講堂・公会堂の内壁に防音・保温の

チエリーウオール

★純日本趣味の塗り良い優雅な壁……

★新発売★ 錦壁

★セメント・石灰・プラスターの着色に純鉱物性不変色の…

チエリーカラー

★セメントの（アク）でお困りの場合に

シンケン セメント(アク)止剤

水溶性特殊接着剤〝シンケン糊〟桜印酸化黄
ラスヒゲコ・末広布連其の他特殊材料製造発売
（カタログお申込み次第お送りします）

株式会社 新興建材工業所

本　社　大阪市西区四ツ橋　電話・(53)1988・9720 (54)1988・1356
工　場　大阪市住吉区東長居町３６　電話　住吉（67）　２１２

color conditioning for flooring

プラスタイルP

（Pタイル）

カタログ・見本御申込
次第お送り致します。

責任施工代理店（順不同）

〔近　畿〕

三友工業株式会社
大阪営業所
大阪市東成区大今里町655
大阪セルロイド会館内
電話今里㊾8031～4

合名会社　利倉幸商店
大阪市南区長堀橋筋2ノ20
（日本橋電停前）
電話南㊼471・472
京都出張所
京都市中京区河原町夷川下ル
電話③3299

株式会社
木下謹三商店
大阪市西区江戸堀南通5ノ35
電話土佐堀㊹5408・5486

株式会社
久保商店
大阪市北区真砂町5
電話北㊱207～8・4836～7

タテバヤシ商店
京都市上京区大宮通四条下ル
電話壬生㊽4468

石井建材有限会社
神戸市兵庫区荒田町1
電話湊川⑤2697・2140

〔中国・九州〕

青盛建材株式会社
広島市鉄砲町108
電話中②2281～4

青盛建材岡山営業所
岡山市東田町3
電話②7911・8169

青盛建材福岡営業所
福岡市万行寺前町14
電話東③1225～6

〔東　海〕

株式会社
名建商会
名古屋市中区宮出町41ノ2
電話中㉔1329・2106・2817

合資会社
岡田建材店
名古屋市西区西菊井町2ノ12
電話西㊸0121・2057

和泉産業株式会社
大阪市南区日本橋筋2ノ36
電話戎㊹3286

関西三星タイル会

優秀技術を誇る！

麻村の

A

スチール
サッシュ
ドアー
シヤッター

責任・設計・製作

麻村サッシュ工業株式会社

本　社　大阪市城東区野江東之町1－12　電話大阪㉝0342・1859・2854・5272・8016番
第一工場　大阪市城東区野江東之町1－11　第三工場　大阪市城東区古市大通2－28
第二工場　大阪市城東区野江西之町1－15　第四工場　大阪市城東区天王田町1－171
営業所　名古屋市中区下日置町2－25(日置ビル内)　電話名古屋㉜4006
出張所　金沢・広島・松山

黄綬褒章受賞

特許 奥山式熱工法 冷工法 綜合防水層

カッパー防水帯

C.F #38

COPPER-BOSUITAI
OAM
TRADE・MARK

カッパーメッシュ
コーパータイト

耐酸耐油工事
アスファルト工事一般

製造元 奥山化工業株式會社

東京都中央区銀座西8丁目3番地・電話 銀座 57 2703 4・2370・4064・0264

新らしい建築には..最も新らしい塗料

合成樹脂製

マスター（艶アリ・艶ケシ）（調合ペイント）　建築物（木部・鉄部）内外部・塗装用

サビコンS（さび止ペイント）　サッシュ鉄骨等凡ゆる鉄材製品のさび止用

PCL 大信ペイント株式会社

本　社　大阪市東淀川区三津屋中通四ノ四　電話㊲7371～3
支　店　東京都墨田区竪川四ノ四　電話㊸1351
出張所　札幌・名古屋・広島

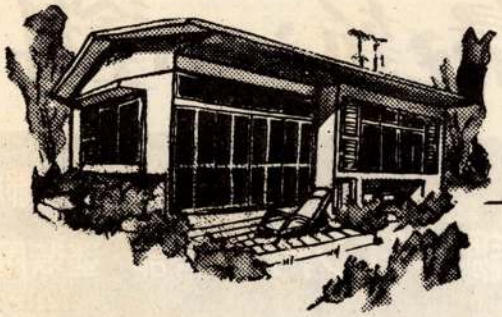
NK 浪建式

スチールサッシュ・ドアー
シッヤター・オペレーター
―製造販売―

日満ゴムタイル
全国総代理店
責任施工

大正十四年創業　**浪速建枝工業株式會社**

本社・工場・大阪市城東区野江中之町一丁目九番地　電話城東㉝1171～3番
東京営業所・東京都中央区銀座東六丁目木挽館ビル六号館607号室　電話東京㊹4611
福岡営業所・福岡市天神町三番地（サンビル内）　電話福岡④8462番
出張所・大分市栄町下市三一七番地　電話大分1366番



家を建てたら：
ツヤ出しケントク

——板の間・廊下に——→

新築に

水拭きではすぐに黒ずみニス・ラヅカは白木の味をなくし、はげると見苦しくなりますが、すべらぬ白木艶出ケントクを月に一～二回ぬりこめば毎日はカラ拭きで新築そのまゝの美しさを保ちます。



板の間廊下のすべらぬ白木ツヤ出し

ケントク

白木液体ケントク一升罐四九〇円で約十五坪、丸罐半ポンド二九〇円で約五坪みがけます



大阪市東淀川区新高南通 1—14　KKケントク　電話㊴1658・1416
0864～6

防錆処理には
ボンデライトを
自家設備一貫作業



サッシ
ドアー
シヤッター
オペレーター

建

大阪建材工業株式會社

営業所　大阪市南区九郎右衛門町20番地　電話㉕代 836-839・830
本社工場　堺市松屋一丁目6番地　電話堺 4800-4801・1586
出張所　名古屋　金沢

特許神田式

あらゆるシャッターの
専門メーカー

日本シャッター

本社・大阪工場　大阪市東淀川区田川通6丁目38　(電) 代37-8565
東京工場　川崎市新丸子東3丁目1159　(電) 047-5350
九州工場　福岡市榎田町1268　(電) 2-6708
名古屋支店　名古屋市中区宮出町23　(電) 24-4811
営業所　高知・岡山・高松・姫路
代行店　全国主要都市ニアリ

日本建築協会優良證明

セメント増強防水剤

ウォータイトB号

CEMENT WATER-PROOF WOTAITO

株式会社 日本セメント防水剤製造所

仕様書型録贈呈

本社　兵庫県宝塚市高台上の池北28—1　電話宝塚2153
工場　尼崎市難波本町1—34　電話大阪㊽8544(代表)
出張所電話　東京(43)0874　仙台(3)0721・名古屋(32)1331

ウォータイト式防水工事代行店電話　高山工業 東京(25)0161～3・安藤工事 福岡(3)5765・大三工業 高松6710

紫綬褒章に輝く

JIS合格モルタルコンクリート用

特許特マノール防水剤

特許マノール急結剤　特許マノール接着剤

八幡メタルホームKK推奨品

責任・施工・請負

株式会社 油脂化工社

本社　東京都品川区二葉町1—441　電話荏原㊽1715
大阪営業所　大阪市東成区西今里町2—48　電話㊾4765・0063

取締役社長　矢中龍次郎

昭和二十四年三月十九日第三種郵便物認可
昭和三十三年九月二十日印刷
昭和三十三年九月廿五日発行（毎月廿五日発行）

高圧 朝日スレート

米国式 朝日コンクリートブロック

A.S.K.

朝日石綿工業株式会社

大阪営業所　大阪市北区神山町四六　電話 大阪 ㉞ 7236代表～9 2095夜間専用
本　　社　東京銀座七.営業所-東京.横浜.名古屋.岡山.九州.北海道
工　　場　東京.横浜.山梨.名古屋.大阪.岡山.門司.宮城

吸音サンライト

厚さ	大きさ	孔	ピッチ	孔数
1.3分 1.5分	1尺角	5 ㍉	15 ㍉	18×18
1.3分 1.5分	1.5尺角	9 ㍉	23.8㍉	18×18

1.3分厚¥1,400（坪）1.5分厚¥1,600（坪）

接着剤はセメダインKKの
サンライトセメダイン

厚さ	標準サイズ	重量(枚)	価格(枚)
1.3分（4㍉）	3尺×6尺	6.0kg	¥ 390
	4尺×8尺	10.7kg	¥ 850
1.5分（5㍉）	3尺×6尺	7.7kg	¥ 620
	4尺×8尺	13.5kg	¥ 990
2.0分(6.5㍉)	3尺×6尺	10.5kg	¥ 800
	4尺×8尺	18.5kg	¥1,300

硬質繊維板（ハードボード）

サンライト

製造元 日本レイヨン株式会社

厚さ	大きさ	凸部	凹部	価格(枚)
1.5分	3尺×6尺	30.5㍉ 62.5㍉	20㍉	¥ 750
2.0分	2尺×8尺	56.5㍉ 30.3㍉	30㍉	¥ 750

リブサンライト

売価一部金百八十円（送料共）